

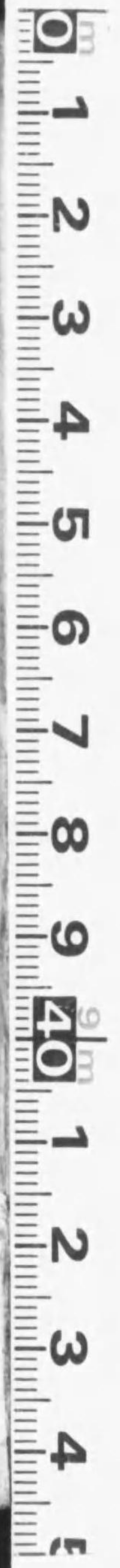


特264
202

庫文館文博
-(40)-

大菊の作方

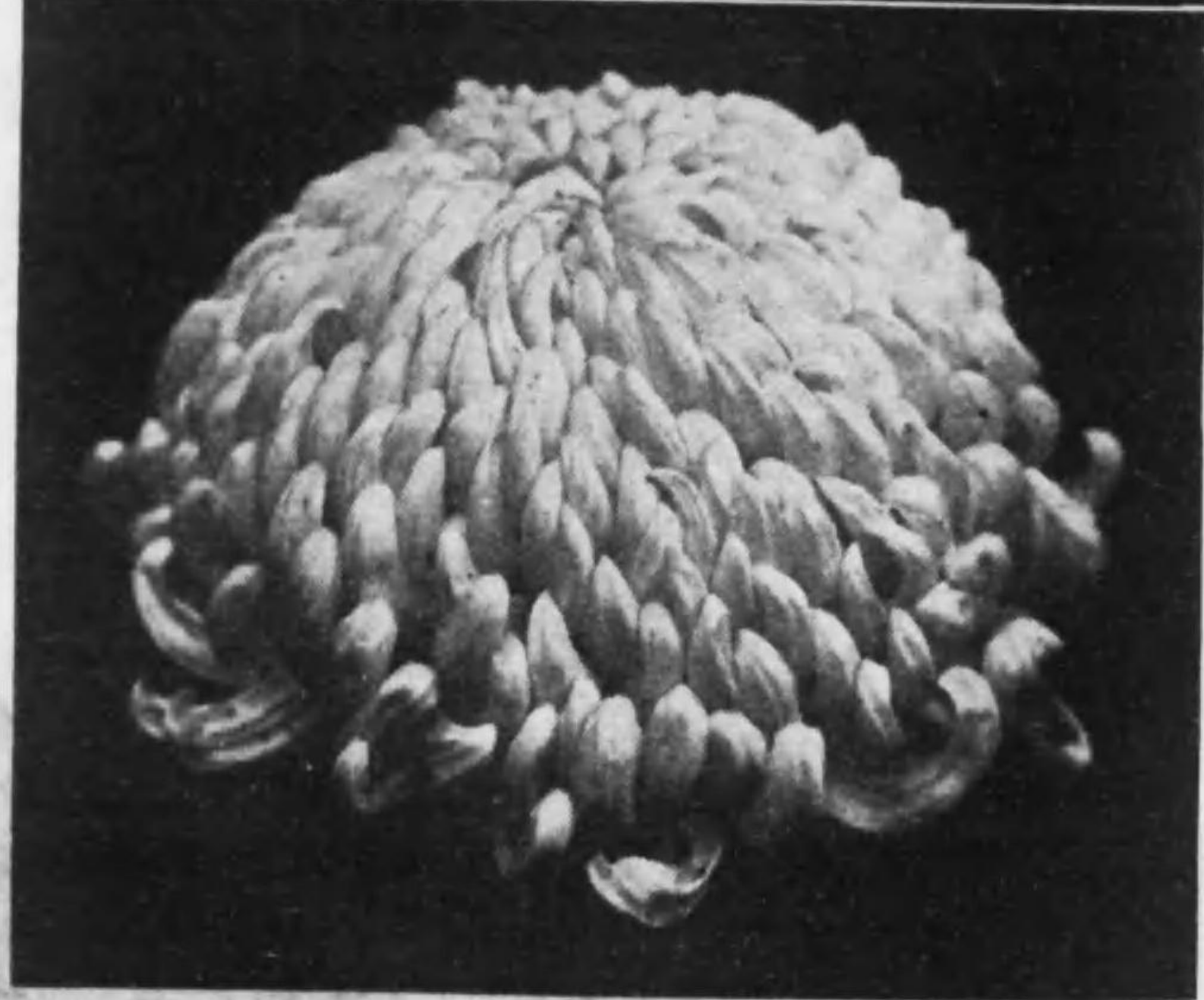
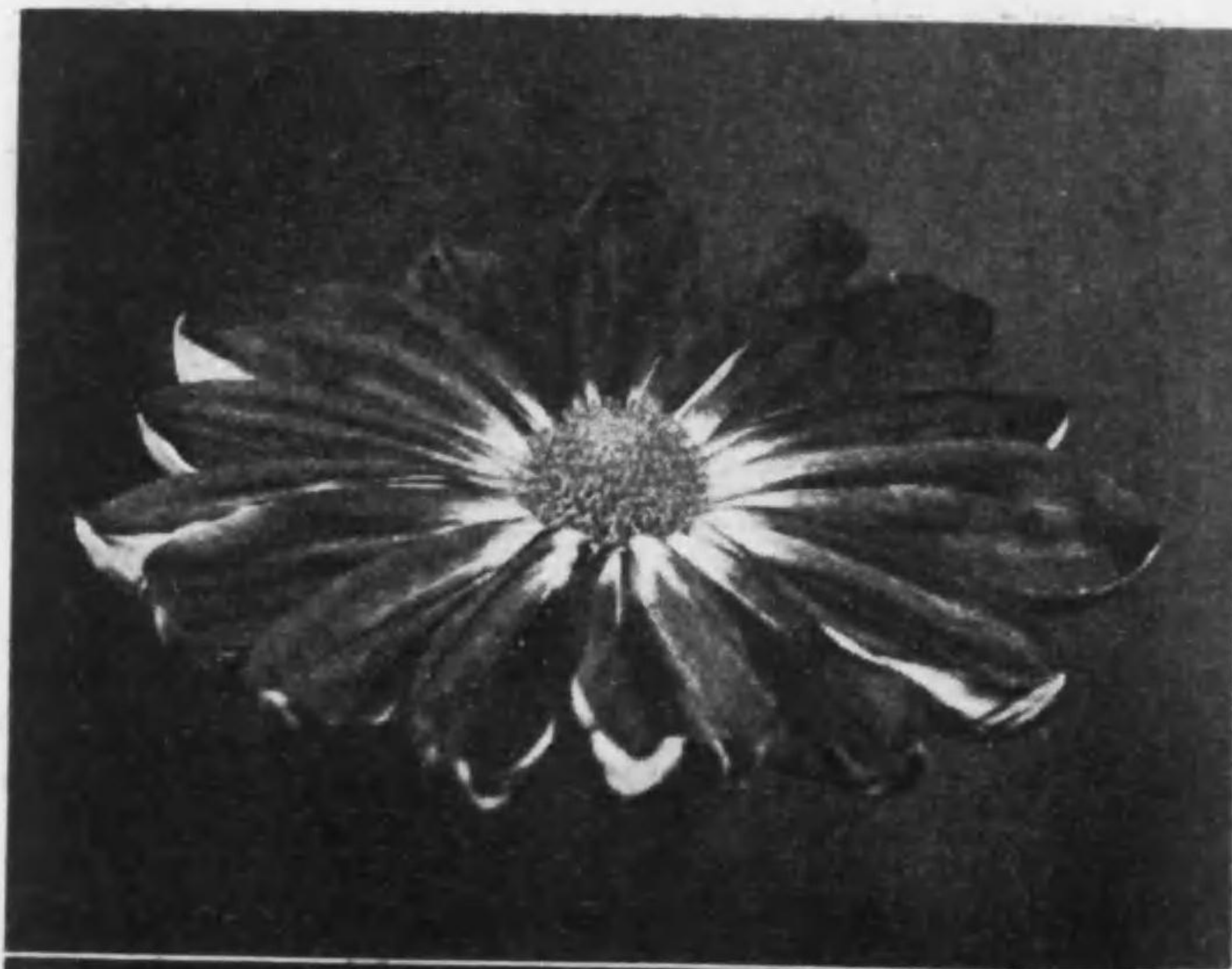
農業界編輯局編



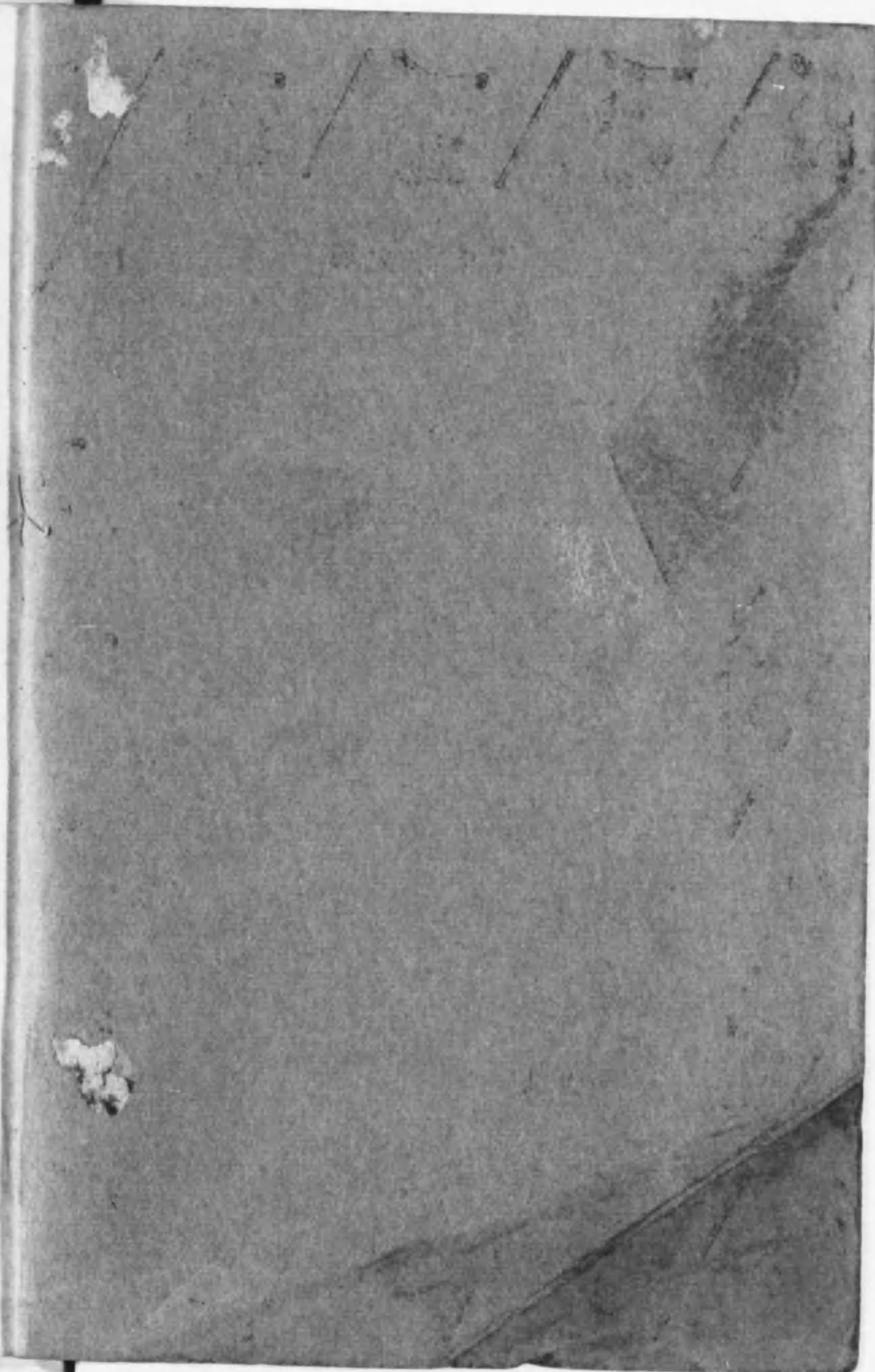
始



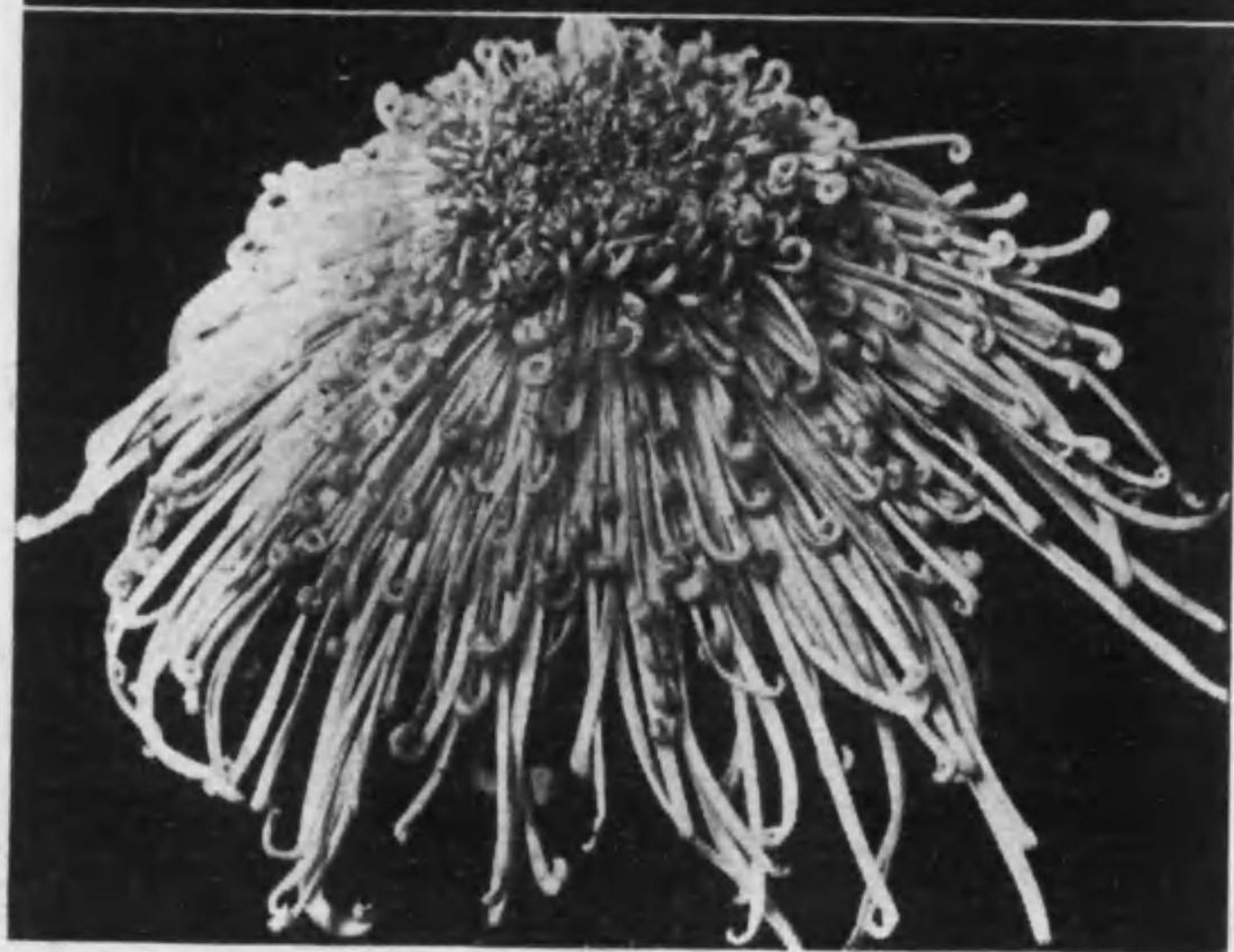
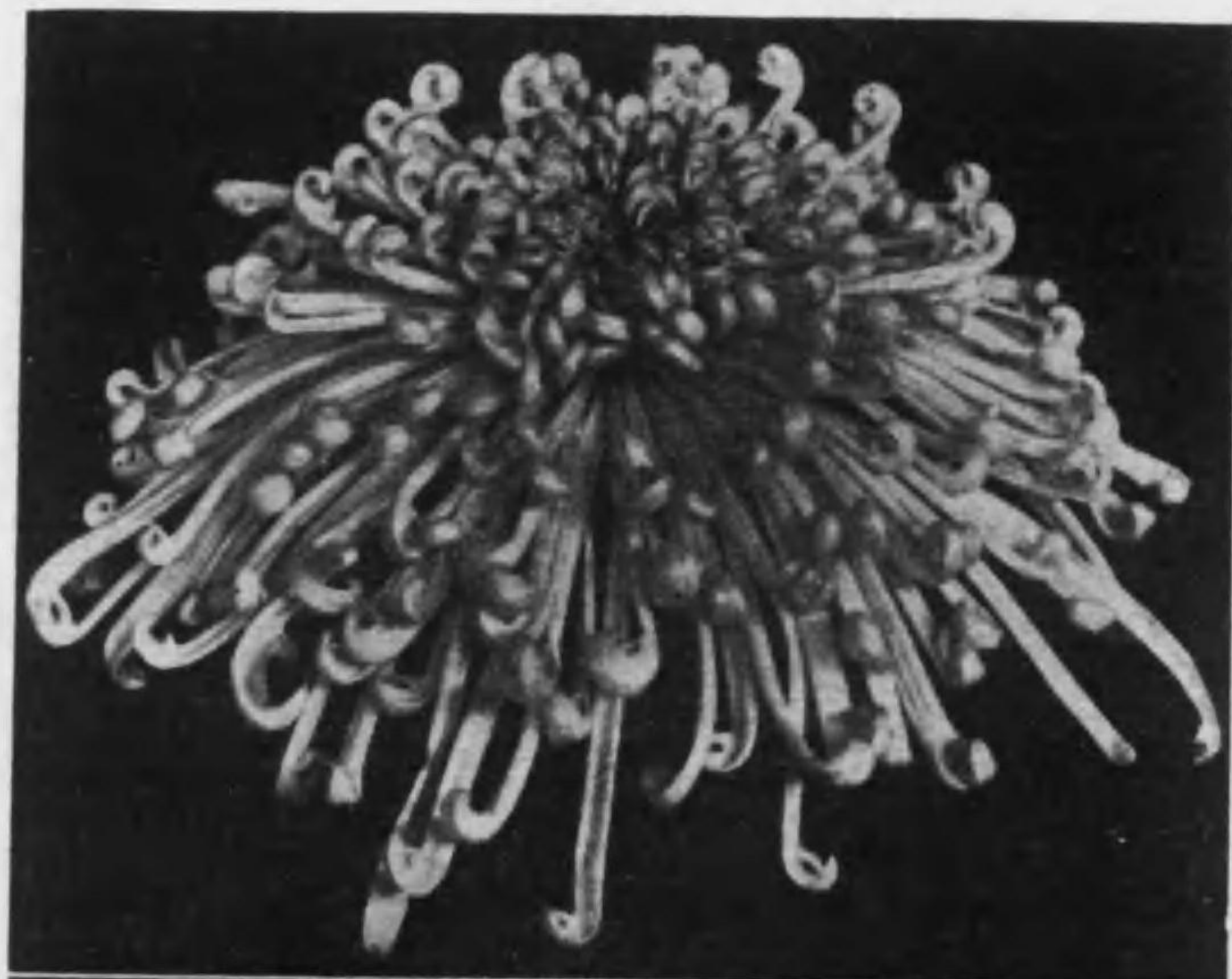
一文字菊 (御紋章菊)



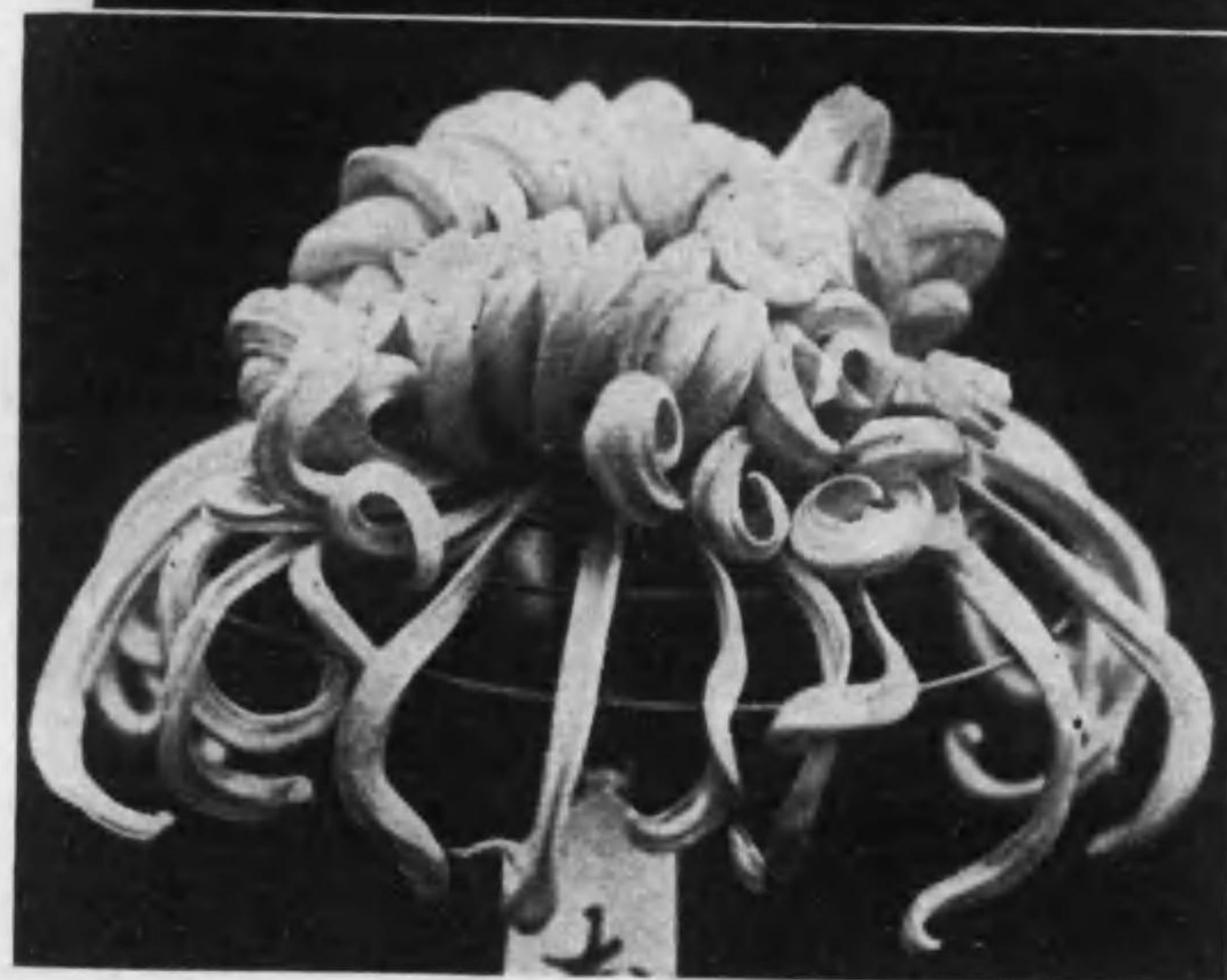
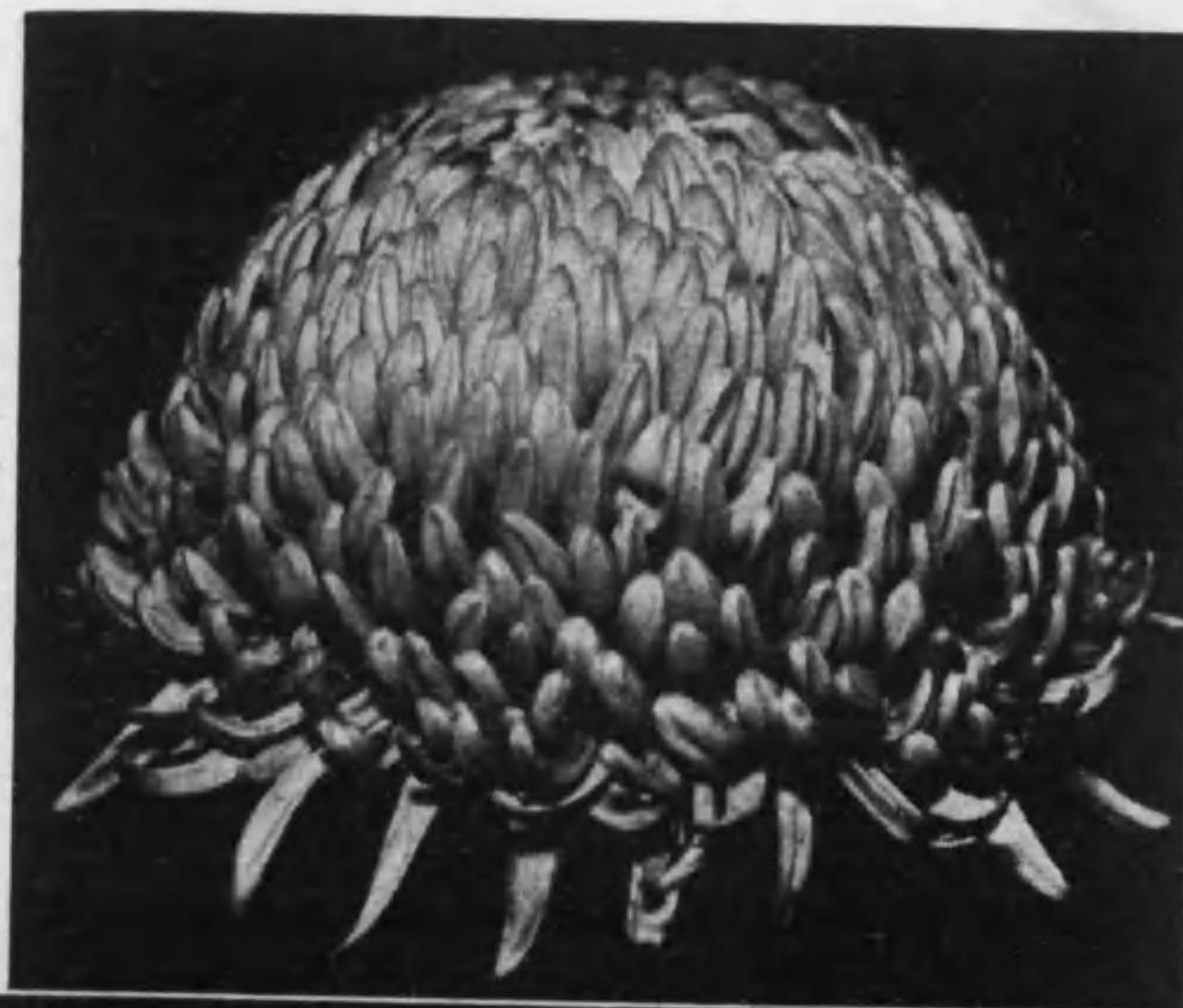
厚物の低盛上げ咲



上圖·太管 下圖·間管



厚走
(厚物走)



大摺菊 (奥州菊・八戸菊)

長 垂 (長管)

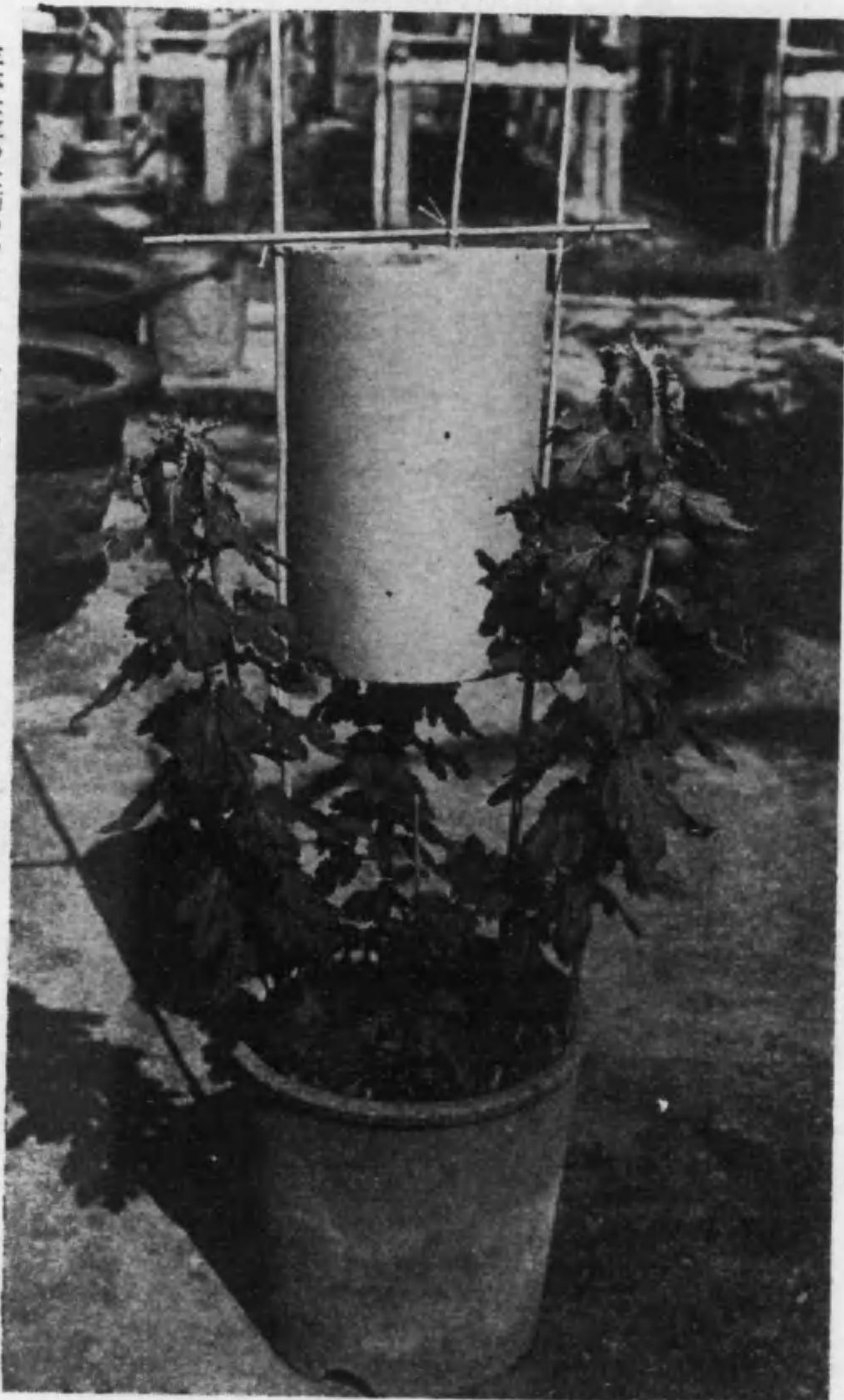


上から針管、間管、細管



大菊の生長促進法

三本仕立の大菊の、そのうち一本の幹の生長が他の二本より著しく遅れた時には、寫眞の如く模造紙で造つた圓筒をその頭にかぶせておきますと、その中の幹は著しく伸長を促進されるものです。



大菊の挿芽 (箱挿)



大菊三本仕立の圖 (本文八十九頁参照)

第264
202


 博文館文庫
 (40)
 大菊の作り方 養秘訣

農業界編輯局



大菊の花壇



培養 大菊の作り方 目次

寫眞及挿畫

- ◇厚走の一種(廣瓣種).....(表紙カッパ)
- ◇一文字菊(御紋章菊).....(口繪二)
- ◇厚物の低盛上げ咲.....(口繪二)
- ◇厚走(厚物走).....(口繪三)
- ◇大綱菊(奥州菊・八戸菊).....(口繪三)
- ◇太管.....(口繪三)
- ◇間管.....(口繪三)
- ◇針管・間管・細管.....(口繪四)
- ◇長垂(長管).....(口繪五)
- ◇大菊の挿芽.....(口繪六)
- ◇大菊三本仕立.....(口繪六)
- ◇大菊の生長促進法.....(口繪七)
- ◇大菊の花壇.....(口繪八)

- ◇大菊花瓣のいろく.....(三)
- ◇美濃菊(岐阜菊).....(三)
- ◇盆養三本仕立の厚走.....(三)
- ◇大菊三本仕立の基本圖解.....(四)
- ◇厚物三本仕立の摘芯法.....(一九)
- ◇厚物三本仕立の莖の揃へ方.....(二二)
- ◇摘蕾で花を揃へる法.....(二三)
- ◇細管三本仕立の支柱立.....(二三)
- ◇大菊花壇の設計圖.....(二五)

汎論 大山毅

- 趣味の大菊作り.....(六)
- 大菊作りの役徳.....(八)
- 大菊作りの起原.....(二〇)
- 徳川時代の文獻と流行.....(二二)

- 明治年間の大菊.....(一四)
- 躍進する大菊界.....(一五)
- 大菊の作り方いろく.....(一五)
- 盆養法.....(一五)
- 柵作り法.....(一七)
- 特殊栽培法.....(一七)
- 大菊入門の時期.....(一七)
- 先づ師を選べ.....(一七)
- 品種の選擇の仕方.....(一七)
- 大菊苗の入手法.....(一七)
- 培養所と設備.....(一八)
- 必要な用具.....(一八)
- 培養土及び肥料.....(一八)
- 大菊用の鉢.....(一八)
- 挿芽の仕方.....(一八)
- 挿苗の鉢上げと摘芯.....(一八)
- 三本仕立基本の方法.....(一八)
- 柳芽の事.....(一九)
- 主要大菊團體.....(一九)

○著名菊苗業者(附 鉢屋).....(一九)

品 種 大山毅

- 大菊の類別.....(一八)
- 一文字.....(一八)
- 厚物・厚走・大綱菊.....(一九)
- 太管・間管.....(二〇)
- 細管・針管・長垂.....(二〇)
- 美濃菊.....(二二)
- 大菊名花の解説.....(二四)
- 一文字菊.....(二四)
- 白色系.....(二五)
- 雑色系.....(二七)
- 厚物.....(二九)
- 白色系.....(二九)
- 雑色系.....(三〇)
- 厚走.....(三〇)
- 白色系.....(三一)
- 雑色系.....(三一)
- 大綱菊.....(三二)

白色系(四二)	黄色系(四三)
雑色系(四四)		
太管(四六)	黄色系(四八)
白色系(四九)		
雑色系(五〇)		
間管(五一)	黄色系(五二)
白色系(五三)		
雑色系(五四)		
細管(五五)	黄色系(五七)
白色系(五八)		
雑色系(五九)		
針管(六〇)	黄色系(六一)
白色系(六二)		
雑色系(六三)		
長垂(六四)	黄色系(六五)
白色系(六六)		
雑色系(六七)		
美濃菊(六八)		

各論
長野健一郎
相澤喜男
小林道敏

厚物厚走の一本仕立法(九七)
株の保護(九七)
挿芽(九八)
鉢上げ(九九)
本植(一〇〇)
添竹(一〇一)
肥料(一〇二)
摘芽(一〇三)
手入(一〇四)
厚物厚走の三本仕立法(一〇六)
準備(一〇六)
挿芽(一〇七)
鉢上げ(一〇八)
本植(一〇九)
肥料(一一〇)
摘芽(一一一)
手入(一一二)
太管の三本仕立法(一一四)
挿芽(一一四)
鉢上げ(一一五)
追肥(一一六)
摘芽(一一七)
手入(一一八)
太管の一本仕立法(一二〇)
挿芽(一二〇)
鉢上げ(一二一)
摘芽(一二二)
手入(一二三)
細管の三本仕立法(一二五)
株の保護(一二五)
挿芽(一二六)
鉢上げ(一二七)
摘芽(一二八)
手入(一二九)

細管の一本仕立法(一三三)
一文字菊の作り方(一三五)
株の保護(一三五)
鉢上げ(一三六)
摘芽(一三七)
肥料(一三八)
選苗(一三九)
大綱菊の作り方(一四一)
培養土(一四一)
肥料(一四二)
挿芽(一四三)
鉢上げ(一四四)
本植(一四五)
選苗(一四六)
手入(一四七)
大菊花壇の造り方(一五〇)
花壇の位置(一五〇)
大きさ(一五一)
材料(一五二)
造り方(一五三)
陳列の仕方(一五四)
花壇の手入(一五五)
大菊の新作作出法(一六〇)
實生から新花(一六〇)
親木の選擇(一六一)
親木の仕立方(一六二)
大菊の採種法(一六五)
人工交配(一六五)
手入(一六六)

採種(一六七)
大菊の實生法(一六八)
種子の選別(一六八)
播種期(一六九)
播き方(一七〇)
管理(一七一)
出品競技花の作り方(一七二)
技術の練磨(一七二)
品種の制限(一七三)
品種の選擇(一七三)
一本立を作る(一七四)
厚物は早挿(一七五)
管物は締め(一七五)
管物の取扱(一七六)
花容を整へる(一七六)
大菊の切花栽培(一七八)
和菊と洋菊(一七八)
切花向品種(一七八)
露地の切花作り(一七八)
温室の切花作り(一七八)
大菊栽培十一月(一八三)
一月(一八三)
二月(一八四)
三月(一八四)
四月(一八五)
五月(一八六)
六月(一八七)
七月(一八八)
八月(一八九)
九月(一九〇)
十月(一九一)
十一月(一九二)
十二月(一九三)

(目次終り)

趣味の大菊作り

○今になり菊作らうと思ふかな
 實際、今を盛りと美しく咲き誇る菊、殊にうまく丹精された大菊の姿を見ますと、何人も自らさう云つた氣持になり易いものです。趣味の大菊作りは、大抵この邊から始まる様であります。

ところが、一旦始めますと、容易に止められませんが、非常に面白いのです。

その證據と云つて差支へないでせう。昔から趣味の園藝植物は澤山ありますけれども、大菊ほど大衆的で、古くから我國に於て、上下の距てなく、廣く一般に親しまれ、愛培されて居るものはありません。これには勿論いろ／＼理由があります。大菊の何處かに、さう云つた力強い魅力があるのです。次にその主なるものを挙げてみませう。

一、菊花は、畏くも我國皇室の御紋章であります。また國華として、舊くから用ひられて來て居ります。従つて日本國民精神を最もよく表徴した、極めて品位の高い、日本人の趣味に最もよく適合した、代表的の草花であります。

二、日本の原産でありまして、元來性質が頗る丈夫でありますから、誰にも極めて作り易いものです。しかも作り方が如何に下手であらうとも、下手なりに必ず花が咲くのです。故に他の草花類の様に、お金もかからず、場所もとらず、屋上にも、狭い庭にても、結構作つて樂しめます。要するに日本の風土に最もよく適した菊なのであります。

三、花は概ね優雅でありまして、非常に變化性に富み、濃艶華麗の色彩と碩郁たる清香とをもつて居ります爲に、培養して甚だ面白く、容易に厭かないと云ふ特長があります。のみならず、研究すれば實に幽玄窮りなく、幾らでも深入りすることが出来ます。殊に、交配實生による優秀新種の作出は多大の興味があり、之に成功しますれば、莫大なる利益を齎します。四、花は萬花凋落の期に開花し、而も花期の非常に長いものでありまして、壽命の短かい朝顔などに比べますと、千代の齡を保つものと云へませう。極めて延喜のよい花でもあるのです。五、種類や品種が非常に多い爲、自分の好きなものを自由に選擇して作ることが出来ます。しかも年毎に續々と新花が發表されますので、興味百倍です。

六、種苗の入手が比較的容易であります。また餘分の苗は濫りに捨てる必要はなく、同好者は喜んで貰ひ受けて呉れます。

七、丹精して咲かせました菊は、同好者と菊花會場に於て、堂々と出品競技を行ふことが出

來ます。その興味たるや亦格別でありまして、これによつて相互に技術を練磨することも少なくございません。一方出品競技に附物の大懸賞は、菊作り熱を高めることが極めて大であります。

八、出品競技の様な他流仕合をしない場合には、一鉢二鉢を玄關脇、廊下、應接間、床の間などに飾つて眺めますと、生花や盆栽の代りとなり、四圍をパツと明るくして呉れます。その他葉の大きい美しい大菊は、春から初秋にかけての青葉を眺めるだけでも、相當の觀賞價值があります。特に自分の丹精したものに於てさうであります。大菊の趣味栽培は、以上に申上げました様な理由によつて、永久に頽れず、むしろ益々盛んになつて行くものと思はれます。

大菊作りの役徳

大菊を人並に作らうと思ひますと、どうしても朝少し早目に起きて、終日何彼と面倒をみてやらなくてはなりません。従つて不知不識の間に、新鮮な空気をふんだんに吸ひ乍ら陽光を浴びて運動することになりますので、血液の循環がよくなり、気分も自ら清爽となります。

過勞した頭も自然と軽く冴えて參ります。大菊作りが健康上に宜しく、殊に老人や衰弱者の健康増進上に効目が著しいのは全くその爲であります。

また私達の様に、日頃多忙な仕事に従事して居ります者が大菊作りを致しますと、菊の面倒を見る時間は餘程限定されますけれども、そのひとときは、煩鎖な仕事や世の中の俗事をすっかり忘れて無我の境に這入ることが出来ますので、疲れた頭も何時の間にか恢復し、清新な氣分で次の仕事に快く携はることが出来ます。従つて健康上に宜しく、仕事の能率がぐんぐん上ることは申す迄ありません。

尙その上に、大菊の面倒を見る間だけでも、靜かに之をよく觀察し、愛育する様に致しますと、人間修養と云ふ大きい立場に於ても、いろ／＼數へられる所があります。これは、いづれも大菊作りの役徳と云つて差支へないものであります。更に大菊作りの役徳として珍らしい二、三の例を拾つてみますと、

一、菊を通じて、自分と同じ趣味の未知の人(中には著しく自分と異つて高貴の方もあります)と親交を結ぶことが出来る場合も少なくありません。

二、大菊作りに於て日本一の作り手となりますと、全國數百萬の同好者から菊作りの名人或は神様の尊稱を奉られ、大菊作りに關する限り各所に於て殿様待遇を受ける事が出来ます。

三、地方に於て、毎年澤山の菊を上手に作つて居りますと、花の少ない季節の冠婚葬祭の際には、鉢花或は切花として之をお供へすることが出来ます。現に昨年末など、戦歿將士の慰靈祭に際して、菊花を御供へして感謝された人は少なくありませんでした。

四、市内などでも、映畫館、劇場、デパート廻り等を唯一の樂しみとしてをられる、所謂有關マダム諸姉が、此の際百八十度轉向して大菊作りを始め、熱心に之を見守つて呉れますなれば、女中委せより起る種々の不都合も起らず、子供達も之を見習ひ、情操教育上宜しく、年寄も喜び、一家團樂の樂しい吾家となること必定であります。

五、更にお醫者さん達の細君連が、夫の職業をよく理解し、自ら丹精した菊花を控所や診察室に飾つて下さるならば、陰氣臭くなり勝ちな病人もキツト喜ぶに相違ありません。同時に切花代若干も浮ぶと云ふものです。切にご實行願ひます。

大菊作りの起原

菊花は、餘程舊くから作られてゐた様であります。即ち今から凡そ千百四、五十年前の、第五十代桓武天皇御製（延暦年間作）に、「此の頃の時雨の雨に菊の花散るぞしぬべきあたら其

の香を」とあるによつてそれを知ることが出来ます。また第五十八代光孝天皇の寛平年中には菊花品評歌合御會があつたと傳へられて居ります。

更に第六十九代後朱雀天皇長暦二年の十月（今より九百年前）には、關白を始め、奉仕の面より菊花を獻じましたが、その中には、驚くべし、高さ丈餘に及ぶ菊があつたと「春記」に出て居ります。

併し、以上の菊が果して大菊であつたかどうかは、判然として居りません。而して確實に大菊が始めて文獻の上に現はれましたのは、徳川時代に入つてから後のことであります。

徳川時代の文獻と流行

徳川時代に入つてからの、最初の大菊の文獻は、寛文五年（今より二百七十三年前）刊の、「花壇綱目」であります。これには、一般草花花木の外に、大小菊合せて約百八十種の品名を掲げて居りますから、此の頃は既に大菊栽培も相當盛んであつたことが覗はれます。

次いで貞享二年（二百五十三年前）に、三々徑主恭齋と云ふ人の翻刻になる「菊花百詠圖」正編二卷附録一卷が出て居ります。これは我國に於ける菊に關する單行本中最古のものと云は

れ、正編二巻には大小菊花百品を圖し、附録一卷には菊の名品百八十二種の外に菊花培養法の一般に就いて記してあります。

更に寛永年中に著はされた狩野訪友庵の『雨露慧苑』には、大阪に於ける菊花栽培の状況に就いて、次の如く記して居ります。即ち、昔は左程でもありませんでしたが、去る天和の頃から頻りに世の中の人々が菊を愛培し始める様になりました。そこで天満に菊屋三左衛門と云つて、最初百種を揃へて商ふ店が出来ましたが、大繁昌したためでせう。何時の間にか数をふやして、元祿の頃にはもう三百種を越へるの盛況と云はれ、毎年花の頃は都鄙菊合と云つて、新花の競技が盛んに行はれたものです。云々

また『閑窓自語』と云ふ書物には「正徳の初め頃、大きくと云ふものを作り出した者があつて、家毎に植ゑてもあそぶことが流行しました。當時花の大きいものは、優に一尺にも及んださうです。これはかぶう菊と云ふ菊の實生から出たと云はれます。併し、その後明和年中に中山菊と云つて、非常に花びらの珍らしい菊が出ましたために、大きくやその他の小菊類はさつぱり振はなくなりまして。云々」と記されてありますから、當時大菊培養にも多少の盛衰はあつた様であります。

而して徳川時代に於ては、元祿、寶永の頃から、正徳、享保を経て、寶暦年間に於て最も菊

花栽培の隆盛を極め、大菊にあつても幾多の名花、珍品、奇品を生んだのであります。従つてこの期間には、次の如き數多の菊花文獻が著はされてあります。

- 元祿十二年：…村子著：『菊の道しるべ千代見草』上中下三卷
- 正徳三年春刊：…田邊彦兵衛著：『品定め 秋意古新集』
- 正徳三年秋刊：…京都齋月堂丈竹著：『世後之花』上中下三卷、上卷には當世菊花形の繪圖並に葩の異名を載せ、中下兩卷に培養法を収めてあります。
- 正徳五年三月刊：…志水閑事著：『花壇養菊集』三卷。
- 正徳五年刊：…京都上村四郎兵衛版：『丸山菊大會』
- 享保二年刊：…養壽軒雲峰著：『花壇菊花大全』全三卷。
- 享保三年刊：…江戸平野屋吉兵衛版：『江戸菊會』
- 享保二十一年春刊：…兒素仙著：『扶桑百菊譜』二卷、大菊五十種、小菊四十種を圖示解説してあります。
- 寶暦五年刊：…松平頼寛著、侍臣白土盛隆略解：『菊經』(一名黃龍公菊經 國字略解)
- 寶暦五年刊：…松平頼寛著：『實験を基として記述したもので、菊花文獻中の白眉です。』
- 寶暦五年刊：…松平頼寛著：『蘭園百菊譜』

○寶曆九年……趙坊無盡藏著……『菊花論』
 尙寶曆以後に於ても、寛政九年には『閑居の友』と云ふ愛菊家竹裁の花銘三百三種を列擧した書物や、弘化三年には『菊花壇養種』と云ふ培養書などがぼつ／＼出て居ります。

明治年間の大菊

大菊の栽培は、前に申上げました様に、既に徳川の中頃から盛んでありました。併し、大菊が驚くべき飛躍的發展を遂げましたのは、明治中葉以後であります。その中心地は、西は京都東は青森縣八戸でありました。前者は一文字菊及び厚物、厚走、管物等を、後者は主として大綱菊を、夫々熱心に作つて居つた様であります。殊に京都では、當時は今日の如く鬪争的或は商品的の取扱ひをせず、専ら觀賞目的で、超越した趣味者、つまりいはゆる數寄者間で作られて居りましたから、菊花の觀賞の仕方や菊花壇の様式などにも相當苦心に苦心を重ねた様であります。その結果、何時の間にか誰云ふとなく、周圍の籬は黒絲でなくてはいけないとか、雨障子は市松にせなければいけないと云ふ具合に、一種の掟をつくると云ふ風で、細部に互つてまで注意が拂はれてゐた様であります。

かうして菊花壇の規格が定まるにつれて、追々菊花觀賞の理想論を説く者も出て、それと平行して實生による菊花改良もどん／＼行はれる様になりました。併し元來が純趣味中の栽培でありましたから、苗の散逸と云ふことは極度に嫌はれ、その爲に花壇を作つて一般の觀賞に供しました場合でも、必ず花壇前に胡麻稗又は萩をもつて體よく垣を作り、菊の葉一枚も落まされることのない様にしたものです。このあたり菊人氣質の半面が伺はれて面白いと思ひます。其の頃の大菊の唯一の指導機關は、京都にあつた趣味の會菊友會であります。これは明治二十二、三年頃の創立でありまして、花壇本位の菊花栽培を出品競技本位の栽培に轉向させる動機をつくつた、大菊發達史上最も足跡の大きい有力なる團體であります。この會の活動によつて、京都は續々と名花を作出し、斷然他國をリードし、一文字菊及び厚物、厚走、管物等、大菊の中心地となつたのであります。現在、各地に於て行はれてをります菊花品評會の構成及び審査は、大體此の菊友會に準じて行はれて居る様であります。

躍進する大菊界

我國の大菊發達史上、輝かしき功績を遺しました京都の菊友會は、その後明治四十三年に分

裂して、一時京都重陽會が創立されたのを一轉機として、有象無象の小會となつて仕舞ひました。これは暗闘の多い趣味の會には決して珍らしいことではありませんけれども、過去の足跡が大きかつただけに一沫の寂しさを感じます。

其の後大菊界の隆盛となるにつれて、大正四、五年頃に東京に重陽會が出来、一二年遅れて大阪に浪華秋芳會、更に遅れて名古屋に浪越菊花會が創立されるに及んで、この三大有力團體の活動と相俟つて、吾國の大菊界は斷じて動ぜぬ堅固な大磐石を作り上げました。

これと相前後して全國に無數の中小菊花會が成立致しましたが、これらは大體以上の三會の組織に反對した會が、さもなくばそれを眞似た會か、或はそれらの分身つまり支部として成立したものと見て宜しい。

それは兎に角として、以上の菊花團體が中心となつて大衆に呼びかけ、苗を頒ち、作り方を教へ、品評會を行ひ、大菊培養熱が全國に普及したのは事實であります。それと共に、大菊栽培の中心地が、これらの團體所在地に移つたのも亦當然と云はなくてはなりません。

一面、菊花團體の活動に對して、大菊發達途上に物凄い拍車をかけましたのは、實生新花の普及と苗を大量に生産して發賣した、いはゆる菊苗業者の續出活躍であります。

この菊苗業者は、大正の末期頃までは至つて数が少なく、又賣出す新花も非常に高價であり

ました。爲に普及性に乏しく、従つて菊界へ出る新花と云へば、先づ各菊花團體から發表する競技花位のものでした。ところが、大正の末頃から昭和の初めにかけて、續々と菊苗業者が現はれました。その先鞭をつけたのが、優秀新花の作出をもつて、廣島の精興園と共に日本一と稱へられる、彼の大坂の榎園であります。同園では、早速普及會を創設し、新花の優秀苗を専門に養成して、會員組織による安價大量販賣戰術を實行したのです。これが巧く時流に投じ、大成功を収めました爲に、同業者の激増となり、それに伴ふて今日一部の人が憂へる様な、新花氾濫となつたのであります。

併し、御存知の如く、大菊は多年に亘つて、多數の人々によつて、あらゆる手段方法を講じて改良されて来たものでありますから、見方によつては、人力の及ぶ限り、改良の出来るだけ改良して来て居るのです。従つて、氾濫する程年々澤山の優秀なる新花が出るわけはありません。眞に優秀なる新花は、それらの中にほんの數へる程しか出ないのです。既に大菊は既にここまで事實進んで来て居るのでありますから、その進歩振りたるや實に想像以上です。

故に今後は、型破りの交配や最新の科學的操作による偶然變異の利用によつて、優秀なる新花の作出を見るに至るものと察せられます。それによつて、始めて、新花作出の行詰りも打解せられ、斯くして大菊界はいよ／＼珍品奇品を産出し、益々發展して行くものと思はれます。

大菊の類別

大菊のことは、また大輪菊とも申します。その名が示す様に、これは大輪咲の菊の總稱でありますから、これにはいろんな種類の菊が含まれてゐます。従つてその花徑は、種類によつて大變區々であります。大體四―五寸から一尺二―三寸に及び、特に大きいものは二尺以上に達します。今日我國で栽培されて居ります菊の大半は、此の大菊に屬するものでありまして、普通秋末に至つて満開となります。

此の大菊を花形に依つて類別致しますと、大體次の十種類に分つことが出来ます。

- 一、一文字菊（いちもんじぎく）御紋章菊のことです。曾ては十六囉菊と呼ばれたこともありましたが。ポート形の、幅の廣い、分厚の、平瓣からなる一重咲でありまして、花瓣の数は十二、三枚から二十五枚止り、十六瓣のものを理想とします。花徑は普通七―八寸、特に大きいものは尺餘に達します。色彩は鮮麗なものが割合に多く、覆輪、暈、縞入、絞、更紗等種々あります。従來此の一文字菊は京都にて優品を産し、特に栗田卯吉氏はその實生新花の作出家として有名であります。今日では兵庫、廣島等より優品を産して居ります。栽培は稍難かし

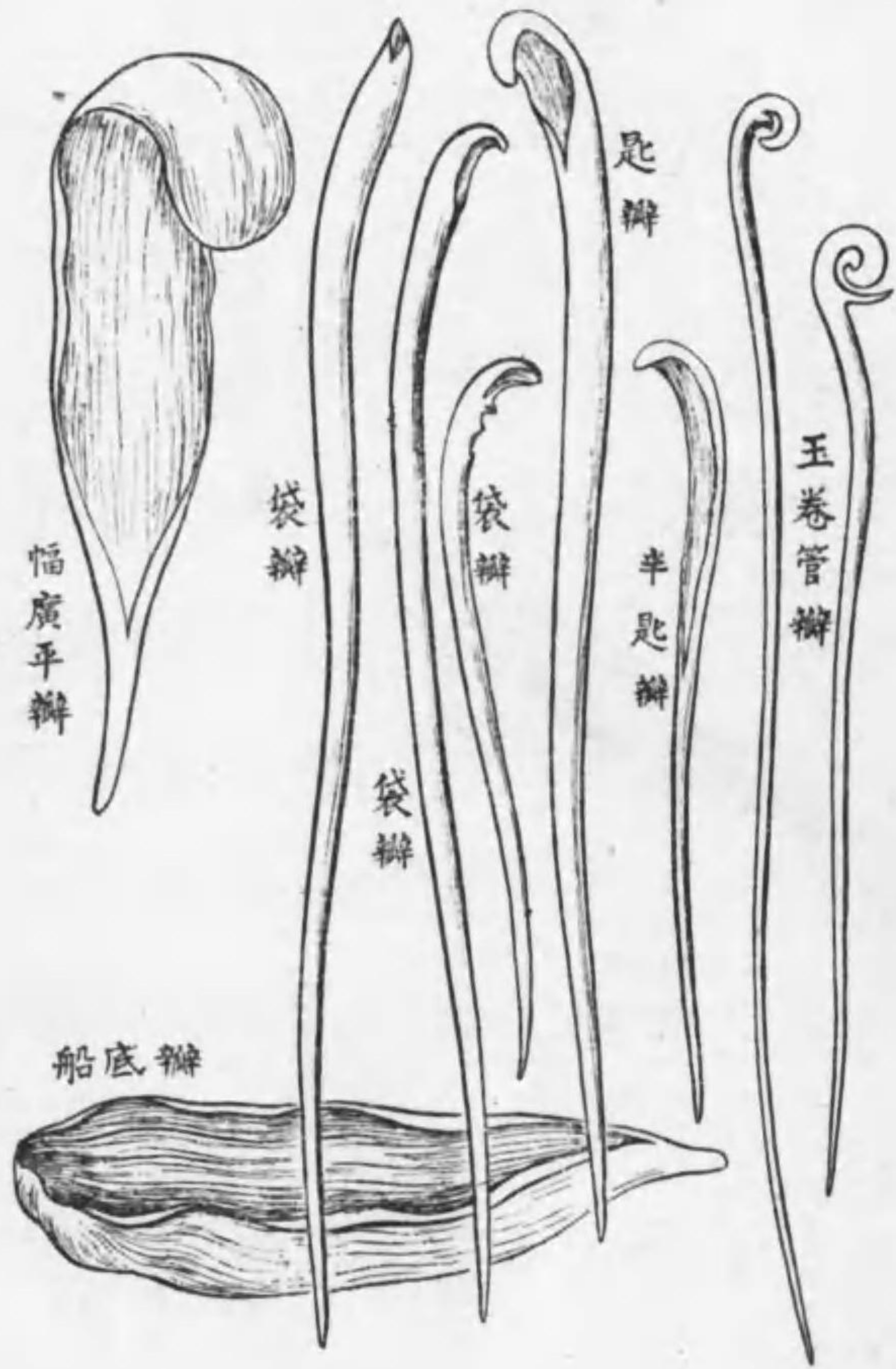
く、従來關西、長州、四國、九州が比較的多く、東京地方での栽培は近來のこととあります。れども、千葉縣東葛飾郡土村の齋藤武衛氏の如き名栽培家を生んだことは、大いに自慢していいと思ひます。因に齋藤氏の發表になる一文字菊の培養苦心談は、『農業世界』昭和十年十一月號より同十一年六月號まで、前後六回（一月號及び五月號休載）に亙つて詳述されてゐます。

二、厚物（あつもの）いはゆる盛上げ咲の菊でありまして、多數の平瓣と匙瓣から成る八重咲であります。花徑は四―七寸程度です。此の種は、花瓣が分厚てがっちりして居る許りでなく、葉も大きく、莖もしつかりしてゐて、見るからに丈夫さうな菊であります。性質もその通りで、生育旺盛、作り易く、肥料に對しても強く、花にも優品があり、花保ちも宜しい爲、廣く一般に栽培されて居ります。稍花に藝の乏しい憾みはありますが、初心者向の菊です。

三、厚走（あつばしり）これも盛上げ咲で、大體厚物に似て居りますが、前者と著しく異なる點は、下方にある花瓣が、太くて長い管瓣となつて四方に向つて不規則に走り出ることです。従つて花形は厚物より遙かに大きく見え、如何にも雄大な感じを與へます。

四、大摺菊（おほづかみぎく）古くから青森縣八戸地方に於て愛培改良されて参りましたので、俗に入戸菊、奥州菊などと呼んで居ります。今日では本場は申すに及ばず、東北各縣及び北海道にて盛んに栽培され、一方だんだん南下して全國に及び、人氣者となつて居ります。此

ろいろいの瓣花菊大



の種は數ある大菊中でも、最も雄大豪壯、見るからに筋骨たくましい、男性的な美しさをもつ菊であります。花瓣の數は比較的少ないのですが、瓣幅が廣く、抱へに力がこもつてゐて、恰も拳を力一杯握りしめた様な形をなし、その下方から太くて長い走瓣を力強く放出したあたり、一寸他の菊では見られない壯觀であり、異觀であります。

五、太管（ふとくだ）花瓣の殆んど全部が圓い管瓣から成り、そのうち下方の花瓣が、ことごとくいはゆる走瓣となつて長く四方に出て、その他の花瓣は花心に近づくに従つてだん／＼短く、且つ其の瓣端は圓く卷込んで、所謂「玉卷」となるものを、すべて管物と呼んで居ります。太管はその管物の一種でありまして、最も管瓣の太い部類のものを云ひます。花徑は五、六寸——八、九寸位、瓣質は管物中で最も硬く力があります。花の色は種々あつて、廣く全國に於て栽培されて居ります。

尙此の太管の中には、下方の花瓣が管瓣許りでなくて、多少の匙瓣をまじへ、花の中程から花芯部が平瓣から成る種類も含まれてゐます。

六、間管（あひくだ）矢張り管物の一種でありまして、太管よりも稍細く、次に申上げる細管よりも少し太い、管瓣より成るものです。太管と細管の中間に位するものとお考へ下さつて結構。此の種の中には、俗に「總玉」と云つて管瓣の先が全部玉卷となることがあります。亦

花芯部は盃をおいた様に立ち、玉巻によつて包まれる傾向があります。花径は勿論作り方にもよりますが、六寸——一尺二、三寸に達します。尤も總玉ものは幾分輪が小さくなります。本式に作りますと伸々難かしくございしますが、花には藝が豊かで非常に品のいゝ菊です。

七、細管（ほそくだ）糸管とも申します。これも管物の一種でありまして、間管より一層細い管瓣から成るもので、繊細な感じを抱かせます。花径は五、六寸——一尺位。特徴は走瓣が割合に多いことと、花瓣が細い爲に自然に垂れ、輪臺なしでは餘り引立たないことです。

八、針管（はりくだ）その名の如く、針の様な細い管瓣が、無数に直立して放射する種類です。従つて玉巻はしないのが普通であります。近來は玉巻する優秀花も作出される様になりました。花径は五、六寸程度。勿論管物の類です。

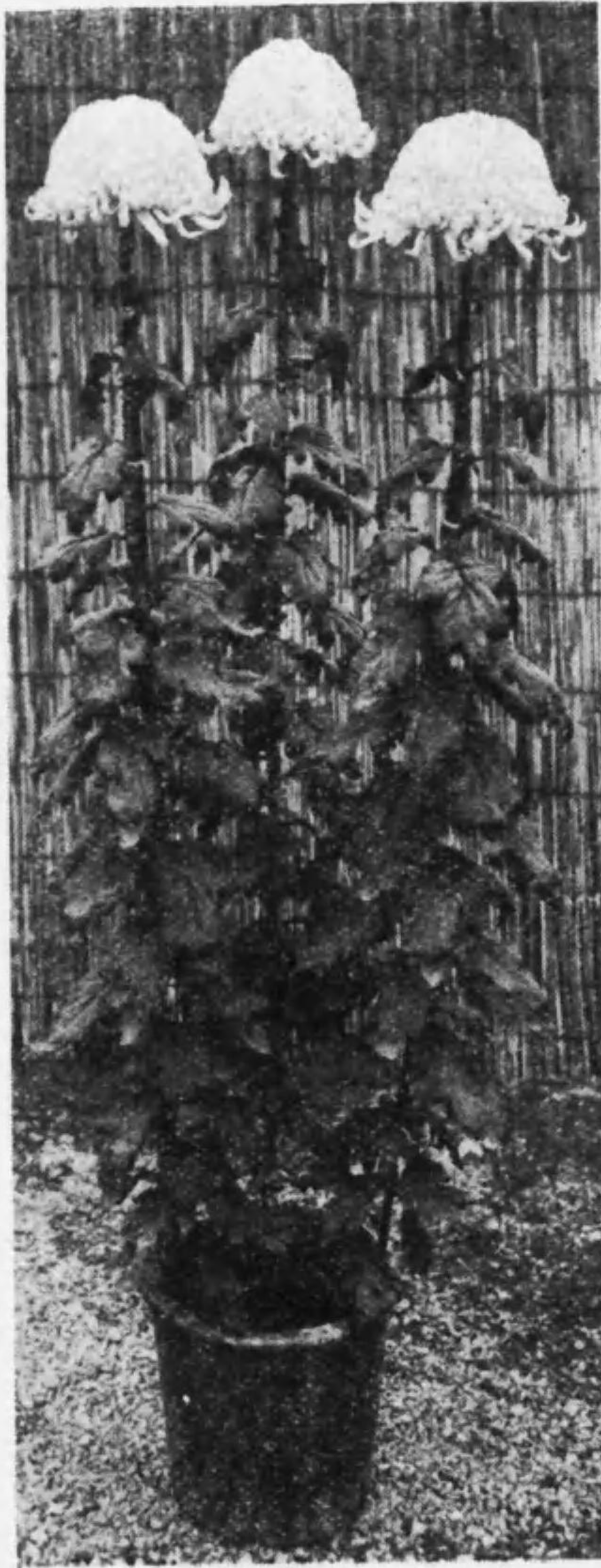
九、長垂（ながだれ）長管とも呼ばれます。純然たる管物の一種でありまして、花瓣の太さから申せば、間管と細管級のものが多いやうですが、此の種の著しい特徴は、走瓣が玉巻して非常に長く垂下することです。その長いものは一尺四、五寸以上に達し、時に二尺に及ぶものもありますから、甚だ異觀を呈します。これが、三重縣松坂町の矢川地方で古くから栽培されて参りました、いはゆる伊勢の長垂菊、又は松坂菊、矢川菊であります。栽培は相當難かしい様で、前に申上げました矢川地方から外には從來餘り出ず、一時は中絶を傳へられました。

右圖

美濃菊（岐阜菊）
に輪臺を取付けて
ゐるところ

左圖

見事に盆養された
三本仕立の厚走



菊博士の稱ある東京帝大教授丹羽鼎農學博士等のご盡力によつて、此の國粹菊が近年に至つて再興し、そのうへに、九重の庭の奥に移されましたことは、我國菊界の爲に甚だ慶ばしきことであります。

一〇、美濃菊（みのぎく）岐阜を中心として、舊くから美濃地方で改良發達した種類で、一名を岐阜菊と申します。花の咲方は、いはゆる蓮花咲の代表的なるものでありまして、恰度一文字菊の八重化したものと見て宜しい。即ち幅廣の平瓣より成り、瓣質が厚く力があつて、各々の花瓣が花芯部に向つて抱へ込む様にして受咲となる性質があります。花徑はさほど大きくなく、四——六寸程度ですが、極めて端正な花容を具へてをります。これも近年になつて各地で少しづつ栽培される様になりました。

尙東京重陽會では、此の美濃菊と一文字菊を便宜上一類として審査して居ります。同會の廣農斗と云ふ部類がそれでありませう。

大菊名花の解説

大菊は栽培歴史の古いものです。永い間數多の人々によつて愛培され、改良され、發達して來て居ります。しかも元來變異性に富み、採種實生の比較的容易なものです。従つてその品種は莫大な數に上ります。殊に近年になりましたからは、内地だけでも優に五、六十軒の菊苗業者から、年々新花が大量に發表されて居る現状であります。故に、反面に自然淘汰される品種が少なくないと致しましたも、現存する品種を全部集めますなれば、どうしても三千種以上に及ぶは必定であります。次にこれらのうちから、現在に於て最も人氣があり、比較的多く作られてゐる新舊名花百四十六種に就いて簡単に解説申上げませう。

一、一文字菊（いちもんじぎく）

白色系

一、神速の功（しんそくのこう）精興園の實生新花で、純白色の花を開きます。非常に幅の廣い、肉の厚い大きい瓣で、花徑は優に七、八寸に達します。瓣數は十七、八枚位。花期も草丈も中位で、肥料は厚物や厚走よりは遙かに少なく施さなくてはなりませんけれども、一文字菊としては稍多く施して宜しい。

二、白冠の輝（びやくくわんのかがやき）白色の大輪花で花径は七—八寸、時に一尺以上に及ぶことがあります。花期は稍早く、草丈は稍伸びる方です。花瓣は浅い船底形ですが、その先が少しく薄いのがこの種の缺點です。肥料は中位。大分以前から栽培されてみます。

三、神鏡（しんきやう）花は大體「白冠の輝」に似て居りますが、この種は晩咲です。草丈は中位、肥料は普通で宜しい。

四、國寶（こくほう）白色の大輪咲で、咲方は蓮花咲。花瓣は廣くて宜しいが、瓣先が割れ易いと云ふ缺點があります。花期は中位、草丈も中位。葉は丸葉で仲々立派であり、性質が丈夫で作り易い品種です。

黄色系

五、英雄の勳（えいゆうのいさを）精興園の實生新花で、花は純黄色巨大輪、花径は一尺以上達します。花瓣は廣くて長く、普通十七、八瓣に咲きます。花期は中位で、草丈は高い方です。

六、天孫の神（てんそんのかみ）鮮明なる黄色の大輪咲で、花期は中。咲方は蓮花咲に屬し品のいゝ花です。併し性質は餘り丈夫でなく、殊に暑さに對して弱い故、苗を幾分早目に仕立て上げて、暑中は葎簀下位の所で作らないと木が倒れる處があります。肥料は少量で宜しい。

七、光陰如矢（くわういんやのごとし）黄色の大輪咲で、咲方は至つておだやかです。性質が比較的丈夫ですから、培養はし易い方です。

八、君が御代（きみがみよ）黄色大輪の早咲種です。咲き方は蓮花咲で、瓣数は稍多く、普通二十枚内外あります。草丈は割合に短く、性質は丈夫で、肥料は充分にやつて宜しい故、一文字菊の中では作り易いものと云へませう。

九、聖代の輝（せいだいのかがやき）黄色の大輪咲で、花瓣は十六、七枚あり、いづれも船底形です。花期は中位、草丈は高い方で、性質は中、肥料は普通で宜しい。

一〇、七福神（しちふくじん）黄地に僅かに紅の縞をちりばめる蓮花咲大輪で、花瓣は比較的引緊つてかたく出來ます。花期は中位、草丈も中位で肥料は、少なくて済みます。

雑色系

一一、國の光（くにのひかり）一文字菊の名栽培家齋藤武衛氏が、多年最も得意とせられる品種です。されば、「國の光」は齋藤氏が、連年、斷じて何人にも負けない典型的な花を作られたことによつて、一躍天下にその名を知られるに至つたと云つても宜しい位です。尤も花も素晴らしいのです。即ち花瓣の外側は目覚むる許り美しい黄金色で、内側はピロッド紅、黄芯と云ふ見事な大輪咲です。花瓣は十七、八枚から二十枚に及び、端正なる船底形で、満開すれば正

圓形となり、花徑六—七寸に達します。花期は稍早く、莖は始め短く、仲々しつかりしてをり、葉持ちも宜しい。従つて栽培は比較的容易ですが、その代り肥料は相當に食ひます。品評會用、花壇用何れにも適します。尙此の種には、蕾が出てから急に花莖が一尺位伸びる特性があります。

一二、星の海（ほしのうみ）別名を「瓊單」と申します。濃紫色蓮花咲の大輪で、花型の典型的なるもので、品評會向ですが、苗の時代に病害に冒され易い缺點があります。花期は中位、草丈は稍短く、肥料は少なくて宜しい。

一三、大内山（おほうちやま）二十年來栽培されてゐる品種です。花は紅の縞で、花徑の大きい點では一文字菊中第一級に屬します。その代り花瓣は細長い船型です。花期は中位、草丈は高い方で、肥料も相當に食ひます。作りよい品種です。

一四、萬里の春（ばんりのはる）美しい淡紫色の大輪咲で、花型、瓣質共に申分なく、性質も至つて強健です。花期は中位、草丈は長幹に屬します。

一五、小町笑（こまちわらひ）可成り古い品種で、濃紅色中輪の蓮花咲であります。早咲で草丈が極く短く、莖や葉がしつかりして居り、多肥しても花瓣が狂はぬ爲に、今尙品評會用として廣く一般に栽培されて居ります。

一六、紅蓮（ぐれん）紅紫色の巨大輪咲で、花型、瓣質共に申分なく、花壇にも品評會にもなくてはならぬ品種です。花期も草丈も中位、肥料は少なくて結構です。

一七、京鹿の子（きやうかのこ）白地に紅紫の絞縞を現はす、極く作り易い、花型のいい品種ですが、惜しいことに輪が小さく、花瓣に皺があつて、光澤の乏しいと云ふ缺點があります。

二、厚物（あつもの）

白色系

一八、銀河（ぎんが）小松園の賣出した花で、雪白色の巨大輪咲。短幹で多肥に堪へ、作り易いとの定評があります。事實初心者向です。此の種は、餘り早く日陰の花壇に取込みますと花が充分高く盛上つて咲かない憾がありますから、花壇に入れる場合には、充分その點に注意を要します。花期は早い方です。

一九、池邊の月（ちへんのつき）檜麓園の實生、初め淡色に咲出して後純白色となり、大高盛となる巨大輪咲です。従つて長保ちする特長はありますが、瓣重ねが餘りに多過ぎる爲に、時々花が圓く咲かないで谷を生ずることがあります。性質は頗る強健で、中幹で作り易く、下葉

の上る心配も少ない故に、花壇品評會兩全の名花として廣く一般に培養されてゐます。

二〇、龍眼（りうがん）純白色の大輪咲で、花型、瓣質、組方、芯の具合等は、厚物中第一位に推すべきものです。花期は中位、長幹で多肥に堪へ、性質は稍強い方ですが、暑中に強い光線にあてますと、葉が内側に巻いて見苦しくなりますから、夏期は少しく弱日の所で作ることが肝腎です。

二一、繪垣（ひがき）雪白色の大輪咲で、瓣先が圓く、咲出しの花弁が著しく幅廣いことが特徴です。花期は中位、短幹で、性質は暑さに對して餘り丈夫でありませぬから、夏期は霞養下で作るべきものです。

二二、孤村の月（こそんのつき）檜籠園の實生、純白色總覽の大盛上咲で、極短幹の早咲種です。性質強健、花にも葉にも悪い癖がなく、共に見榮があり、花壇用品評會用として、早くから作られてゐます。只注意すべきことは、普通の厚物類は、肥料を澤山やる程割合にいゝ成績が得られますが、此の種に限つて、多肥では却つて輪が小さくなる事です。故に中肥で作るのが安全です。

二三、初瀬（はつせ）京都の杉松勇助氏の實生、純白色のがつちりした大盛上咲で、組方の非常に見事な花です。花期は中位、中幹で、栽培は至つてやさしく、肥料は普通で宜しい。

二四、霞ヶ浦（かすみがうら）多少は走が現はれますが、厚物の中に入れていゝものです。濁白の巨大輪咲で、昭和十年に東京重陽會の本郷氏が、花徑一尺二寸もあらうと云ふ花を出品し、最優等を擬せられて以來、一躍有名になつた品種です。短幹で素晴らしい大きな美葉をつけ、しかもその葉が少しも垂れないと云ふ程多肥に堪へる力があります。瓣質は稍軟らかく、組方はほかの品種ほど行儀よく行きません。併し技巧によつて或程度の修整は出来ます。蕾が大きふくらんだ時や、その蕾が徐々に綻びて行く時の眺めは、正しく偉觀であり壯觀であります。早咲ですが、花保ちが宜しい。栽培するには、必ず早目に挿して、三本仕立ならば尺二寸位の鉢に、一本仕立ならば尺以下の鉢で作ります。

尙普通の厚物や厚走では、輪臺は四寸乃至四寸五分と定められて居りますが、此の種は例外で、七寸位の輪臺を使はなくては格好が整ひません。

黄色系

二五、天長（てんちやう）檜籠園の實生。純黄色の巨大輪大盛上咲で、素晴らしい大きな美葉をつけ、雄大無比であります。惜しいことに半咲以上になつても、尚花首が撚れて伸長する缺點があります。極短幹で栽培し易く、肥料も多くやつて構ひません。早挿すべき品種です。

二六、日東光（につとうくわう）濃黄色牡丹咲の大輪で、花色と花型のいゝのが特長です。併し慾を云へば、花瓣が少し縮れることと、根が比較的弱い憾があります。花期は中位、長幹で割合に作り易く、肥料は澤山やつて宜しい。

二七、陶朱紅（たうしゆくわう）淡黄色の大輪咲で、瓣数の多い品種です。花期は中位、短幹で、葉持ちが宜しい。性質は強健であります。肥料が多過ぎますと、葉の表面や花瓣に刺を生じます。花首は餘り長くはなりません。

二八、皇威無窮（くわうゐむきゆう）精興園の實生。鮮黄色の巨大輪咲で、瓣質の稍軟かい爲に、切花としてはさほどありませんが、花壇用にはいゝ花です。花期は中位、長幹で多肥に堪へます。

二九、豐翠の輝（ほうすゐのかがやき）豐翠園の賣出した花で、鮮黄色の巨大輪咲、瓣質、組上げ方共に申分なく、品評會向です。花期は中位、草丈は中幹で、根の稍弱い傾向はありますが、水拔けのよい土で植込み、暑中午後の日光を除けて作る様にすれば、秋口には生育旺盛となり、自然體型を整へて來るものです。

三〇、黄金山（わうごんざん）三國園の實生、黄色の巨大輪で、葉も美しく、相當の長幹で、作りよい品種です。肥料は充分やつて宜しい。

三一、美玉の王（びぎよくのわう）（びぎよくのわう）これは歐洲に於て改良されたものです。その洋名をウイリアムターナーと云ひ、これには花色の異つたものが種々作出されて居りますが、大正六年以來我國に輸入栽培されてゐる主なるものは、淡黄色のものと、白色のものと、薄桃色のものと、樺色のものと、都合四種であります。この四種のうち、花型の最も優れてゐるものは淡黄色の「美玉の王」です。花期は中位、草丈は中幹、挿芽は早目に行ひ、早期に充分施肥して追肥を控へた方が好成績が得られます。

雑色系

三二、快適（くわいてき）別名を「勝鬨」と云ひ、古くから栽培されて來た品種です。花色は紅紫色で、餘りパツとしませんが、力作すれば相當の大輪が咲きます。葉も大きく澤山につき、性質強健で多肥に堪へ、作り易い爲に、廣く各地で愛培されてゐます。

三三、田舎娘（いなかむすめ）檳蘭園の實生、紅樺色の巨大輪咲で、その名の如く性質頗る頑健。極短幹で花首が短く、葉は大きくて美しく、多肥に堪へ、至つて栽培容易です。故に、初心者の手始めにはもつて來いの品種です。多く花壇の前植用に供せられますが、此の場合南方から直射光線を受けますと、花焼けを起し勝ちでありますから、南向の花壇に飾る場合は、なるべく臺をして奥の方におくべきであります。

大菊の作り方

三四、千代の光（ちよのひかり）花の裏面が黄金色で、表面が緋紅色を呈する見事な中輪咲です。しかも早咲で、瓣質が厚くて長く且つかたく、葉も黒味を帯びてがっちり出来ると云ふ逸品です。中幹で多肥によく堪へますけれども、暑中日焼けを起し易い缺點がありますから、夏期は西日を除けてやるのが肝腎です。

三五、大八千代（おほやちよ）大阪の菊地幽芳氏の實生、桃紅色の巨大輪咲で、美葉をつけ、しかも葉持ちのよい、中幹の作りよい菊です。花壇品評會兩用に適し、肥料は思ひ切つて充分に施して宜しい。

三六、大内山（おほうちやま）菊地幽芳氏の實生で、芳秋園から賣出した逸品です。花は淡紅色、極短幹で美葉をつけ、性質は頗る強健で栽培容易のものです。花壇用、品評會用に適します。肥料はウンと澤山にやります。

三七、高須の譽（たかすのほまれ）三國園の實生。紫色の大輪咲で、黄味を帯びた美葉をつける短幹種です。花瓣が厚く大きくかたく出来、しかも花容が自然に整調し、誰にでも結構咲かせ得る點が、此の種の名花としても唯される所以であります。兎に角誰が作りましても出来不出来の少ない品種です。

三八、春霞（はるがすみ）本名を「八重霞」と云ひ、亦の別名を「福娘」と申します。もと

大菊の作り方

仙臺の管野佐一氏が實生によつて作出したものです。滋賀縣野州郡三上村の愛菊家永田源兵衛氏によつて、明治三十年頃始めて菊界に紹介され、爾來今日まで引續いて各地で栽培されてゐる名花です。淡桃色の大高盛上咲の大輪で、花期は中位、短幹で性質強健、多肥に堪へ、至つて栽培容易です。

三、厚走（あつぱしり）

白色系

三九、雪山（せつざん）名古屋の宮島吉太郎氏の實生で、大正十五年發表のもの。雪白色の大輪咲で、見事な大走を現はす花壇向の花です。花期は中位、稍長幹で性質強健、多肥に堪へます。

四〇、郡山の雪（こほりやまのゆき）京都の佐々木源一郎氏の實生で、純白色の大長走大盛上咲です。明治から大正にかけての頃は、此の花の右に出る大輪花は一つもなかつたと云はれます。長幹で花期は中位、晩挿して柳芽なして育てるが宜しい。肥料は澤山やります。

四一、野末の月（のずえのつき）檜麓園の實生。白色大輪の極早咲です。長幹で、美葉を澤山

方り作の菊大

につけ、下葉の上る處の少ない、花壇向品評會向の名花です。肥料は中位で宜しい。

四二、高砂（たかさご）雪白色の大走高盛上咲の極めて雄大なる花壇向品評會向の花です。短幹の早咲種で、葉も大きく美しく、肥料は中位で宜しい。

四三、岩清水（いはしみづ）菊地幽芳氏の實生。雪白色の見事な巨大輪咲で、品のいゝ咲方をなし、多肉の美葉をつけます。中幹で多肥に堪へ、栽培は至つて容易です。

四四、昭和の光（せうわのひかり）別名を「秀麗」と云ひ、京都の杉村勇助氏の實生で、純白色の整然たる大高盛上咲中輪です。大走の工合も仲々宜しい。栽培は早挿して、やはらかく伸びくと伸ばして咲かせるに限りません。花期も肥料も中位。

黄色系

四五、長生殿（ちやうせいてん）古くから栽培されてゐる純黄色の早咲大輪です。草丈は稍の伸びる方で、極めて作り易く、花期が長いために花壇用に適してゐます。

四六、光輝（くわうき）精興園の實生で、大正十三年に賣出された純黄色の大輪咲です。その鮮かな走の放射ふりと云ひ、廣葉が高々と盛上る状と云ひ、數ある厚物中でも、斷然傑出して異彩を放つて居ります。中幹で花期は中位、葉も先づ申分なく、栽培も頗る容易。晩挿して柳芽なしに蕾を着け、開花期に至つて充分施肥すればキツト立派な花が咲きます。

方り作の菊大

四七、英姿（えいし）小松園の賣出した花で、濃黄色の大輪咲、花瓣の盛上る工合は、稍低い方でありませけれども、肉厚の廣葉が相互によく抱き合ひ、走舞も行儀よく四方に走り、「英姿」の名に背かぬ悠々たる咲振ります。長幹で葉は小さく、幾分下葉の上り易い傾向があります。故に栽培は稍困難ですが、夏の根腐りに注意し、水抜けのよい土で植込み、西日を避けて、中肥で作れば相當の成績は得られるものです。

四八、四季の縁（しきのみどり）精花園の賣出花。濃黄色の八方走の大高盛上咲です。厚走の黄色花中、「光輝」と共にその双壁として讃へられる程の定評ある名花です。中幹で濃緑色の美葉をつけ、濃黄色の花と相映じて格別美しく思はせます。早咲ですが作り易くて花保ちが宜しい爲に花壇植に適します。

四九、帝都の華（ていとのはな）淡黄色の巨大輪咲。花色がパツとしないのは此の種の一大缺點ですが、どつしりした大走と、整然たる大高盛上げとは、大いに買つてやつてよいと思ひます。中幹で花期は中位、割合に作り易い花です。

五〇、日本海（にっぽんかい）金澤地方にて早くから定評のある名花で、黄色の巨大輪咲です。特長は走舞が太くて長く、力強く放出すること。長幹種中の長幹種で、花期は中位。暑中は根腐りを起し易い傾向がありますから、葎簀下で培養すべきものです。

五一、陰夜の鐘（ちよやのかね）黄色の大輪咲ですが、従来餘り大きい花を開きません。花徑の大きいことよりも、むしろ稍小型の瓣が無数に集まつて鱗状に整然と組上り、その下方からスーツ、／＼と走瓣を不規則に放出するところに、此の花の面白さとヨサがあるのです。中幹で花期は中位。

五二、秋津島（あきつしま）純黄色の相當の大輪に咲き、走の工合も面白く、瓣質、花型共に結構であり、葉も美しくよくつきますが、作の工合で屢々芯がうまく引緊らないことがあります。これが此の種の缺點です。短幹で早咲、多肥に堪へ、栽培は比較的容易です。

雑色系

五三、楓麓の春（まきろくのはる）楓麓園の實生。櫻色の太輪咲で、管大走を氣持よく八方に放射し、整然と高く組上げた花容は仲々素晴らしいものです。しかも木は太く短く美葉をつけ、花壇用品評會用に適します。栽培は比較的容易です。

五四、五節の舞（ごせつのまひ）總平瓣の厚走と云ふ珍品です。花は花舞の外側が光澤ある銀白色で、内側は緋紅色、しかも相當な太輪咲です。中幹で、元來餘り伸びのいゝ方ではありませんから、早挿して木をやはらかく伸び／＼と作ることが肝腎です。栽培は難かしい部類に入ります。

五五、天覽記念（てんらんきねん）楓麓園の實生。花は外側が光澤のある銀桃色で、内側が紅紫色を呈します。そして太くて長い走瓣が思ひのまゝに八方に放射し、その上に稍分厚で輝きのある廣瓣が糸亂れず美しく組上り、芯をつつましく包んでをる咲振りには、厚走の典型的な花型と云つて差支へなからうと思ひます。短幹、早咲。性質が丈夫で、木が幾分かたくなり易い傾向がありますから、早挿して木をすんなり作らなくてははいけません。

五六、平和（へいわ）京都の故山中太兵衛氏の實生。櫻色の太輪咲で、組上げの工合は仲々綿密で行儀よく、且つ上品ですが、稍低盛です。走瓣は太くて長く、穩かに八方に放射し、些も嫌味がありません。それに肉厚の美葉をつけ、花を一段と引立てて呉れます。中幹で花期は中位、栽培は容易ですが、柳芽の發生の著しいものですから、柳芽をよく見極めてから芯を摘み、側芽を伸ばさなくてはなりません。

五七、金華山（きんくわさん）これによく似たものに、「東洋の司」があります。どちらも外金、内紅のいはゆる錦花でありまして、葉形も殆んど全く同じでありますから、兩者の區別は事實上困難とされて居ります。従つて今日では、「金華山」の別名が「東洋の司」であり、「東洋の司」の別名が「金華山」であると云ふ風に、異名同種の如く考へられてゐます。

此の種の特長は、色彩が極めて鮮明で、花型が非常に美しく上品で、而も巨大輪を開くこと

です。長幹で多肥に堪へ、栽培は容易です。

五八、黒雲殿（こくうんでん）精興園の實生で、大正十二年に賣出したものです。黒紫色大擲型の雄大なる大走を四方八方に放出する品種で、特に咲き始めが見事です。満開すれば花芯を現はす缺點があります。故に花壇に入れる場合には、なるべく後列において眺める様にしたいと思ひます。長幹で性質強健、比較的作りよいものです。

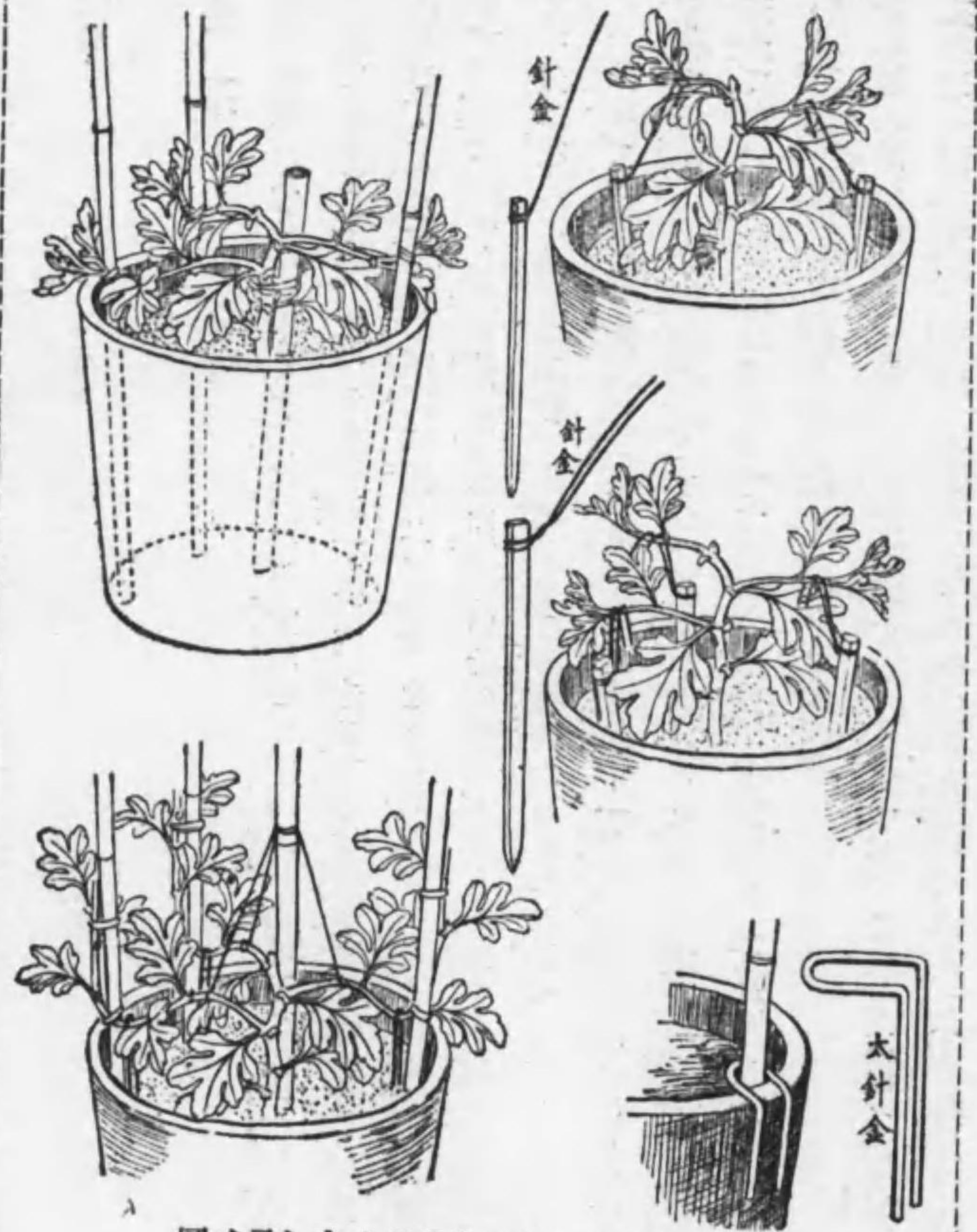
五九、豊岸（れいがん）中京百花園の實生。淡桃色の大長走大高盛上咲の巨大輪咲で、走瓣の豊富な、花型のよく整つた、美しい品種です。一本仕立とし、花壇用に供するが宜しい。長幹で葉つきがよく、性質強健、花期は中位。

六〇、豊翠山（ほうすゐざん）豊翠園の賣出花。淡桃色の大輪咲、品のよい色彩と、走瓣や組上げの工合の申分のない花です。只一つ難を申せば、花径が餘り大きくないことです。

六一、大瀆越（おほなみごし）淡紫色の、雄大なる大走をもつた大輪咲です。中幹で莖はよく太り、美葉をつけます。花期は中位。

六二、半 葩（はしとみ）外瓣が銀紫色で、内瓣が紅色を呈する晩咲種です。短幹で性質は頗る強健、木は太くなり、分厚の美葉をつけます。肥料は充分に與へるが宜しい。花壇用、品評會用に適します。

盆養大菊本仕立の基本圖解



三本仕立のいろいろな方りやを示す定固（けだのし）柱支は端下てつ向。所たつ使を鉤たつ作で金針い太、にめた

四、大摺菊（おほづかみぎく）

白色系

六三、富山の雲（ふざんのくも）花は白色、本場の青森縣八戸市地方では中管の部類に入れられて居る様であります。みつちり肥培すれば、走の太さは彼是食指位になり、長さも七―八寸には達します。故に太管の部類に伍しても負けをとらぬだけの堂々たる威容と美觀とを具へて居ります。殊に悠々と長く伸び出した逞しいその走、グツと力強く引緊めて鮮やかな曲線美を畫いて中央に巻上げる摺の工合、大摺菊中の典型的なるものと云へませう。長幹で高さ六尺位に達し、本場では晚咲、東京地方では普通並に大抵十一月五日頃満開となります。性質は大體強健、従つて栽培は比較的容易ですが、肥料が切れると直ぐに葉色が落ち、亦暑氣に對しては餘り丈夫でない様に思はれます。ですから、發育中は葉色を見て追肥を加減し、暑中は風通しのよい、葭簀下位の所で作るのが普通です。

大菊の作り方

六四、鐘の聲（かねのこゑ）純白色の早咲で、中管ですが、これまた仲々雄大な花を開きます。草丈は三―四尺程度、葉持ちが宜しい。花壇向品評會向の花です。栽培は容易な方で、

大菊の作り方

多肥によく堪へます。

六五、月の洋（つきよのなだ）青白色の太管、瓣数は餘り多くはありません。けれども、簡潔にして力強い半管平瓣の太い摺の工合と、豪放なる走の繰出し方と、一種の凄味を帯びた色合とが、如何にも大摺菊の氣分をよく現はしてをりますので喜ばれます。草丈は四―五尺となり、微かに白粉を帯びた淡綠色の美葉をつけます。栽培は比較的容易、花壇向品評會向です。

六六、曉天の鶴（げうてんのつる）純白色の太管の早咲で、瓣数の割合に多い、作り易い名花です。草丈は四尺内外。

六七、遠浦の汀（えんぼのみぎは）花は銀光色を帯びた白。瓣数は少ない方ですが、走、摺共に頗る變化に富み、種々の藝を現はし、しかもよく花型が整ふて居りますから、極めて品のよい、重味のある、面白い花です。草丈は四尺内外。莖は太く、葉は大きくて形よく、微かに白粉を帯びてゐます。缺點は花首が曲り易いことと、瓣数が少ないだけに餘計目立ちますから、花首は支柱や輪臺によつて必ず修整してやらなくてははいけません。

黄色系

六八、華嚴の瀧（けごんのたき）可成り古くから作られて居りますが、未だに毎年品評會に出品されて入賞すると云ふ古今の名花です。濃黄色中管の、極めて瓣重ねの多い晚咲種であ

りまして、大走を現はし、花芯部の摺み工合は、恰も大海の怒濤が巖に打當つて碎けるの概があり、實に勇壯豪宕の氣分を起させます。長幹で莖も太く、葉も大きく、大葉レコードは三本仕立て長さ八寸三分と云はれます。栽培は稍難かしい方ですが、肥料を澤山與へて力作し、大葉をつける様にすれば、キツト好成绩が得られます。此の種も花首が曲りますから、必ず輪臺によつて靜かに修整を要します。

六九、南呂の月（なんろのつき）淡黄色太管の早咲種。瓣數は少ない方ですが、男性的な大摺と、これに相應しい太管走に溢るゝ許りの興趣を感じる花です。花型、瓣質等も申分ありません。中幹で莖も葉もしつかり出来、栽培は容易です。

七〇、大觀（たいくわん）純黄色。互にもつれ合つた數十匹の蛇を、そのまゝ摺んで燃え盛る火の中に突込んで烘りでもしたら、或はこんな工合な狂ひ方をするかも知れない、と思はれる程、眞劍味の溢れた、變轉極まりない大摺、大長太管走の交錯した巨大輪咲です。しかしこの大混亂の中に、花型が整然と保たれてゐるのですから素晴らしいぢやありませんか。木の發育も頗るよろしく、六尺餘に達し、美葉をつけます。花期は中位、充分肥料を與へること。花壇用、品評會用、切花用に適します。

七一、高秋（かうしゅう）まざり氣のない、鮮麗な純黄色の太管で、瓣數は少ない方であり

すけれど、摺と云ひ、走と云ひ、曲線美の優れた花で花壇向です。中幹で花期は中位。

七二、高御座（たかみくら）淡黄色中管の花型端正、貴品ある大輪咲です。瓣數は餘り多くありません。中幹で美葉をつけ、栽培容易です。花期は中位。

七三、常世の光（つねよのひかり）黄金色中管の早咲巨大輪で、至つて品のよい、重味のある花です。中幹で莖葉共に美しく、切花用に適します。栽培も概して樂ですが、花保ちが餘り宜しくありませんから花壇用には不向です。

雜色系

七四、甘泉殿（かんせんてん）内側が濃紫色で、外側が移り白と云ふ、最近の花變りの中管大輪咲です。瓣數は割合に多く、摺、走共に一種の温容を具へ、大摺菊には珍らしい花型です。中幹で花期も中位。性質は稍弱く、殊に苗時代の發育が微々として振はず、また暑中に至つて下葉の落ちる處があります。故に栽培上にはこれらの點に充分注意を要します。

七五、朝光（あさひくわう）美しい紅色の變化の多い丸管走の大輪咲です。草丈は四尺位になり、莖葉がよく整ひます。花期は中位、栽培容易で花保ちが宜しい。肥料は多用をつつしむこと。

七六、鳳凰堂（ほうわうどう）錦花つまり外金内紅の美しい大輪咲です。元來錦花は一般に輪

の大きいものが少なく、たまに大輪のものがありましても、色彩の芳しくないのが普通です。ところが此の種は、色彩もよく、花径も大きく、瓣質、花型なども殆んど申分がありません。しかも作り易く、幹は太くて赤味を帯び、美葉をつけること云ふ珍品です。中幹で花期は中位、栽培する際は、暑中西日を避けることが肝要です。

七七、臺嶺霞（だいいれいがすみ）淡紅色中管の早咲種。瓣数は餘り多くありません。併し、花瓣は肉厚で光澤があり、摺、走共に變化に富みますので、藝の多い豊麗な花と云へます。短幹で作り易く、花壇用に適します。

五、太 管（ふとくだ）

白色系

七八、月の漣（つきのさざなみ）純白色の極早咲種、その管瓣は全部が玉巻となる所謂總玉ですが、大走をもつた見事な段咲となり、玉も花芯も先づ申分がありません。非常に見栄のある花と云へます。しかも中幹の木も葉も見ることからに氣持のよい、百人が百人共開花させることの出来る、至つて作り易い、初心者向花壇向の菊です。但し品評會用としては稍早咲に

過ぎる嫌ひがあります。

七九、浪越の榮（なみこしのさかえ）古くから作られてをります名花「松竹梅」の芽變り（名古屋の宮島吉太郎氏の所にて出現）でありまして、花の白色に變じたものです。親よりは幾分瓣が細くて圓く、その代り瓣数が多少増して居りますので、一寸品のよい花です。中幹で花期は中位、花色は白とは云へ、芽變りですから、多少黄出の白に出るのは止むを得ないと思ひます。花壇用、品評會用に適します。

八〇、雪 風（ゆきおろし）雪白色段咲の極大輪。長い走瓣が配置よく放射する有様は、けたし天下の偉觀です。花芯と玉は稍良好。瓣質は少し軟弱ですから、咲き初めれば直ぐに軒下に取込み、夜露に會はせぬ様にして花腐れを防ぐべきです。尚性質は概して弱く、長幹で葉も自然と垂れ氣味で、初心者には作り難い品種です。花期は中位です。

八一、天 涯（てんがい）白色段咲の總玉、同じ段咲の總玉でありましても、これは「月の漣」ほど思ひ切つて四方に長く走瓣が放出しませんから、全體から見て花に變化が少なく、どこもなく垢抜けしない所があります。併し、玉も花芯も瓣質も先づ上々、作り易くて極短幹である點は見逃せません。葉は一風變つてをり、硬化し易く、餘り美しくありません。花期は中位。八二、大統領（だいてうくわん）純白色段咲の總玉で、瓣も太く、花芯、玉、瓣捌きの工合

花徑なども申分のない花ですが、暑氣に弱くて作り難いのが玉に瑕です。短幹で花期は中位、挿芽や肥料は普通にやります。

八三、夕月夜（ゆふづきよ）白色の素晴らしい巨大輪咲です。併し角瓣角玉で、稍物足りない氣がします。長幹で栽培は比較的容易ですが、伸び過ぎぬ様に注意を要します。また蕾の出現は非常に晩く、果して巧く咲くかどうか氣遣はれる場合もありますが、一旦繰出し始めれば短時日の中に満開となるのが此の種の特徴です。肥料は普通で宜しく、花期は中位。

黄色系

八四、双龍（さうりゅう）純黄色段咲の總玉で、大走を放射する瓣重ねの多い超巨大輪咲です。しかも極短幹で、葉附きのよい、栽培の容易な品種ですから、花壇にはぜひともなくてはならぬものです。肥料、花期は共に中位。

八五、絳光の輝（するくわうのかがやき）純黄色の美しい丸玉の段咲で、大太管の劍走を放射する雄大無比の花です。色彩もよく、輪も大きく、玉、花芯、瓣質共に非の打所のない、太管界隨一の名花です。中幹で、葉は小さく花に比べて見劣りしますが、切花とする場合は何等問題ありません。多肥によく堪へ、極く作り易く、花期は中位。品評會、花壇何れにも向きます。

八六、岸の山吹（きしのやまぶき）純黄色段咲の總玉で、長走を持たないのは甚だ遺憾であります。玉はしつかり握つてをり、瓣捌きも宜しく、花芯も先づ良好、瓣重ねも多く、短幹で極く作りよいと云ふ、幾多の特長をもつた花です。太管物に美しい黄色花の少ない折柄、捨て難い品種と思ひます。花期は中位。

八七、群鳳（ぐんぼう）濃黄色大太管の玉巻段咲で、鮮かな瓣捌きを見せる品評會向の名花です。葉附きが稍悪く、多少作り難いのが缺點です。中幹で多肥に堪え花期は中位。

雑色系

八八、松竹梅（しようちくばい）古くから作られてをる名花で、元京都の富田作造氏の實生になるもの。淡紫紅色のいはゆる銀紫の大輪咲です。瓣數が多く、瓣質がかたく、瓣捌きが甚だ見事なため、萬年入賞花となつて居りますが、難を申せば、花芯部が不充分で、走瓣が少なく尙その上に非常に作り難いと云ふ缺點があります。殊に二尺位に成長してから一夜で枯れたり、花が満開となつて腐れたりするのには困ります。中幹で花期は中位。

八九、紫宸殿（ししんでん）神奈川県今村惣次郎氏の實生で、大正二年に發表されたもの。淡紫紅色の大輪咲、大正から昭和の初めにかけて鳴らした太管中の代表花で、花壇用品評會用に適します。中幹で充分施肥して宜しいが、葉は小型で、下葉が上り易い傾向がありますか

ら、その點に注意を要します。

九〇、帝都の一（ていといのはじめ）東京の多田與三郎氏の實生。紅色大輪の晚咲種。色彩と花型が宜しくて、花徑の大きいのが何よりの特長です。葉や木は、この花に比べますと、多少遜色を認めますけれども、それは栽培技術によつて或程度迄補はれます。中幹で花壇用品評會用に適します。

九一、日章旗（につしやうき）早川醉香園の實生として、大正の末頃に賣出されたもの。濃紅紫色の段咲總玉で、長大な走瓣を放射する極大輪咲です。色彩が美しく、瓣捌きが面白く、小葉の極短幹であり乍ら、花徑が非常に大きい爲に品評會用花壇用として喜ばれますが、花芯は整はず、玉はゆるく、瓣數が少なく花保ちのよくない花です。しかも葉持ちが悪く、暑氣に對して弱くて非常に作り難いものでありますから、初心者には不向です。花期は中位、暑中は涼しい半日陰地で力作して、葉を大きく作ることが何より肝腎であります。

九二、淨琉璃姫（じやうりりひめ）名古屋の淺見隆道氏の實生。薄紅紫の段咲總玉で、「松竹梅」と「玉芙蓉」の交配種と云はれますだけに、大體兩親の略中間の性質を帯びて居ります。

九三、富貴集（ふうきしふ）美しい淡紅色の大走と玉卷から成る巨大輪咲でありまして、非常に瓣數が多い爲に花期が永く、しかも短幹で美葉をつけ、極めて作り易いと云ふ萬人向の名

花です。肥料は思ひ切つて澤山にやつて宜しい。花壇にはなくてはならない品種です。蕾の繰出しが格別見事です。

九四、龍城の櫻（りうじやうのさくら）中京百花園の實生、櫻色の玉巻段咲の極大輪で、「松竹梅」系のものであります。遙かに作り易く、長幹となり、葉附きが宜しいため、特に花壇用として人氣があります。

六、間 管（あひくだ）

白色系

九五、沖津波（おきつなみ）横麓園の實生。雪白色大走の段咲で、花徑は時に二尺以上に及ぶと云ふ、間管中の超巨大輪咲です。瓣重ねも可成り多く、その爲に花芯が煩雜となつて整はない嫌ひがあります。併し花壇の奥の方に入れて、横から眺める分には些も差支へありません。最長幹で、木の細い割合に大きい美しい葉をつけます。多肥に堪へ、栽培は比較的容易です。花期は中位。

九六、千五百の秋（ちいほのあき）九州博多の船越氏の賣出した雪白色丸瓣丸玉の、花芯、瓣

捌き共に面白い、どちらかと云へば玄人向の品評會用種です。極く短幹で栽培は稍困難ですが、早挿して肥料を幾分控へ、三尺五寸位に仕立てる様にするといふと云はれます。花期は中位。従来關西にて多く作られてゐます。

九七、雪柳 (ゆきやなぎ) 雪白色小玉巻の段咲で、走瓣が可成り長く、花徑尺五寸に達する巨大輪咲です。中幹で美葉をつけ、作り易い爲に喜ばれます。花期は中位。

九八、菊水の輝 (きくすゐのかがやき) 精興園の實生。別名を「颯々の松」と申します。最初極く薄色に咲出して後水晶白となる巨大輪咲。ごく上品な丸管の舞質で、玉なしの走瓣が長く八方に放射し、丸玉の舞 (稍数が少ない) は見事な段咲となつて、理想的な花型をなし、花芯舞捌き共に申分のない名花です。中幹で栽培し易く、花期は中位。

九九、檜麓の露 (ひんろくのつゆ) 檜麓園の實生。青出の白で、長い走瓣をもつた丸舞丸玉の上品な段咲大輪です。稍短幹で、木も葉も細型ですが、比較的かたく出来、栽培は割合に容易です。早咲種です。

一〇〇、曙 (あけぼの) 曙白の、大走をもつた、丸管丸玉の段咲で、花芯のよく整ふた、舞捌きの美しい、品評會向の名花です。中幹で花期は中位。稍作り難く、肥料は少量にとどめなくてははいけません。

黄色系

一〇一、秋芳錦 (しゅうほうにしき) 目覺むる許り美しい濃黄色の巨大輪咲で、花徑尺五寸に達することは珍らしくありません。而も此の花は、いはゆる舞咲となつて咲出します爲に、その妙味たるや亦格別で、ぜひ花壇に愜しい花です。最長幹種で、生育、葉付き共に宜しく、栽培も容易です。

一〇二、曉の鐘 (あかつきのかね) 京都の佐藤綱二氏の實生で、花は美しい純黄色です。瓣数は稍少なく、總玉ではありますけれども、長い走瓣を放射し、美しい花芯を形成しますので名花の中に加へられてゐます。草性は多少花車で長幹、晩挿して力作するに限りません。栽培は容易です。

一〇三、金泉 (きんせん) 濃黄色の小玉段咲で、稍小輪ではありますけれども、芯吹と云つて花芯が非常に優れて居り、引緊つて出来まますので、花壇の前置などに適します。一體に木も葉も共に小柄で、稍作り難い様に思はれます。

一〇四、春汀 (しゅんてい) 東大阪園藝場の實生。濃黄色の見事な大走と丸玉の段咲から成つた巨大輪咲で、花壇、品評會兩全の品種、短幹で葉も亦小さく、稍作り難い方ですが早挿して水拔けのよい土で植込み、暑中の強い直射光線を防いで作れば、キット上作が得ら

れます。花期は中位。

一〇五、神苑の光（しんゑんのひかり）淡黄色の大走と玉巻段咲から成る大輪咲で、極く作り易い花壇向の花です。中幹で花期も亦中位です。

雑色系

一〇六、玉芙蓉（たまふよう）珍らしい銀鼠色の見事な段咲大輪です。瓣数の稍少ないと云ふ憾はありますが、性質が頗る強健で多肥に堪へます爲に、至つて作り易く、また力作によつて太管級の花にもなります。故に品評會、花壇何れにも向きます。中幹で花期は中位。

一〇七、菊理姫（きくりひめ）精興園の實生で、別名を「帝妃の冠」と云ひます。最初淡紫色に咲き始めてだん／＼薄色となる、極めて瓣重ねの多い、従つて花期の非常に長い、瓣質、玉巻、花心、瓣捌き共に先づ申分のない大輪咲です。色彩は餘り冴えませんが、中幹で、性質強健、葉持ちが宜しく、肥當りする様なことがなく、至極作り易い花です。花壇にも切花にも向きます。花期は中位。

一〇八、城外の櫻（じやうぐわいのさくら）櫻色の極早咲の大輪です。併し、瓣重ねが多い爲に花保ちが仲々よろしい。長幹で生育が頗る盛んであり、多肥に堪へ、何人にも作り易い品種です。

一〇九、繪日傘（ゑひがさ）濃紅色の太走玉巻段咲です。花心は早く露出し、輪や玉や瓣質は今一步進めたい花ですが、何分にも色彩が鮮麗であります爲に、花壇用にはぜひ愆しい一品です。長幹で莖葉共に幾分軟弱ですから、栽培中は排水、灌水、通風、日除等に充分注意を要します。また芯蕾を立てるよりも側蕾を立てた方が、概して好成绩が得られる様です。

一一〇、一生花園（いつしやうくゑん）山口縣の六山定憲氏が、實生によつて作出した濃紅色爪白の花變り種です。走をもつた小玉の段咲で、瓣質も花心も大體申分なく、花壇用、品評會用に適しますが、長幹で稍作り難く、葉付きも宜しくありません。殊に挿芽の成績は不良でありますから、此の種は他の長幹種と異なり、早挿して苗時代に充分保護してやる必要がありますと思ひます。

一一一、祖國の光（そこのひかり）茶樺色の、大走をもつた丸玉段咲の大輪です。花心は低い茶筌状を呈し、品評會用花壇用に宜しい。短幹で花期は中位、根は弱い方ですから早挿して心持大きい鉢に、必ず水排けをよくして植込み、暑中葭簀下で作るべきです。

一二二、椿の響（つばきのほまれ）茶人向の黒紅樺色の中輪咲で、走は袋舞、その他の瓣は大體丸舞で程よく玉巻し、花心もよく整ひ、所謂玄人筋の理想に叶つた完璧花です。長幹で小葉ではありますが、草性はなかく強健で、栽培は容易な方です。花期は中位。

七、細 管(ほそくだ)

白色系

一一三、波の調(なみのしらべ) 檜麓園の實生。純白色大長走總玉の段咲巨大輪で、格別舞捌きの見事な、定評ある典型的な花です。中幹で至つて作り易い、花壇向品評會向の早咲種です。

一一四、浪越の響(なみこしのひびき) 青出の白の巨大輪咲で、舞捌きのよい事は天下一品、丸舞丸玉の代表的名花です。瓣数は稍少なく、立上り花芯である點は聊か平凡です。中幹で花期は中位、栽培は比較的容易です。

一一五、大公望(たいこうぼう) 白色の大輪咲で、瓣質もよく、玉巻、花芯も共に先づ申分があります。長幹で花期は中位、葉は幾分攏んで来る傾向があり、餘り芳しい方ではありませんが、葉持ちは概して宜しい。肥料は少な目に施すこと。切花向です。

一一六、南山の壽(なんざんのことぶき) 白色の舞重ねの多い晚咲大輪で、花型の優れた花保ちのよいものです。長幹で、六月一日頃に挿して三本仕立としましても、優に六尺三寸に伸び

ます。花壇用、品評會用に宜しいが、栽培は一寸困難です。

一一七、大花泉(だいくわせん) 玉花園の實生。雪白色丸舞丸玉の巨大輪咲で、瓣質、舞捌き共に良好、花芯も大體に於て結構ですが、最後に至つて芯吹となり、型を崩してしまひます。長幹の作り易い木で、葉持ちも宜しく、晩挿して中肥で作るのが安全です。

一一八、花の瀧波(はなのたきなみ) 檜麓園の實生。移り白の舞重ねの多い巨大輪咲、大體花型は宜しいが、花芯部の瓣は稍長過ぎる憾があります。稍短幹で花保ちが宜しい爲に花壇の前置として見榮があります。但し葉癖は悪い方です。培養は至極容易です。肥料も花期も中位。

一一九、軒の玉水(のきのたまみづ) 菊地幽芳氏の實生。雪白色の大長走をもつた、極短幹の早咲大輪で、大正の末頃から昭和の初めにかけて相當に鳴らした花です。玉もよく、花芯もよく整ふ品評會向の花ですが、栽培は稍困難です。早挿して少肥で作る外ありません。

黄色系

一二〇、永久の輝(えいきうのかがやき) 黄色の大輪咲で、色彩、瓣質、花徑など何れも申分ありませんが、花芯部にも少し舞數の多い花です。花型、舞捌きは普通、中幹の作り易い品種、葉付きも宜しい。花期は中位。

一二一、鈴 蘭(すずらん) 美しい純黄色の大輪咲、但し花そのものは大したものではありません

せん。長幹で伸び易い故に注意を要します。培養は比較的容易で品評會用に適します。晩挿して暑中は半日陰地におき、肥料は少ない方が安全の様です。花期は中位。

一二三、忠勇の玉（ちゆうゆうのたま）黄樺色の大輪咲。黄色花の少ない細管物の中にあつて、色彩が好ましく、瓣捌きが鮮かて、玉、花芯共に申分のない名花はこれです。中幹で、小葉てはありますが、葉付きも宜しく、栽培は至つて容易です。稍晩咲て、花壇の殿り花として適します。

雑色系

一二三、山科の春（やましなのはる）京都の木村太一氏の實生。薄櫻色の大長走をもつた短幹の大輪咲て、瓣重ねが多いことと、花芯が見事に整調されることが何よりの特長です。されば一時は細管物の王座を占めた事もある名花です。缺點は栽培が稍困難で伸び難いことです。故に早挿して根張りのよい苗を仕立て、水排け、灌水、施肥、通風、日除などに注意して力作し、三尺五寸以上を目標として伸ばす様にすべきであります。肥料は少ない方が安全です。花期は中位。

一二四、越後獅子（えちごじし）濃紅紫色の大輪咲て、花壇向、品評會向の作り易い品種です。稍短幹で、葉も美しく葉付きも宜しく、早挿して中肥で作るとよく出來ます。

一二五、東洋の玉（とうやうのたま）薄櫻色の大輪咲て、悠々たる大長走と丸玉の段咲をなす咲振りは、見る人をして恍惚たらしめるものがあります。しかも眞に端正なる花芯を作り、美しい柔らかさうなその色彩と相俟つて、何となく貴婦人にも接する様な感じを與へます。中幹の作り易い早咲種てありまして、葉付きも至極よろしい。

一二六、東海の港（とうかいのみなと）中京百花園の賣出花て、蕎麥色と云ふ珍しい色合の花です。走瓣の非常に長い、玉巻の見事な段咲てありまして、栽培の容易な、短幹種です。花期は中位。

一二七、春日野（かすがの）菊地幽芳氏の實生。淡紅色の、瓣質のすんなりした、色彩の見事な典型的の花です。極短幹の早咲種てありますが、小葉て下葉が落ち易く、極めて作りにくい品種です。

八、針 管（はりくだ）

白色系

一二八、三つの朝（みつつのあした）菊地幽芳氏の實生。雪白色の管捌きの實に美術的な段咲

て、低いよく整調された花芯をもつた、巨大輪咲の名花です。短幹で幾分下葉の上る癖があり従つて栽培は難かしい方です。早挿して根張りのいい苗を仕立て、暑中は半日陰で培養すべきものです。肥料は少なくて宜しい。花壇用とするよりもむしろ切花向のものです。花期は中位。

一二九、朝霧（あさぎり）槇麓園の實生。雪白色の大輪咲で見事な八方走を現はし、丸舞丸玉の品のよい段咲となり、花型も亦極めて端正です。尙その上に至極作り易いと云ふわけで、廣く各地に於て作られてをります。長幹で花期は中位、芯蕾よりも側蕾を立てた方が好成績が得られます。

一三〇、精興の譽（せいこうのほまれ）精興園の實生。雪白色の、瓣質、管捌き、玉、花芯共に一點の非の打所もない巨大輪咲で、既に定評ある名花です。瓣数は、中京以西にては大體此の程度でよいと云はれてをりますが、東京人は今少し慾しいと云つて居ります。極草丈の低い品種で、木振りや葉は餘りよくありません。栽培は稍困難の方ですが、早挿して、肥土で水抜けよく植込み、肥料を控目に與へて、夏は半日陰地で幾分伸ばし氣味に作りますと、割合にすんなりと出来て、巨大輪に咲きます。花期は中位。

黄色系

一三一、國光の輝（こくくわうのかげ）精興園の實生。濃黄色の巨大輪咲です。花瓣は丸

瓣小玉で、瓣先に少し縮みを見せませすけれども、恰も針金の様な瓣質で、勢よく四方に放射します。短幹で早咲ではありますが、瓣重ねが多いので非常に永保ちします。葉付きも先づ我慢が出来ます。栽培は至極容易、肥料は少なくて宜しい。三尺位に仕立てればキツト良花が咲きます。花壇の前置に適します。

一三二、東海の響（とうかいのひびき）「國光の輝」と共に、針管黄色花中の双壁でありまして、花は美しき鮮黄色の大輪咲。これも短幹で、作り易い方です。栽培は大體「國光の輝」に準じて宜しい。

一三三、五絃の響（ごげんのひびき）精興園の實生。純黄色、極短幹の早咲種でありまして、袋舞の大走をもつた見事な丸舞丸玉の大段咲です。その整然とした力強い管捌きの有様は、夙に衆目をひく所でありまして。稍大葉で、葉付きも宜しく、割合に作り易い品種です。早挿して少肥で作ります。

雜色系

一三四、寶冠（ほうくわん）針管物に類の少ない紅紫色の中輪咲です。袋舞の走をもたない總玉ではありますが、花徑も割合に大きく、花芯も少し高い嫌ひはありますけれども、大體整ふてをりますので、代表的名花の中に加へられて居ります。長幹の作り易い木で、晩挿して

肥料を控目にし、木を少しく軟かく作るとい、花が咲きます。

一三五、軒端水（のきばみづ）淡樺色の中輪咲で、瓣重ねが多いにも拘らず、それを勢よく鮮やかに振り捌くところが此の花の特長です。花芯は芯吹てよくありません。中幹で花期も中位。

九、長 垂（ながだれ）

白色系

一三六、瑞 雲（ずるうん）古くから栽培されてゐる品種で、花は白色、宛ら瀧の落ちる様な大段咲となり、走瓣の長さが一尺八寸以上にも及ぶことは珍らしくありません。草丈は六尺有餘に達します。従つて秋期に至つて長雨にあひますと、下葉の上る傾向がありますから、軒下などに取込んで長雨は必ず避くべきです。栽培は比較的容易で、費料は少なくて宜しい。花壇用として面白いと思ひます。

一三七、天の川（あまのかは）一名を「岸柳」と呼んで居ります。青白色の青柳が垂れた様な段々咲でありまして、短幹で葉持ちする極くよい、作り易い品種です。花壇用、品評會用に適します。花期は中位、早挿して中肥で育てます。

黄色系

一三八、竹 取（たけとり）黄色の大段咲で、長垂中では玉巻も瓣質も優れて居ります。長幹で性質強健、作り易い品種ではありますが、花期の晩いのが缺點です。

一三九、秋芳の錦（しうはうのにしき）非常に美しい、純黄色の、瓣数の多い、大段咲でありまして、長幹晩咲の作り易い、葉保ちのごくよい品種ではありますが、芽立が非常に悪い爲、三本仕立とすることは困難で、一本仕立に限りませす。

一四〇、大鵬の輝（たいほうのかがやき）精興園の實生新花。淡黄色間管の、非常に瓣重ねの多い、大長垂走、玉巻大段々咲で、悠々二尺以上に垂れ、珍無類のものです。長幹で花期は中位です。

雑色系

一四一、藤乙女（ふちをとめ）淡紅色の大段咲で瓣質、玉共に申分なく、葉もよくつき、作り易い品種です。

一四二、羽衣の舞（はごろもものまひ）淡紅色大輪の早咲種で、大段々咲となり、長垂走瓣のなるものは悠々二尺以上に及び、一大美観を呈します。中幹で美葉をつけますけれども、下葉が上り易く、又瓣質が柔かくていたみ勝ちでありますから、栽培は稍困難です。

一四三、曠古の動（くわうこのいさを）精興園の實生新花。美しい桃色の、瓣重ねの多い、細管の大段々咲て、これ亦二尺以上にも垂れ、一大美觀を呈します。中幹で花期も中位。

一〇、美濃菊（みのぎく）

白色系

一四四、初霜（はつしも）純白色の中輪咲て、瓣數も相當にあり、花型も洵に宜しく、品のよい花です。中幹で花期は中位。

黄色系

一四五、黄金殿（わうごんでん）濃黄色幅廣の船底瓣で、瓣數も三十枚位はあり、花徑八寸に及ぶ早咲巨大輪です。短幹で、葉も美しく、栽培は比較的容易です。

雜色系

一四六、紫鳳殿（しほうてん）赤紫色幅廣（二寸位）の船底瓣で、瓣數も花徑も、大體「黄金殿」と變りない巨大輪咲です。短幹で性質強健、稍葉先の尖つた多肉の美葉をつけます。栽培は比較的容易で、花期は中位です。

大菊の作り方いろいろ

大菊は舊くから全國到る處に於て多勢の人々に依つて作られて來て居りますので、その作り方にはいろいろの方法があります。つまり初心者には初心者向の作り方があり、趣味の栽培者には趣味の栽培者向の作り方があり、商賣人即ちいはゆる玄人には、また玄人流の作り方があるわけです。同様に、不精者には不精者向の粗放的な作り方があり、熱心栽培家には熱心栽培家向の極めて集約な作り方があります。その何れによると致しましたも、大菊はそれ相當に咲きます。大菊の大衆的な面白味と云ひ、幾ら作つても容易に厭きない面白味の深さと云ふものは、そこにあると思ひます。それは兎も角として、

今これらの作り方を、極く大ざっぱに二つに分けますと、盆養法つまり鉢作り法と、畑作り法とになります。前者は鉢又は箱に植ゑて丹精して咲かせる方法でありまして、後者は直接畑又は庭に植ゑて咲かせる方法であります。次に各々に就いて、今少し詳しく分けて説明することに致しませう。

盆養法（鉢作り法）

大菊の作り方

これを更に細かく分けますと、次の通りになります。

一、先づ、用ひる鉢（又は箱）の大ききによつて分けてみますと、

(イ)大鉢作り（又は大箱作り） 口径一尺三寸以上の鉢又は箱を使用して咲かせる方法。

(ロ)尺鉢作り（又は尺箱作り） 口径一尺の鉢又は箱を使用して咲かせる方法。

(ハ)並鉢作り（又は並作り） 各々の菊花團體で定めてゐる、いはゆる標準鉢を使って咲かせる方法で、最も普通の作り方です。

(ニ)小鉢作り 口径六寸以下の鉢を使って咲かせる方法、従つて苗時代に一時小鉢を使って作るの亦別です。

二、次に、用ひる鉢（又は箱）の種類によつて分けますと、

(イ)瓦鉢作り 瓦鉢（瓦焼鉢とも黒鉢とも云ふ）を使って作る方法。

(ロ)素焼鉢作り 素焼鉢（赤鉢とも云ふ）を使って作る方法。

(ハ)コンクリート鉢作り（又はセメント鉢作り） コンクリート製の鉢を使って作る方法。

(ニ)土管鉢作り 土管鉢を使って作る方法。

(ホ)空箱作り 蜜柑箱とか、ビール箱などの空箱を利用して作る方法。

(ヘ)菊箱作り 大菊専用の體裁のよい木箱をこしらへて、それを使って作る方法。

三、また、大菊の仕立方によつて分けますと、

(A)一本作り（又は一本仕立） 一鉢に一本仕立てて一輪咲かせる方法です。主として、芽立の極く悪い品種を作る時、若しくは出品競技花の如き優秀なる花を咲かせたい場合によく行はれる作り方です。

(B)二本作り（又は二本仕立） 一鉢に二本仕立てて二輪咲かせる方法です。これには最初から苗を二本植込む場合も考へられますが、普通は最初一本を植込み、摘心によつて二芽だけを伸ばして二本仕立にして居ります。芽立の餘りよくない品種を作る時、又は最初三本仕立にしたものが、何かの原因でその内一本を損じた場合に行はれる方法です。而して双方の花は、大體同じ高さに於て、同時にほど同じ大きさに、しかも木を揃へて咲かせるのが觀賞上よいとき居ります。

(C)三本作り（又は三本仕立） 一鉢に苗を一本植込み、それを摘心して三芽だけを残して伸ばし、鼎狀に三本仕立にして三輪咲かせる方法です。これは最も一般的な作り方でありまして、大菊の盆養法と云へば、大抵此の三本作りを指します。

而して三本作りに於ては、三つの花が、同時に略同じ大きさに咲かなくては面白くありませんけれども、此の場合各々の幹が同じ高さとなつたのでは、如何たよく揃ふて出来ましても、

大菊の作り方

三、また、大菊の仕立方によつて分けますと、

(A)一本作り（又は一本仕立） 一鉢に一本仕立てて一輪咲かせる方法です。主として、芽立の極く悪い品種を作る時、若しくは出品競技花の如き優秀なる花を咲かせたい場合によく行はれる作り方です。

(B)二本作り（又は二本仕立） 一鉢に二本仕立てて二輪咲かせる方法です。これには最初から苗を二本植込む場合も考へられますが、普通は最初一本を植込み、摘心によつて二芽だけを伸ばして二本仕立にして居ります。芽立の餘りよくない品種を作る時、又は最初三本仕立にしたものが、何かの原因でその内一本を損じた場合に行はれる方法です。而して双方の花は、大體同じ高さに於て、同時にほど同じ大きさに、しかも木を揃へて咲かせるのが觀賞上よいとき居ります。

(C)三本作り（又は三本仕立） 一鉢に苗を一本植込み、それを摘心して三芽だけを残して伸ばし、鼎狀に三本仕立にして三輪咲かせる方法です。これは最も一般的な作り方でありまして、大菊の盆養法と云へば、大抵此の三本作りを指します。

而して三本作りに於ては、三つの花が、同時に略同じ大きさに咲かなくては面白くありませんけれども、此の場合各々の幹が同じ高さとなつたのでは、如何たよく揃ふて出来ましても、

觀賞上第一見にくく、且つ餘り引立たず、従つてそれだけの見榮がありません。

そこで三つの内最も丈の高いものを中心とし、これを鉢の中央より少し奥に立てます。次に之に次ぐ第二幹をその右前方又は左前方におき、丈の最も低い第三幹を第二幹と反対側の稍前方に配します。そうして恰も盆栽や活花に於けると同様に、天・地・人或は眞・行・艸と云ふ風に、程よく三者を配置して、中心となるものを第二幹及び第三幹によつて引立て引緊めて、

三つの花が最も美しく見られる様に仕立てます。若し三つの中、一つだけが高く、その他の二つが略同じ高さである場合には、丈の高いものを鉢の中央より稍奥におき、その左右前方に残りの二本を配しても構ひません。此の場合は花は△状の三隅に配置され、相當に眺められるものであります。

(D) 數本作り (數本仕立) 稀に行はれる方法であります。従来の型を破つた作り方ではありますが、仕立てて五輪或は七輪咲かせる作り方を云ひます。從來の型を破つた作り方ではありますが、可成り無理な作り方でありませぬから、一本作り——三本作りの様な大輪花が咲かないのが常です。故に特殊な技術のある方か、又は特に芽立のよい、發育の旺盛な品種に限つて行ひ得る方法と云つて差支へありません。

大菊の作り方

(E) 寄植作り 主として大箱や土管鉢などの様な、大型の箱又は鉢に植込んで、造形したり、

大菊の作り方

或は花模様をゑがいて眺める特殊な作り方があります。これも大菊本來の性能を蹂躪する場合が多く、餘り推奨すべき方法ではありません。

四、更に、用土によつて分けますと、

(a) 土作り 用ひる土ばいりんな場合によつて異なりますが、大體培養土を使つて作る方法とお考へ下さつて結構です。申す迄もなく、最も普通の作り方であります。

(b) 砂作り 純然たる砂許りで作ると云ふ意味ではありません。併し大體に於て砂を主とし、之に多少の礫や腐葉土若干を混ぜて作る方法が、此の砂作りです。根腐りを防ぎ、菊全體を引しめて作る上にはいゝ方法に相違ありませんけれども、始終灌水しなくては、いゝ花が咲きませんから、尙研究の餘地があると思ひます。

(c) 水耕作り (水耕培養) これは全然土を使はない方法ですが、便宜上こゝに附け加へておきます。人工培養液と云ふ薬と水を使つて作る、最も進歩した、甚だ興味のある作り方あります。我國ではまだ學者或は尖端好みの趣味栽培者によつて行はれて居るに過ぎませんが、歐米にては既に營利的に之を實施して居る所があります。場所に恵まれない趣味栽培者や切花本位の栽培者には面白い作り方あります。

五、今度は、作る場所によつて分けてみますと、

(1) 庭作り これは庭即ち屋敷内の空地で作る方法です。鉢は直接地面におく場合と、板などを敷いてその上に並べる場合とがあります。後者の方がよろしい。

(2) 棚作り 庭とか縁先などに棚を設けて作る方法です。庭作りよりは普通、日當り、排水共に宜しいのが常です。従つて作は概してよろしい。

(3) 屋上作り 物干臺の上とか、屋上で作る方法でありまして、相當の設備を要し、しかも栽培管理上種々の不便を伴ひますが、市内などで適當な空地に恵まれない人や、日常仕事に追はれて運動することの少ない人達には、洵に申分のない作り方であります。

六、最後に、作る目的によつて分けて見ますと、

(A) 趣味栽培 これにはいろんな場合が含まれてゐます。併し別に之と云つて確たる目的があるわけではなくて作つてゐる人が非常に多い様です。例へば(一)保健上によいからとか、(二)好きだからとか、(三)他に仕事がないからとか、(四)花が咲いたら裝飾用に使へるからとか、(五)自分が手がけたものが日々すく／＼と育つて行く所に無限の興味がある許りでなく、終には立派に咲いてくれるので非常に樂しみであるとか、(六)古今の名花を居乍らして鑑賞出来るからとか云ふのがそれです。何れも結構、希くば、もつと／＼菊作りを樂しむ人々をふやして、その喜びを分かちたいものです。

(B) 競技花栽培 一生懸命に丹精して作つた後、その作つた花を品評會に出品し、同好者と品評會場裡に於てその雌雄を決しようとする人々のやる作り方です。それが單なる闘争に終始したり、賞品目的であつてはいけません、技術の練磨法となり、優秀新花作出の動機を與へるものであれば、大いにやつてよいと思ひます。勿論最も進歩した、合理的な作り方ではなくてはならぬわけです。

(C) 花壇用栽培 盆養した後、之を花壇に陳列して、菊花壇で眺める目的で作る方法です。花壇は個人で作る場合もあり、團體で作る場合もあります。この場合花壇向の品種のみを作ることは勿論です。

畑作り法

これにも次の様ないろ／＼の作り方があります。

(イ) 直植作り これは場所も別して選ばず、整地も充分には行はず、只植穴を掘つて苗を植込み、時々思ひ出した様に肥料を施したり、蟲をとつてやつて咲かせる方法です。最も粗放的なやり方で、見方によつては不精者向の作り方とも云へませう。佛樣花をとるにはこれで澤山と云ふ人もありますが、それでは佛樣が可愛さうで、亦菊にも充分なる大輪咲は望めません。

(ロ) 實生作り 主として新種の作出を目的とする改良家の行ふ方法でありまして、この場合に

は、地漬を多く要します。關係上、なるべく地代の易い畑が用ひられます。

(ハ)畦作り 主として切花栽培家の行ふ方法でありまして、之を行ふ場合には、目當り、通風、水掛け、地味、地勢共に申分のない所が選ばれます。

(ニ)床作り 大菊の地植花壇を作る場合によく行はれる方法です。此の場合には、先づ日當り通風、水掛け、地味共に申分のない處を選び、豫め全面に元肥を撒布してよく耕起し、然る後に幅三―四尺、高さ三―四寸の平床を設けて、その上に適當な間隔を與へて苗を植込みます。そして肥培管理して咲かせ、愈々開花すればその上に障子屋根を設けて霜害を防ぎます。尤もかうするには、豫め草丈や花色などをよく考慮して苗を植込まねばなりません。

(ホ)垣根作り 四つ目垣などに沿ふて一列に植込み、菊垣を作る方法です。此の場合には、短幹種は短幹種だけを、中幹種は中幹種だけを、それぞれ一列として植込むが宜しい。

特殊栽培法

以上に申上げました外に、尙近來は次の様な特殊栽培法が行はれて居ります。

(イ)温室栽培 大菊では、主としてターナー系の洋種菊を切花栽培する場合に行はれます。和菊のうちでも、特に舞重ねの多い晩咲種で、降霜の爲に最後まで開き得ずに終る花は、此の様にして温室栽培を試みるのも一法です。

(ロ)被覆栽培 俗にセイドカルチュアールと云ふのがこれです。温室内で行ふこともあり、露地で行ふこともあり。前者は主として抑制栽培の目的で行はれ、後者は促成栽培の目的で行はれます。その原理とする所は、人工によつて日照時間を延長、或は短縮し、大菊の開花期を巧みに調節するにあるのです。而して日照時間を延長する實際方法としては電燈照明を用ひ、短縮方法としては黒布又は席の類を用ひて居ります。

大菊入門の時期

初心者が大菊作りを始める時期に就いては、いろいろ議論がある様です。例へば(一)、春彼岸頃からがよいと云ふ人、(二)、もつと遅く五月以後に入つてからがよいと云ふ人、(三)、春になつてからでは既に時期遅れであるから、必ず秋の花時でなくてはいけないと云ふ人等々であります。

而して(一)の説を固持する人達は、秋から始めるとすれば、冬の間は殆んど何も出来ない故、中途で氣が變り易い憂があります。それよりも春ばかり暖かくなつて、自然と土いぢりでもしたくなつた時に始める方が、一番氣乗りがよろしいし、此の頃なら直ぐ作業に着手出来

て、萬事好都合であると云ふのです。成る程御尤もな説であります。

次に(二)の説を唱へる人達は、どう云ふ理由に據るかと申しますに、大菊作りの第一歩は先づ挿芽からであるから、此の挿芽の適期から始めるのが順序であり、挿芽から始めるとすれば、その日から挿芽の状態を始終見守つてやらなくてはなりません。それ故徐々に發根發芽して、日々にすく／＼と伸びて行く有様が目前に展開してくるわけで、興味津々、最初から菊作りの面白味や楽しさを満喫することが出来ます。従つて此の頃に始めた人が一番上達が早いと云ふのです。これ亦理窟に叶つた、御尤もの説であります。

(三)の説を吐く人達は、大菊は春種子を播いて夏に花の咲く類の草花と異つて、完全に一ケ年かかつて始めて立派な花が見られる草花であるから、當然秋の花時から始めるべきです。さうしてこそ、自分の氣に入つた品種、良苗を比較的容易に入手することも出来、菊作りに大切な腐葉土や肥料なども滞りなく準備することが出来て、徒らに人手を煩はさないで、ほんたうの菊作りの苦勞と、それに百倍する喜びを味はうことが出来ると云ふのです。筆者もまた同感であります。

以上は主なる説三つをご紹介したに過ぎませんけれども、要するに大菊を作り度いと云ふお氣持がある以上は、何時お始めになつても結構です。どうかお始め下さい。只筆者の希望は、

どうせ菊作りをお始めになるなら、春からとか、挿芽の適期が来てからと云はず、菊花薫る明治節の佳晨を卜して、斷然着行實手願ひたいと云ふ一事であります。失禮乍ら、それだけの御決心と勇氣がおありになるならば、「あなたは今、今年も亦菊作りの時期を失してしまつた」などと歎くことなく、御覽下さい、此の菊を」と云ふほどに、あなたのお作りになる大菊は必ずや見事に咲くであります。

○大菊の入門の日や明治節

玲 瓏

先づ師を選べ

初心者、大菊作り入門の最初に當面する難關は、一體何から始めたらよいかと云ふことであり、次に來る問題は、どうして優良なる品種の苗を安く手に入れるかと云ふことであります。此の場合、幸ひ知人に大菊作りの先輩でもありますれば兎も角、さもない時には一寸躊躇します。

そこで必要なのが、大菊作りの先生であり、手引書であります。従つてその選擇は充分に吟味しなくてはなりません。

先づ先生とすべき人に就いては、

一、此の人は毎年よい花を咲かせてをられるかどうか。

二、よく親切に教へ導いて下さる人か否か。

三、著名の菊花團體に關係のある人か否か。更に出来ることならば、

四、直ぐに金銭上の事に結びをつける人ではないだらうか、その實如何。

等々をよく調べておく必要があります。その結果、此の人なら自分の先生として尊敬し、教を受けても絶対に間違ふなからう、と断定が出来ましたならば、少なくとも最初の一年間は、訪問により文通により親しく教を乞ひ、絶対にその人の教を守り、決して他の人々の云ふことを加味してはなりません。世の中には、まるで商品見本でも取寄せる様な軽い氣持で、大菊作りの先輩とさへ聞けば、誰からでも話を聞き或はその發表した記事を読み、それをよささうだからと云つて直ぐに自分の菊に應用し、恰も試験臺の菊の様な作り方をして、結局碌な花を咲かし得ずに終る人が少なくございませんが、初心者にはこれは絶対禁物であります。先生を選ぶと同時に、その先生の教へられた通りに一生懸命に作つてみる、これが最も肝腎であります。

次に、手引書の選擇に就いて簡単に申し上げます。手引書は、先生として教を乞ふ適當な先輩が自分の住む近くに見當らない場合に必要であります。それ故に先生の代りとなつて、これな

ら何人が試みても絶対安全で、確實に相當の大輪花が咲く大菊の作り方だ、と云ふ方法に就いて、その順序方法の實際と、各々の要所々々、それに注意事項などを、懇切平易に且つ要領よく書いたものであつて欲しいと思ひます。徒らに甲説乙論丙法丁唱をあつめ、ためにその何れを可とするか、讀者の去執に迷ふやうなものは、初心者には避けた方がよろしい。本書「秘傳大菊の作り方」はそこを狙つて書いたものでありまして、出来るだけ安い値段で廣く一般に頒たうと云ふにあるのです。

品種の選擇の仕方

初心者が手始めとして大菊を作る場合には、品種は何であつてもよい様に云ふ人があります。また往々さう考へて居る人があります。それがため、自分の技術のことなど考へず、無暗に輪の大きいものとか、色彩の非常に美しいものとか、カタログなどに大書された高價な新花などを慾しがれる傾向があります。これは或は人情の常かも知れませんが、けれども、その結果はどうかと申しますに、大槪期待に反して失敗です。樂んで一生懸命に作つた末、若しさうであつたなら、こんな口惜しい話はありません。氣の短い人は、それつ切り大菊作りを斷念してし

まひます。事實さうした例が澤山あるのです。故に初心者は、最初、

第一に、作り易くて、當り外れなく必ず相當の大輪に咲くもの。

第二に、自分の好きな色彩及び花型のもの。

第三に、なるべく値段の安いもの。(性質の未だ充分にわからない高價な新花よりも、幾多の

先輩によつて何回となく試験済の安い古花の名花中からお選び下さいと云ふ意)

大體、右の見當で品種を選択して戴いたならば、開花期に至つて、まさか失望される様なことはなからうと信じます。

尙品種の選擇に就いては、知己の菊作りなり、先輩なり、同好者なりによく相談して教を乞ふと共に、一方明治節を中心として、全国各地では菊花陳列會が催される筈でありますから、努めてそれらの陳列品を參觀し、菊花に對する鑑識眼を養ふておくことが肝腎であります。

菊苗の入手法

愈々所望の品種が決りましたならば、苗は先輩若しくは同好者から分譲して貰ふに越したる

とはありません。けれども、昔からいゝ菊を作る位のお方は根性の悪いものと略定つてをり、捨る苗があつても仲々分譲して呉れません。つまり自分一人て楽しんで、門外不出で押通さうと云ふ一種の惡癖があるのです。現在ではかう云ふ惡風は餘程少なくなつて居りますが、地方にはまだ「頑固爺さんが居て、「此の菊は俺の家より外にはない」などと威張つてゐるのをよく見受けます。

従つて菊苗を分譲して呉れる先輩も知人もなく、また近くに同好者もない場合には、已むを得ず菊苗業者から求めなくてはなりません。その際は、方々からカタログを取寄せて、値段を比べ合せて安い店から買ふ様にするのも確かに一法であります。要するに問題は、

第一 品種が絶対に正確であること。

第二 健全なる苗であること。

第三 なるべく値段が安いこと。

であります。結局信用のある菊苗屋から取寄せる外はないと思ひます。(別掲菊苗業者参照)尙、先輩や同好者から菊苗の分譲を受けた場合には、なるべく早く、出來得るならば秋の花時から豫約しておく様になさるが宜しい。これは分譲を乞ふ者の是非心得ておかねばならぬ苗をうまく入手する秘訣であります。

培養所と設備

大菊は朝顔の様に熱を好む植物ではありません。従つて夏終日強烈な日光の照付ける所や、風通しが悪い爲に蒸れる様な所では、どうしても好成绩が得られません。また大菊は、強風や乾燥性の甚だしい冬の西北風の當る場所を好まぬものです。

故に先づ理想的な場所としては、東南に面して開け、西北方に建物又は立木或は塀或は山があつて、冬期は寒風を防ぎ、夏期は強烈なる西日を遮り、秋から冬—春—更に初夏の頃まで、なるべく日當りのよい、しかも風通しの良好な所と云ふことが出来ます。

斯様な條件を具へた場所は、農家或は郊外の住宅地にあつては、少しも珍らしくありません。従つてさう云ふ所では、庭に跳泥のかからぬ程度—高さ一尺内外—の頑丈な柵を設け、その上で作る様に致します。さすれば、単に跳泥が鉢や葉にかからない許りでなく、地面においた時の様にミミズなどが底孔から入つて加害する心配もなく、通風も遙かに良好となり、觀賞する上にも宜しく、菊の生育上にも甚だ好結果を齎します。

市内などで、さう云つた適當な場所を持たない場合には、なるべく前述の條件に近い場所を

選び、多少の補助設備を施して、所謂屋上培養所を設けます。場合によつては、物干臺を少し大き目に作つておいて、その一部を大菊栽培に流用しても宜しい。その何れに依ると致しましても、足場は必ず板張りとしませす。若し足場が、トタン板やコンクリート張りてありますならば、更にその上へ格子板をおいて、その上で作る様にした方が菊の爲に安全です。

尚屋上培養所の西北が開けてゐる場所では、西北を二重葺きなどにて圍つて、強風や乾燥性のある冬期の西北風を避けることが肝腎であります。

必要な用具

- 一、如 露 灌水用に使、あり合せのもので結構です。
- 二、移植機 草花用のもので結構、移植その他に用ひます。
- 三、土 篩 腐葉土や土砂などを篩ひわけるに用ひます。大小二通りあると好都合です。
- 四、挿芽箱 空箱を改造したもので宜しい。深さ三寸位、底に小孔をあけておきます。
- 五、肥 壺 油粕などを腐らせて液肥（水肥）をつくる時に必要です。安物で結構です。
- 六、輪 臺 花瓣がだらしなく垂れることを防ぐために用ひる花受です。

培養土及び肥料

大菊の培養土及び肥料は、吾々人間にたとへれば安住の住家と一日も缺くことの出来ない食物に當ります。従つて培養土が不完全なものであつたり、肥料が不充分であつたならば、如何に苗がよく、培養所が理想的でありましても、健全なる發育開花は絶対に望まれません。故に大菊作りに成功するには、どうしても培養土や肥料に就いても充分吟味を要します。

〔培養土〕大菊の培養土として具備すべき要件は、大體次の通りであります。

一、相當に肥料分を含んで居ること。

二、膨軟輕鬆で、水抜けがよいと同時に、相當保水力に富んで居ること。

三、なるべく病菌や害虫或はその卵などを含有して居らないこと。

故に、大菊を庭や畑に直接植付ける場合には、なるべくこれらの條件を具へた所を選んで作る様にすれば宜しい。例へば葱とか大根などを作つた跡地に植付けるのが一番適當です。

また、大菊を盆養即ち鉢作りする場合には、腐葉土、藥腐土又は馬糞土、川砂、畑土、田土(荒木田)、藥灰などを次の如く配合して、前述の諸條件を完備した培養土を作つて用ひます。

第一例 田土(荒木田)：三、腐葉土：七、これに少量の藥灰を混ぜます。

第二例 腐植土(芥土)：三、田土：一、荒目の川砂：一。

第三例 畑土：四、腐葉土：一、藥腐土又は馬糞土：三、砂：二、藥灰約一割

尙培養土の調製に用ひる腐葉土、藥腐土又は馬糞土の類は、いづれも晩秋の頃から原料となるべきものを、庭の隅などに堆積しておき、翌春四―五月頃までに何回となく切崩して積み直し、充分腐熟させた後、一旦三―四分目位の土篩にかけて下し、雨露のかからない處に貯藏しておきます。而して之を使用する際には、一度充分日光消毒を行ひ、然る後に如露にて水をかけ、豆腐粕位の濕りを與へて用ひます。

〔肥料〕大菊の肥料は、乾燥肥料と水肥をつくつて使ひます。前者は専ら基本肥料として用ひ、後者は補助肥料として用ひます。次にその製法の一例を申上げませう。

一、乾燥肥料 油粕か又は鯨粕を、菊一鉢に付約一合五勺、十鉢分なら一升五合を用意します。

これに如露にて水を與へてよくかきませ、グツと掌に握りしめても水が滴れない程度の濕り加減にしたものを、蜜柑箱などに入れて、その上にぬれ蓆などを覆ふておきます。時期は十二月―一月頃が宜しい。凡そ十日許りて醗酵しますから、箱から取出してよくかきませ、水分が不充分的様であれば、更に如露にて前の如く水をかけて、元通り箱に入れて蓆をかけておきま

す。此の様な操作を二回ほど繰返しますと、遂には完全に腐熟して酸酵熱を生じなくなりますから、その冷たくなつたものを取り出して粉末とし、箱に入れて貯へておきます。

二、水肥 油粕の粉末一升に、水約一斗の割合で、カメに入れて充分に腐らせた汁を、適宜に稀釋して用ひます。此の腐汁は、夏だと約十日で、冬だと約一ヶ月で完全なものが出来上りますが、寒中にこしらへておきますと、夏になつてもボウフラやウジがわかないで済みます。

大菊栽培用の鉢

大菊作りに用ひられる鉢には、瓦鉢、素焼鉢、常滑鉢、コンクリート鉢、丹波鉢、信樂鉢等種々あります。此のうち瓦鉢は、全國到處で産しますので、第一買ひ易く、第二に氣水の流通や日光熱の吸収などが宜しい爲に一般に好成績が得られ、第三に花や莖葉とウツリが宜しい。故に、大菊作りに最も好適した鉢と云ふことが出来ます。これに次いで、コンクリート鉢、丹波鉢などが割合に多く用ひられて居ります。

鉢の大きさは、仕立中の鉢と本鉢とは勿論異なりますし、また、菊の種類品種、或は仕立方などによつても異なりますから、各論でご研究下さい。

挿芽の仕方

大菊は根分法によつて苗を仕立てる場合もありますが、挿芽法によつて仕立てた方が、葉持ちもよく、栽培も容易でありますから、近來は専ら挿芽法によつて苗を仕立ててをります。

挿芽の適期は、大菊の種類や品種により、或は仕立方により、また所により、人によつて異なりますが、今東京地方を例として大體の標準を申し上げますと、次表の通りであります。

種別	三本仕立の適期	一本仕立の適期
短幹種	五月上旬	六月上旬
中幹種	五月中旬	六月中旬
長幹種	五月下旬	六月下旬

挿床は、時にフレーム内又は畑に設けることもありますが、普通は底に排水用の小孔を穿つた、深さ三寸位の浅箱に、先づ鉢片を入れて底孔を覆ひ、その上に厚さ五分―八分位ゴロ土や消炭などを敷いて、充分水抜きの出来る様にし、その上に用土を一寸乃至一寸五分位の厚さに入れて、表面を均らし、いはゆる挿箱を作つて用ひて居ります。

この挿箱に入れる用土としては、鹿沼土か川砂か赤土（畑土）か朝顔を作つた古土かが用ひられてゐます。或はこれらの材料を二つ或は三つ位適宜に配合して用ふることもありまゝです。その何れによつても宜しいが、これらの用土中にミチンコ（微塵粉）と云つて、粉末状の土が澤山まじつて居りますと、挿芽後に挿穂の切口から腐れ込む恐れがありますから、用土は使用する前に、一應細目の篩にかけてミチンコを篩ひ去つてから用ふる様にすべきであります。

次に、挿穂は、大體次の見當で選んでいただきます。

一、親花の優秀な株からとること。

二、健全に發育し、病蟲害に冒されてゐないこと。

三、相當に肥大し、しかも節間がなるべく短かく、質が引緊つてゐること。

従つて餘りに肥大したもので、節間の伸び過ぎて瘦せたものなどは、避くべきであります。尙挿穂は、早朝か夕方の方の水揚げのよい、生氣潑濺とした時に取るのが宜しい。而して挿穂をとるには、天芽つまり芽先だけを二、三寸の長さに切り取り、そのうち下方にある芽は、挿芽する時に邪魔となるもの一、二枚だけを切り取ります。かうして切り取つた挿穂は、直ぐに水の中に切口を浸し、二、三十分許り水揚げさせてからいよく挿してやります。

挿すには、先づ挿箱に底から水の抜けるほど充分に如露にて灌水し、次に竹箸の先にて、一

寸角に一つづつ深さ八分位の挿穴をあけて、前述の水揚げしておいた挿穂を一本づつその中に穴の深さだけ挿して、一々その根元をよく壓へておきます。

かうして挿し終つたならば、それ／＼に花名札を落さぬ様に、且つ間違はぬ様に正確につけて、もう一度頭から細目の如露にて灌水してやります。それから通風の宜しい、併し餘り強風の吹き當てない、朝日によく當る盆栽棚の上などに載せ、挿箱の上約一尺位の高さに、二枚葎簀をかけておきます。

その後當分のうちは、乾き加減を見計らつて、適宜灌水して行きます。約一週間を経て葎簀を一重とし、灌水も葉水を一回やるだけにとどめます。さうすると、大體二週間頃からそろ／＼發根して參るものがありますから、此の頃に至つて葎簀を全く取去り、充分日光に直射させ、上土が白く乾く様ならば始終灌水します。此の様にして管理して行きますと、挿芽後大體三週間内外にて大抵發根し、挿苗が得られるものであります。

挿苗の鉢上げと摘芯

挿苗の鉢上げは、發根後根が五、六分に伸長した時（五月二十日挿のものは六月十日前後）

に行ふのが、最も安全且つ好結果が得られます。それより更に伸長して一寸以上に及び、隣接した苗と苗の根が互に噛み合ふ様になつてからでは、既に時期遅れであります。斯様な苗は、植替によつて根傷みが多く、従つて鉢上げ後元氣を回復する迄に著しく作遅れとなります。

鉢上げに用ひる鉢は、五―六寸鉢が宜しい。焼は矢張り瓦焼鉢が一番宜しいけれども、この時はまだ氣温もさほど高くはなく、従つて苗の根焼けを起す心配もございません故、常滑の駄温室（堅焼安赤鉢）でも丹波鉢でも、あり合せのものを使つて結構です。

鉢上げの要領は、先づ鉢底に鉢片を入れて底孔に覆ひ、次に蠶豆大の木炭を七―八分の厚さに底に敷きます。それからゴロ土を少々入れ、その上に培養土を入れて、次に丁寧に掘取つた苗を、一本づゝ根を四方に擴げて鉢の中央に据付け、軽く根元を壓へて鉢九分目に培養土がおさまる様に植込みます。尙植込む際には、乾燥肥料をコーヒ―匙二杯ほど、鉢の兩側、根から少し離れた所に埋めておきます。

かうして植ゑ終つたならば、花名札を立て、如露で充分に灌水します。それから二日ほどは半日陰の所におき、三日目頃から徐々に日光にあてる様にして、五―六日目には、培養棚の上にならべ、終日日光にあてます。そして上土が白く乾けば灌水してやります。白く乾かないうちに灌水するのはよくありません。

三本仕立基本の方法

鉢上げ後、苗が三寸―四寸位に伸びましたならば、三本仕立にする心算のものは、早いのから順々に摘芯を行ひます。その仕方は、芯のほんの僅かばかりを、先端の尖つた鋭利な小鋏か爪先で、切口を潰さぬ様に切り取る程度で宜しい。

前述の方法によつて摘芯致しますと、上部の葉腋から新芽が出てくるまでは、苗の地上部の生長が一時停止するものです。故に摘芯したならば、その後二回ほど、百倍位にうすめた水肥を與へて元氣づけてやるが宜しい。やがて葉腋からは、三―四本乃至五―六本の芽が相前後して吹出して参りますから、その中で最もよく揃つた、しかもなるべく相接して出じた、よい芽三本だけを残して、他の餘分の芽は残らず掻きとつてしまひます。

此の様にして、摘芯後に生じた三本の芽が、凡そ四―五寸に伸長した頃、その各々の枝を靜かに三方に誘引してやります。この誘引作業は、もつと早くから行ふ人もありますが、初心者には最初四―五寸に伸びた時を標準としておやりになるのが一番安全で、且つやり易いと思ひます。その方法は、先づ主枝に添つて短い支柱を立て、その支柱からファイアで三本の枝を分岐

點から餘り遠くない所で軽く吊り、次に各々の枝先を針金（銅線が宜しい）でこしらへた鉤にて鉢の中心部から正しく三方に、水平近く靜かに引下げて固定します。（口輪寫眞及び四）
 其の後三本の枝が伸長して鉢縁から二―三寸外方に伸び出た時、各々の枝に添ふて夫々篠竹を立て、鉢縁邊から枝を靜かに上方に向けて誘引し、三本仕立の基本を作り上げます。

柳芽の事

柳芽と申しますのは、七月八月頃に至つて、大菊の芽先が三つ―四つに分れて、眞中に柳の葉の様な葉を生ずるものを云ひます。この柳芽は、普通一回出来るだけで済みませんが、時により、又種類によつては、二回以上出来ることがあります。
 而して柳芽は、一見蕾と何等異ならない様に思はれますが、之は花の咲かない場合が多く、たとへ咲きましてもお行儀の悪い、觀賞價値の低い花が多い様です。それ故に柳芽が出ましたならば、それが確かに柳芽であることがわかつてから之を摘取ります。しかし決して早く摘み取つてはいけません。三本仕立の場合は、三本共必ず略揃つて柳芽が出るものでありますから、同時にそれを摘取る様に致します。でないとい、開花期がうまく揃ひません。

主要大菊團體

〔ゴヂツク（太字）は最も有力なるもの、○印は比較的大なるもの〕

會名	事務所所在地	備考
○秋香會	東京市麻布區飯倉町五ノ二一	中菊（江戸菊）を主とす
東京重陽會	東京市足立區千住町二ノ二〇	全國に支部あり、大菊を主とする我國最大の團體
○千秋會	東京市四谷區仲町三ノ五	小菊を主とする最大の團體
長生會	東京市世田ヶ谷區東玉川町三七二七	菊と朝顔の會
○東京國乃華會	東京市本所區石原町三ノ四	
大日本菊花會	東京市豐島區巢鴨町三ノ三〇	秋末に菊花を靖國神社の境内に飾り護國の英靈を祀める目的で成立
九段靖香會	東京市麴町區九段三丁目二ノ一一	
靈岸島花乃會	東京市日本橋區箱崎町二ノ六	
京北菊友會	東京市足立區千住橋戸町五八	
秋晴會	神奈川縣川崎市大師町清尙閣内	
		松濤 芳俊氏方
		林 勇 太郎氏方
		林 繁 樹氏方
		石飛 太吉氏方
		村瀬 唯一氏方
		矢島 道次郎氏方
		八木 福 三氏方
		荒谷 正己氏方
		小野寺 正二氏方

大菊の作り方

- 横濱菊花會
- 横濱市神奈川區楠町五九
- 漫越菊花會
- 名古屋市中區西白山町四〇
- 金城菊友會
- 名古屋市昭和區下構町一丁目
- 安城菊友會
- 愛知縣碧海郡安城町
- 漫華秋芳會
- 大阪市北區中之島二ノ二一
- 京都朝顔研究會
- 京都府京都市島丸通寺ノ内上ル
- 小菊同好會
- 北海道小樽市花園町東三ノ六
- 下野晃陽會
- 栃木縣安蘇郡佐野町
- 菊水會
- 神戸市須磨區天神町三丁目
- 姫路菊の會
- 兵庫縣姫路市
- 佳友會
- 兵庫縣明石市
- 仙臺清香會
- 仙臺市北四番町一二四
- 青森鐵道交會
- 青森市青森鐵道診療所内
- 岐阜秋麗會
- 岐阜市
- 菊花研究會
- 東京市葛飾區高砂町京成電氣内

松日樂與吉氏方
鈴木悳二氏氣附
鹽燒 一龍氏方

我國三大大菊團體
の一つ

奥田繁次郎氏氣附
淺 妻氏方
旭岡 輝泰氏方
駒井 元哉氏方
姫路市々役所内
商工會議所内
石川 純策氏方
山口 濂氏方

地方に於ける有力
なる大菊團體、東
京重慶會系

大菊の作り方

- 東花研究會北
- 盛岡市
- 聚芳會
- 青森縣八戸市字類家大字向田屋
- 芳友會
- 青森縣八戸市
- 國香會
- 青森縣八戸市八幡町一四
- 長香會
- 青森縣八戸市長横町
- 安房愛菊會
- 千葉縣安房郡鴨川町
- 成田山栽菊社
- 千葉縣印旛郡成田町
- 香取神宮
- 千葉縣香取郡香取町
- 菊花奉納會
- 千葉縣香取郡豐和村古城
- 香友會
- 埼玉縣北埼玉郡忍町行田
- 佐賀秋芳會
- 佐賀市役所内
- 秋芳會
- 福岡市庄字瀉二五
- 土浦愛菊會
- 茨城縣新治郡土浦町本町
- 古府菊の會
- 廣島縣蘆品郡府中町
- 會寧菊花會
- 朝鮮咸鏡北道會寧郡會寧邑鐵道官舎

山 下氏方
橋山 治郎氏方
大里 雷太郎氏方
原 進一氏方
成田 山内
香取 神宮内
鎌方 秀次郎氏方
福田 方
豐島庄次郎氏方
瀬尾 安夫氏方
鹿屋芳太郎氏方

八戸地方にて有力
なる會

著名菊苗業者(附鉢屋)

(ゴヂツクは代表的なるもの、○印は優品を出す店)

大菊の作り方

園名	園主	所在地	備考
横麓園	辻林吉雄	大阪府仙北郡横山村	日本一の菊花實生改良家、多くの名花を作出してをられる 辻林氏と並び稱される人
精興園	山手義則	廣島縣蘆品郡常金丸村金丸	菊苗商老舗
宇治朝顔園	上林種太郎	京都府久世郡宇治町一三七	仲々手堅し
○中京百花園	熊澤信義	名古屋市中區老松町四ノ三五	よく宣傳す
香華園藝場	村上 巍	神戸市灘區篠原南町五丁目五二三	
阪神園		兵庫縣尼ヶ崎市外武庫川	
東海園		静岡縣濱松市外和田村薬師	
○小松園	小林福太郎	兵庫縣武庫郡上甲子園	よく宣傳す
東光ナーセリー	伊藤東一	東京市大森區田園調布温室村	秋菊の外に洋菊及び夏菊あり
吉岡菊花園	吉岡隆二	岡山縣久米郡福渡町福渡一〇三七	大菊もあるがむしろ丁字菊や小菊で有名

横麓園の古花全部を一手に引受けて販賣
美濃菊

開園してからまだ年が浅いが
名花を賣出してゐる

大菊の作り方

奥村秋彩園	森川專一	大阪泉北郡和泉町
菊樂園		岐阜縣羽島郡竹ヶ鼻町下町
北谷芳華園	小竹佐一	大阪府南河内郡高向村
三國園		大阪市東淀川區三國町八二三
佐々木静観園		京都市右京區嵯峨中院町
○玉花園		神戸市須磨區太田町三
大芳園		奈良縣吉野郡下市口驛東へ一丁
○東大阪園藝場	猿棒忠恕	大阪府布施市足代
太花園	植野桑藏	静岡市鷹匠町三ノ三八
三彩園	奥村國太郎	奈良縣生駒郡富雄村二名
紫紅園	久保五百吉	香川縣香川郡佛生山町
中島園藝場	中島忠司	静岡縣小笠郡朝比奈村京松原四八九
早川醉花園	早川善一	愛知縣西春日井郡新川町寺野二一
上田秋芳園		三重縣四日市市南濱田中組
小郷豊翠園		兵庫縣加古郡平岡村

○一生園	六山定憲	山口縣都濃郡徳山町
精華園		香川縣香川郡佛生山町
日本菊苗會	多田與三郎	東京市板橋區中新井町三ノ二〇八〇
大正園	尾崎哲之助	東京府北多摩郡小金井村
粹光園	大西晟倫	廣島縣蘆品郡新市町
大日本國華實生園		大阪府泉北郡横山村
薔薇植物場		兵庫縣川邊郡長尾村山本
細野高松園	細野清藏	名古屋市南區高畑町
淡香園	橋山治郎	青森縣八戸市八幡町一四
三重農場		三重縣三重郡菰野町西菰野
有馬農場		兵庫縣有馬郡有野村五社
筑麓菊花園		茨城縣眞壁町
東京菊花研究會		東京市牛込區富久町一四
精花園	中西新之助	兵庫縣武庫郡蘆屋
内藤商店	内藤福太郎	東京市本所區吾妻町二ノ三三

小菊を主とした實生改良家

元國華園と稱す

カタログの「大菊名花選」は見物也

大欄菊(奥州菊)

菊朝顔録その他録専門

厚物・厚走の一本仕立法

數ある大菊の中で、最も作り易い初心者向きの種類はこの厚物と厚走で、特に一本仕立は最も容易、且つ簡便で、誰方にも十分楽しんで戴けるものです。只、厚走は厚物に比して稍々肥料を控へ目に、厚物に三合の乾燥肥料を用ひるとすれば、厚走には二合五勺位にする程度で、他は全く同様でありますから、そのお心算でお作り願ひます。

〔開花株の保護〕 前年と同じ色合の厚物なり厚走り菊を作るならば、花の凋みかけた頃に三寸位莖を残して切棄て、土面に出てゐる新芽を保護する目的で、風當りの少ない、温かな日當りの軒下なり、フレーム中に取入れておきます。

三月初め頃になりますと大抵三、四寸近く伸びてゐますから、この時に、全部土際から切棄てます。すると間もなく新しい、軟かな芽が澤山に吹出して来て、五月の挿芽時には五、六寸に伸びて、理想的な挿穂が得られます。

若し初めて菊作りを手がける場合とか、變つた色合の種類を作らうとする場合には、春の彼岸頃、根分苗といつて前述の如く冬越しした前年の株より白根を一寸位つけて掘取つた新芽を

求めます。これを腐葉に畑土半々の土を盛った浅い木箱（三、四寸）に植付け、根づいた後挿芽を行ふ迄に二、三度油粕の腐汁を與へ、伸長と充實を圖る様にすればよいのです。

〔挿芽の仕方〕 挿芽の時期は、品種や地方によつて多少相違する筈ですが、東京附近では大體五月末から六月二十日頃までに挿終れば十分間に合ひます。

挿芽を行ふには、それを挿す挿芽箱を準備します。深さ三寸位の桃、枇杷などの空箱を利用します。底板には小穴を澤山にあけ、一並び位に大豆大の消炭かゴロ土を敷いて水排けをよくします。この上に水苔を半分加へた鹿沼土か、前年の古土に少量の川砂と薬灰を加へたものか腐葉に畑土を半々に加へた土を盛ればよいのです。

挿すには、先づ中心の親株より、なるべく離れて出た新芽を挿穂とします。挿穂は節間のつまつた中庸の芽たる事で、二寸位の長さに切り取りますが、切り取つた残りの莖の部分を二寸位の長さに切り取り、所謂莖挿を推奨する方もあります。

それは兎に角として、安全刺刀の刃などで切り取つた挿穂は、消毒のため四十倍のリクイド液に浸け、二十分後に取出して水氣をよく去り、下葉を二、三枚切棄て、直ちに木箱へ一寸二、三分間隔に挿すのですが、切口を傷めぬ様に割箸で小穴をあけて七、八分ほど挿込み、地際をしつかりと壓へておきます。これでも後の手入さへ十分であればよく活着するのですが、挿込



掘出した挿芽苗の鉢植法

肥料土

屑炭

む部分に乾いた川砂を豫め詰めておくと百發百中といはれてゐます。

尙一法として、よく搗つぶした鹿沼土か赤土で小さな團子を造り、これに小穴をあけては二三分ほど日陰で乾かした挿穂の切口を挿込み、軽く手で握りしめては土中に埋めゆく、所謂團子挿にすると、着かぬものなしとまで言はれてゐます。

兎に角、挿し終つたならば、ごく細目の如露で十分灌水し、風と雨の當たらぬ日陰に取込み、四日に一回の割合で水を與へます。この折に餘り水が多過ぎると挿穂が腐つてしまひますから、多少乾き目に保つのが安全です。

一週間ほど後からは葎簀下に出して薄日に當て、隔日位に灌水してゆきますと二、三週間て

大抵根づきますから、一本づつ五寸位の瓦鉢に植付けるのです。
 「鉢上と其後の管理」 根を切らぬ様に竹へらで挿芽苗を掘起し、團子のついてゐるものは軽く水で洗つて落します。そして豫め鉢底に消炭を四、五分厚さに敷き、腐葉土(二、三日前に十分乾しておきます)に二割ほど荒木田か畑土を加へた土を半分ほど入れた上に苗を据ゑ乍ら再び土を入れ、茶匙に二ハイほどの乾燥肥料を埋める様にして植込みます。その後水を十分與へたならば直ちに日當りの土面へ並べますが、若し凋れる様であれば、二、三日ほど日中のみ葎簀を掛けて保護すれば申分ありません。

この一本仕立ては、別に摘心を行ふ必要もなく、只莖をぐんぐん伸してゆけばよいのですから簡單です。但し兎角一本立にしますと莖が伸過ぎる傾向がありますから、前述の如く挿芽の時期を三本立より遅くすると共に、常に凋れぬ程度に灌水を控へ、また風通しのいい場におき努めて徒長を防ぐ事が肝要です。

併し徒長を防ぐ便法として、摘心を行つて一時勢力を止め、更に根の伸長を圖る方法を實行してゐる人があります。その方法を具體的に示しますと、四、五寸の小鉢へ挿芽苗を植付けてから、莖が四寸位に伸びた頃、丁度三本仕立のために摘心を行ふと同じ時に、二葉つけて先を摘取ります。そして二本の芽を出させ、その中で真直ぐで且つ太い、丈夫な芽を残して他を撮

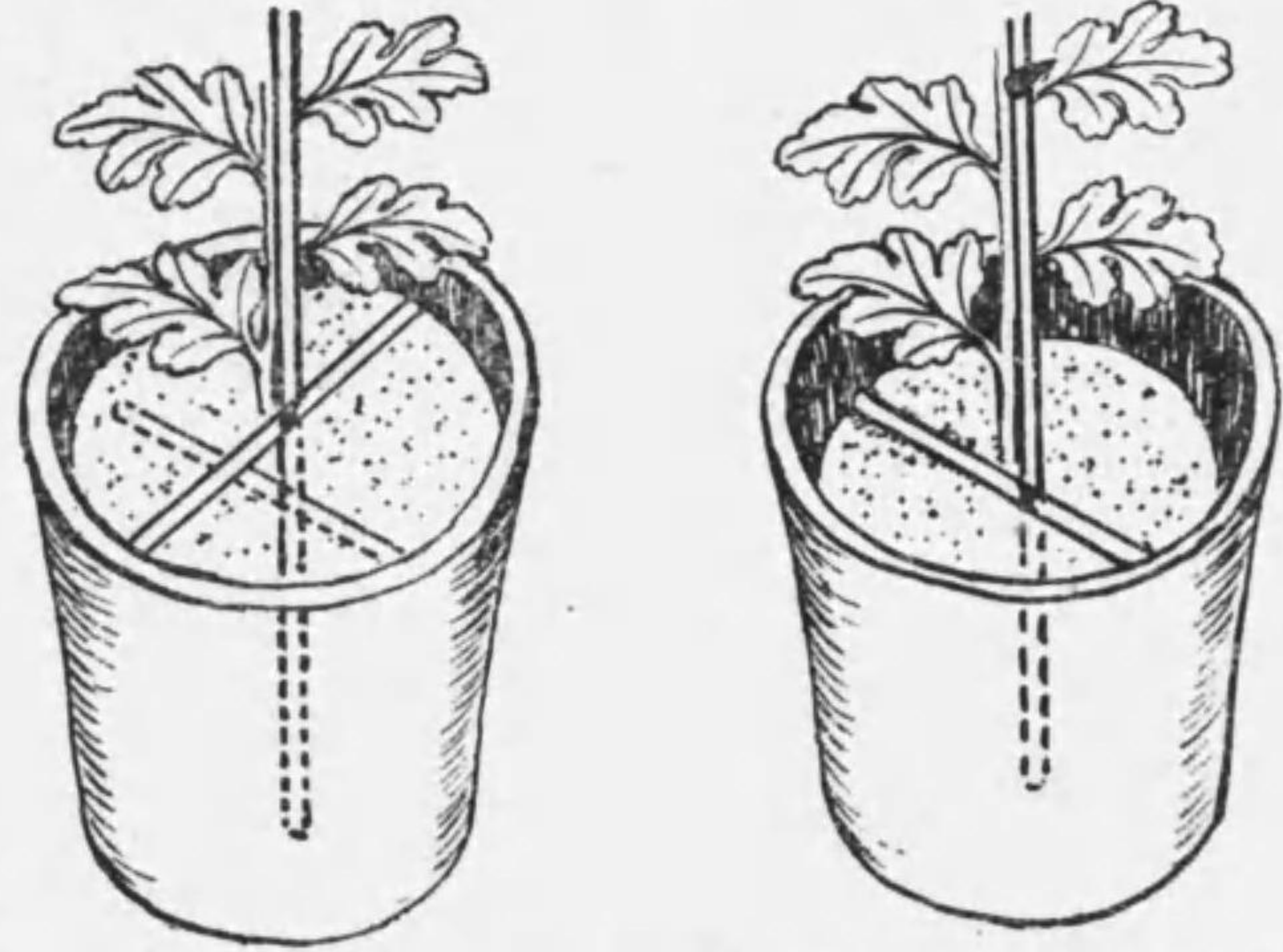
取つておくのです。この一回でまだ不十分な時には、七月下旬の本鉢へ植付ける頃、一寸ほど先を切棄て、上より二本ほど芽を立て、適當な時に何れか一本にして、徒長を抑制するのであります。この方法では、餘程巧くやらないと摘込んだ痕に段が付き、觀賞上見苦しい事がありますから、一般にはなるべく摘心する事なく、草丈を短かく仕立てる様に努めるのがよいと思ひます。

〔本植の仕方〕 餘談が長くなりましたが、第一回の植替即ち鉢上後、約一ヶ月半乃至二ヶ月ほど経て、七月下旬になりますと一尺近くも伸び、根も鉢一パイに廻つて來ますから、こゝで最後の鉢替、即ち本植を行います。

本植に用ひる鉢の大きさは、七寸から八寸位が適當です。三本仕立ては一尺近くの大きな鉢を用ひますが、一本立では伸過ぎて困ります。

植ゑ方の要領は、植込むべき鉢底に一寸厚さに屑炭か消炭を敷き、第一回の植替時よりは肥料分に富んだ腐葉土に二、三割の荒木田か畑土を加へた土を僅かに入れ、乾燥肥料を四勺ほど一面にふりまき、再び土を入れながら抜取つた苗を中心に据ゑ、大體植終つた時一勺ほどの乾燥肥料を鉢縁にふりまいておきます。尚苗を抜取るには、鉢縁を二、三度軽く叩き、逆さにして鉢を抜去るのですが、底の屑炭やゴロ土を丁寧に落したならば、そのまゝ土を崩さずに植

一本仕立に於ける添竹の立て方



込む事が肝要です。
 植込む深さは、鉢縁まで二寸位の隙間がある様に、下葉の枯れ上つたものは少し深目に、然らざるものは浅く植えます。

〔添竹〕 植終れば長さ五、六尺の磨いた篠竹かエナメル塗りの篠竹を、莖の後に副へて真直ぐに底に達するまで突立て、ラフイヤで所々結付けておくのですが、ぐらつかぬ様に特別の注意が必要でです。添竹を立てたならば、それと十文字になる様に細竹を少しきつい位に渡し、交叉點を針金でしつかり縛っておきます。更に九月初め、最後の肥料を與へる時にもう一度、今度は前の細竹と十文字になる向に細竹をぎりぎり一パイに渡し、やはり添竹に縛付けておく丈夫になり、少し位の風にもぐらつかなく

ります。

芽が伸長するにつれて、三、四節伸びる毎にラフイヤか麻紐などで添竹に縛つてゆくのですが、日中の多少凋れてゐる時に行へば、莖葉を傷める心配もなく、安全です。

而して蕾の選定も終つて残した蕾が指頭大になれば、莖の長さも略定りますから、若し最初假の添竹を立てた場合には、磨いた篠竹か黒ニス、エナメル塗りの篠竹と取替へます。そして蕾が二、三瓣綻びた時に、首の下から先を切棄て、輪臺を取付けてゆく順序になるのです。

〔肥料と増土〕 菊の肥料としては、小苗の時代に二、三度、油粕の腐汁をやる事もありますが本植後は乾燥肥料が一番よく、水肥の如く下葉を落す虞れもありません。但し乾燥肥料だけで不足を來し、葉色の衰へた場合には、適宜水肥も與へる事があります。

乾燥肥料は、油粕を主にしたのも、メ粕を主にしたのもよろしい。一本仕立には一鉢に三合位施せば十分です。

その與へ方は、七月下旬の本植の際に五勺、八月月上旬に入勺、中旬に七勺、下旬に五勺、九月月上旬を最後として再び五勺といふ具合に、全量を四、五回に分けて鉢縁にふり撒きます。その都度植込に用ひたと同じ土を五分厚さに入れてゆきます。これを増土といひ、肥料を一時に溶解させぬためと、上に伸びて來た根を保護するのが主な目的です。

〔脇芽と柳芽〕 本植後芽の伸長につれて、葉の附根より脇芽が出て来ますから、常に芽先に二、三本許り残す様にして、他は指先で横へ引く様にして掻取つておきます。併し莖の伸長が甚しく、徒長気味の場合には、或る程度まで残しておいた後に掻取り、勢力を殺ぐ様にします。若し途中で故障の出来た場合には、直に残した脇芽と立替へます。

八月中、下旬から九月初めになると、一度は必ず柳芽といふのが出ます。柳の葉の如き葉が発生し、蕾の如く見えるのです。そこで素人の方は、早速脇芽を全部摘取つてしまひ勝てすがよく注意して、蕾でなくて柳芽なれば、速に柳芽を摘去り、太くて形のいゝ、真直ぐな脇芽を一本残して他も摘取り、この脇芽を伸して蕾をもたせる様にします。

但し九月十日前後になると本當の蕾のつく事がありますから、柳芽が出たからといって狼狽して切棄す、暫くその状態を見てから適當に處分すると安全です。

〔蕾の選定と開花迄の手入〕 早いものでは九月 上旬、遅いものでも下旬には、莖の先端に柳芽ならぬ蕾をもつて参りますが、蕾は中心だけでなく、廻りに數個群がつてつきますから、異状のない限り一般には、一番中心の蕾を一個残して他は掻取つておきます。けれども途中で蟲やその他の故障で駄目になる事もありますので、大豆粒大になり、軸も多少伸びて来た頃に掻取ると安全です。但し餘り遅過ぎると掻取つた痕が目立ち、また脇の蕾を残す時には軸が屈曲

して見苦しくなりますから、危険のない限り早い方がよろしい。

蕾が漸次大きくなつて花薹が伸び始めましたならば、先づ適當な長さで添竹を切棄て、針金で造つた徑四寸位の輪臺を添竹の先—蔓の直ぐ下に取付け、その後竹に二、三ヶ所、しつかりと縛へておきます。但し花薹のしつかりしたのものには輪臺の必要はなく、そのまま形よく花が開きます。

尙菊は元來朝顔ほど日照を要求するものでなく、古來七分の日當り即ち、特に夏分には日中の日を葭簀にて避ける位を良好とされるのでありますが、勿論伸び難い株には日當りを減じ伸び易いものには十分當て、多少調節する必要があります。併し蕾が開始してから開花する迄の間は十分に日に當てぬと、花に光澤が出ないし、花薹に力がつかず、結極いゝ花が咲かぬ事になりますから注意が肝要です。

また綻び始めてから雨にも夜露にもなるべく當てぬ様にします。これは腐敗せしめる處れがあるからです、水は稍々多目に與へてゆかねばなりません。

時期が来てもなく、咲いて来ないとか、その反對に餘り早く咲切つてしまふ様な場合にはそれ／＼適當な方法を施します。即ち、開花を促進するには夕刻早目に暗い所に取込んで日照時間を短かくし、遅延させるには朝から晩まで日に十分當てる様にすればいゝのです。

厚物・厚走の二本仕立法

大菊中で一番作り易い厚物や厚走でも、二本仕立となると一本仕立より少々六ケしく、花が同時に咲かなかつたり、大きさがちぐはぐになつたり、高さが不同になり易いものですから細心の注意を要する譯です。尙肥料も水も一本仕立より幾分多目に與へる必要のある事は申迄もない事です。

〔挿芽の準備〕前年と同じ種類の花を作る場合には、花時にいゝ株を見付けておいて、花が七分通り終つた頃、莖を二、三寸残して花を切棄て、地面に澤山出てくる新芽の伸長を助けます。冬の間は風當りの少ない、温かな日當りにおき、二、三日に一回づつ、乾かぬ程度に水と與へてゆきます。

三月初め頃に芽を地際から切棄て、新しい芽を吹かせ、一、二度油粕の腐汁の如き肥料を施して充實を圖り、挿穂を取るのが一般的です。併し彼岸頃に鉢縁に出た長さ一位寸の芽に一寸ほど白い棒根をつけて掘取り、木箱に一寸五分間隔に一本づつ、前年の古土か畑土（庭土）に三割ほど腐葉土を混ぜた土を盛つて植付けます。根付いたならば挿芽するまでに二、三度、薄

い油粕の水肥を施せば、しつかりしたいゝ挿穂が得られます。

若し初めて作るとか、色の變つた種類を求めたいといふ場合には、春の彼岸頃に、前述の根分苗を求めて育てればいゝ譯です。

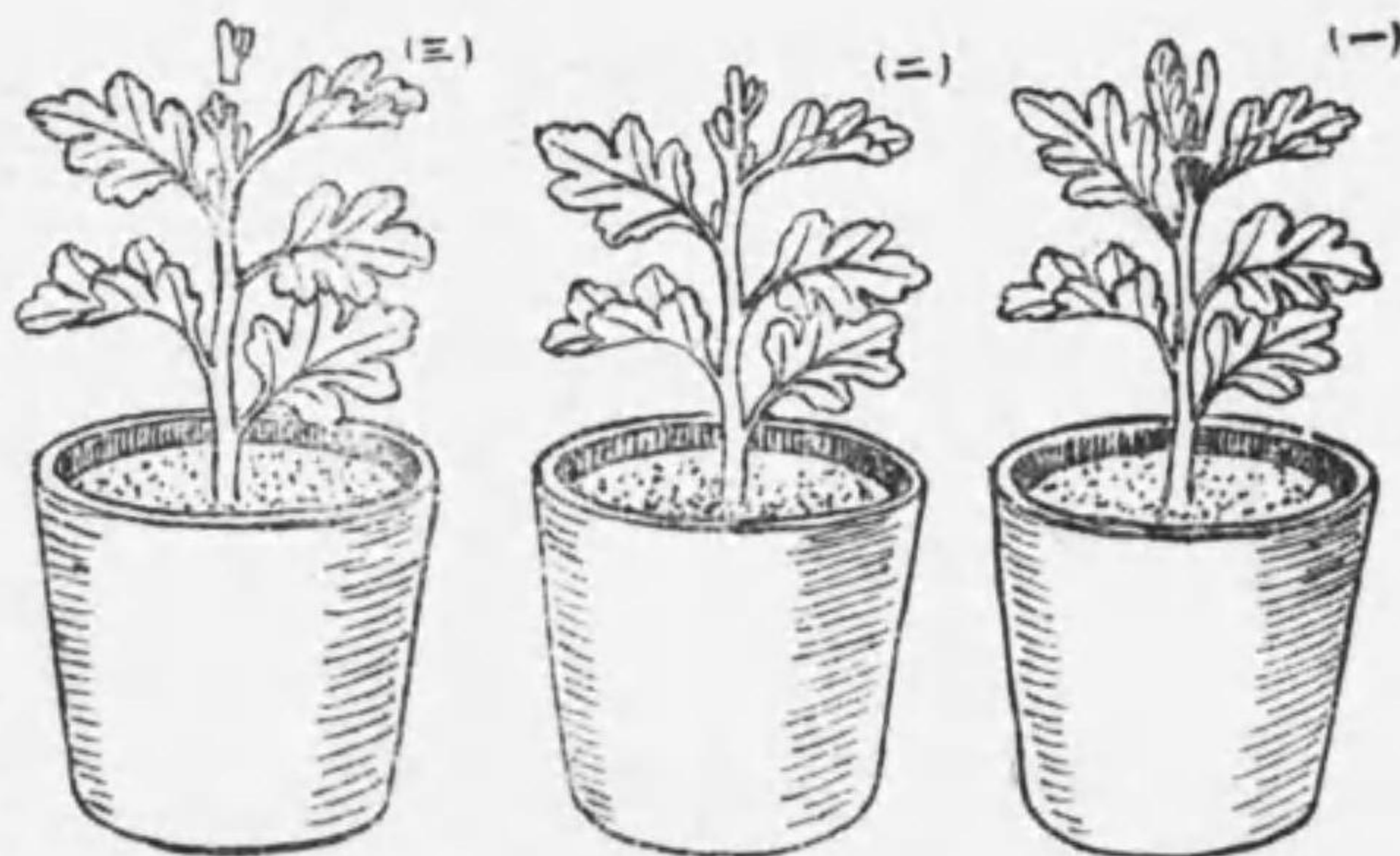
〔挿芽の仕方〕挿芽の時期は、東京附近を標準とすれば、一本仕立より凡そ一ヶ月早く、即ち五月初めから月中までに挿せば適當です。

挿芽するには、先づ深さ三寸位の桃、枇杷などの化粧箱を利用して挿芽箱を用意します。底板には小穴をあけ、一並びにゴロ土か消炭を敷き、鹿沼土に水苔を半々に加へたものか、小米大の赤土ばかりか、畑土に二、三割細かい腐葉を加へたものを入れてもよろしい。

これで準備は出來た譯ですから、冬越しをした株或は根分けした株より挿穂を取ります。その二、三日前に、ネオトンかデリス劑を撒布して害蟲やその卵を死滅させておくと好都合です。中庸の太さの芽を選び、芽先より二寸位の長さに鋭利な双物で切取ります。

切取つた挿穂は、直ちに水に浮かせて水揚を行ひ、下葉を二、三枚切棄て乍ら、一寸二、三分間隔に割箸で小穴をあけては七、八分ほど挿込み、地際をしつかりと指先で壓へておきます。この時挿芽の切口に赤土か鹿沼土の小さな團子をつけて土中に埋めますと、一層活着が良好です。

摘芯の仕方(1.2.3.の順に見て下さい)



徒長したもの、摘芯法



一箱全部挿し終つたならば、細目の如露でタツプリと灌水し、雨風の當らぬ、そして薄日の射す程度の處におき、日中は一、二尺上に葎簀を擡げておきます。特に活着する迄水の多過ぎは禁物で、なるべく控へ目に三、四日に一回の割合で與へれば十分です。

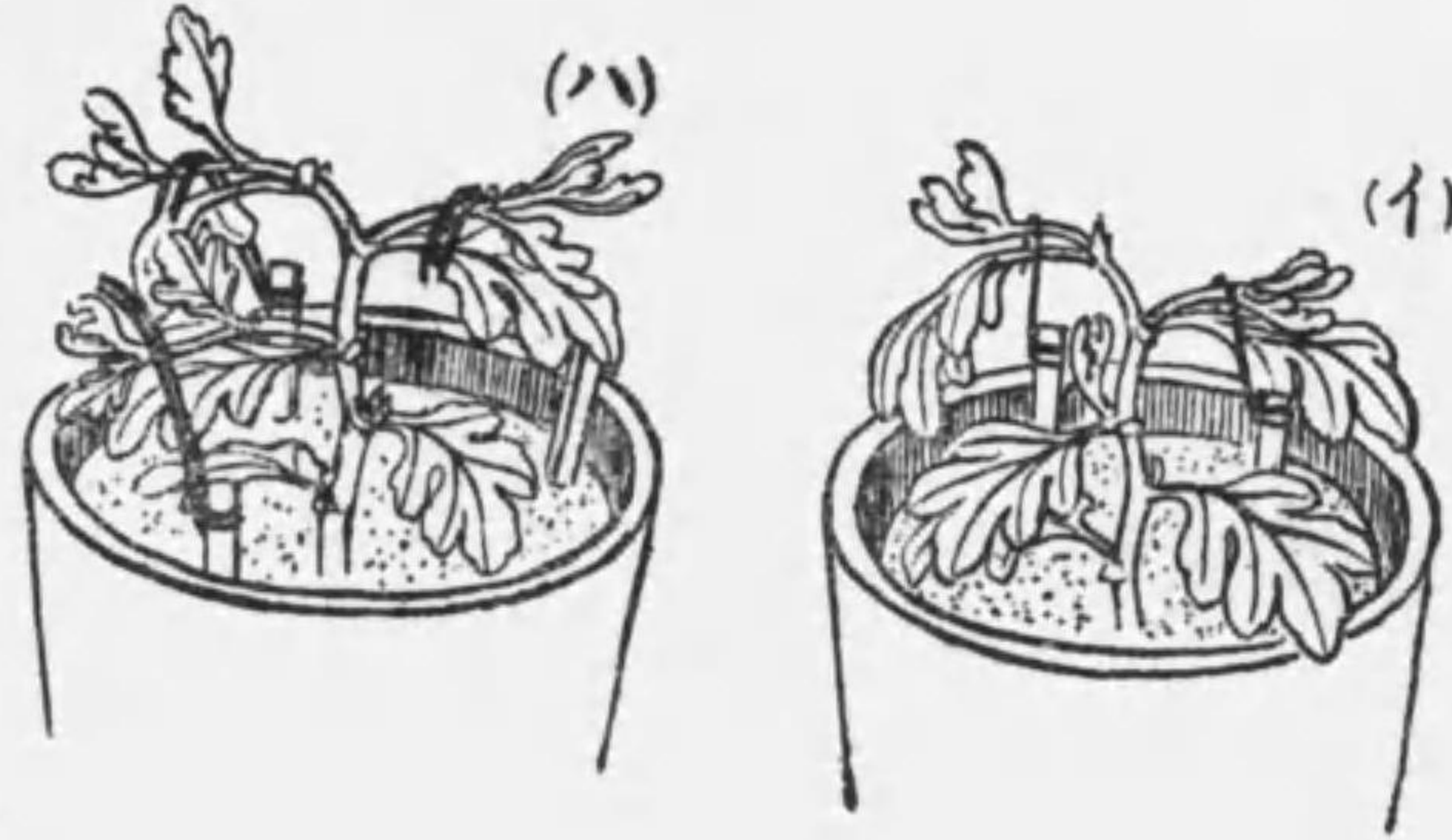
一週間ほど後からは日當りの葎簀下におき、次第に朝夕の薄日に當て、隔日位に灌水してゆきますが、勿論土の乾き具合で水加減の調節を要します。

〔鉢上と摘芯〕挿芽後二、三週間で大抵根づき、葉が淡黄色くなつて來ますから、五寸位の土鉢へ一本づつ植付けます。竹へラて丁寧に掘起し、團子挿しにしたものは水で軽く洗つて團子を落します。そして豫め鉢底に屑炭を三、四分厚さに敷き、土を半分ほど山形に入れた上に苗を据ゑ、根を四方へ擴げ乍ら植込みます。この時に用ひる土は、腐葉土に二割ほど荒木田か畑土を加へたものが良好です。

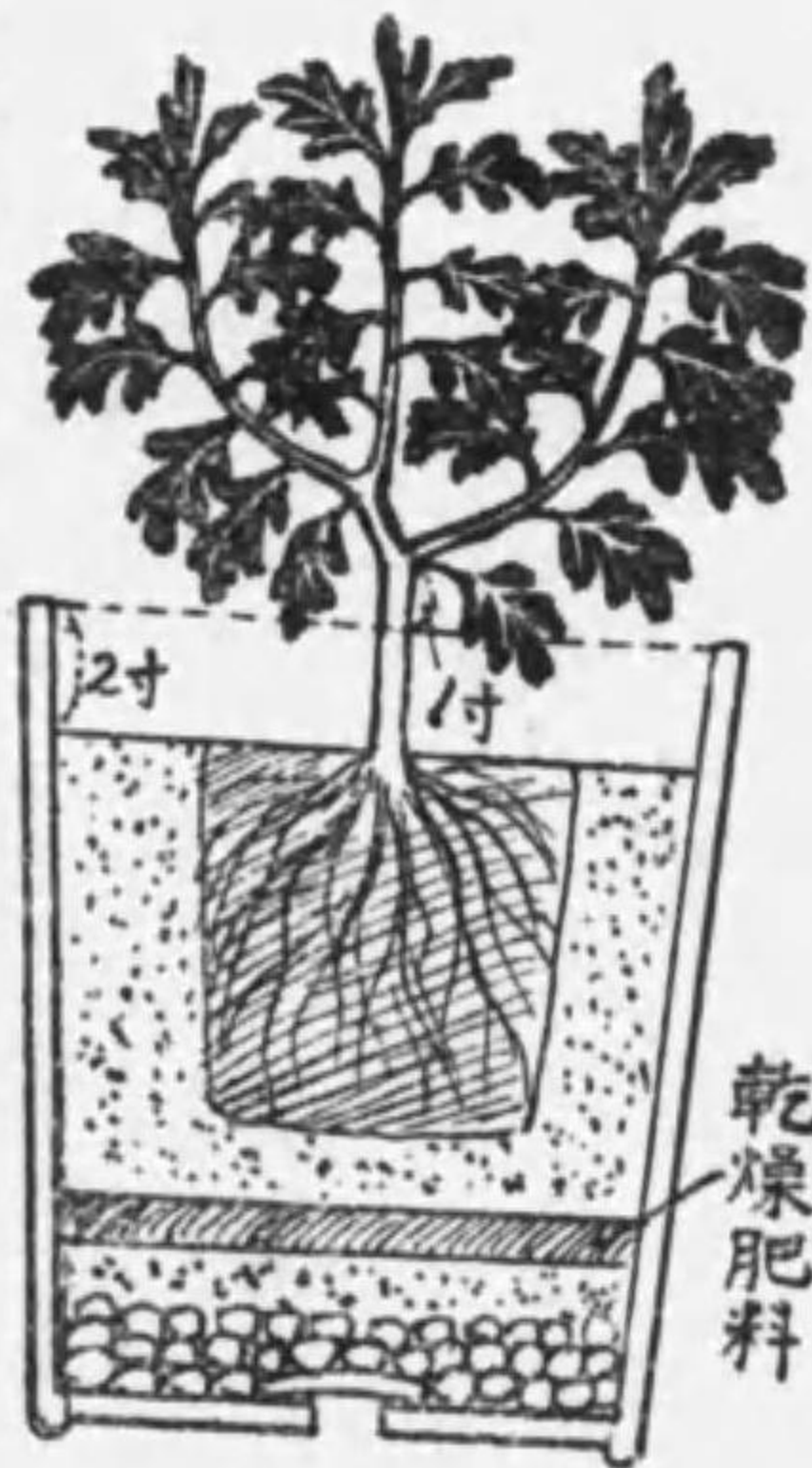
植込み後は十分に水を與へ、日當りにおいて培養しますが、芽が凡そ四寸位伸びた頃、三本仕立にするために最初の摘芯、即ちまだ葉の開かぬ芽先をホンの僅かに、爪先か小さい鋏で摘取ります。

すると二、三日後には蟲に喰はれた様になりますから、その部分を今一度摘取りますと、今度は下葉の附根より芽が出て、大體勢力が同じ様になります。只先を切棄てたりすると先より

三本の芽を揃へる操法(イ.ロ.ハ.の順)



本植の仕方



乾燥肥料



出た芽は伸過ぎて、三本の頭即ち花の高さが揃はなくなり、併し苗が六、七寸にも伸びてしまつた時には、致し方ありませんから、四、五寸の處で先を切棄てるのです。併しこの場合にも一番大きな芽をつけた葉の上に二葉残して先を切棄て、この三本の芽を残して他の芽を早く摘去つておけば、大體三本の芽の長さが揃ふ様になります。

大菊を三本仕立にする場合、一番苦心を要するのは、三本に分けた芽の勢力を如何にして均等にするかといふ點で、これさへ巧くゆけば後は存外容易なものであるとあります。

若し前述の如く、摘心しても芽の勢が揃はぬ場合には、挿圖の如きカギをひつかけて横に撓めますと次第に勢力を殺ぎ、二、三寸位に伸びた頃には自然と、三本の力が同等になつて來ます。これでもまだ巧く摘はぬ時には、その後長いものには脇芽を多く残して勢力を殺ぎ、短かいものには出次第に摘取つて養分を一本に集中させる様にするのです。

尙この摘心を行ふ四、五日前に乾燥肥料を少量、鉢縁にふりまいておくと、芽吹の具合が大變よくなります。

〔本植の仕方〕三本仕立ては五、六寸伸びた頃、大體七月中旬から遅くも下旬までに、九寸から一尺鉢へ最後の植替を行ひます。要領は、先づ鉢底を塞ぎ、拇指大の消炭を一寸厚さ位に敷き、用土(肥料氣を含んだ腐葉土に二割の荒木田か三割の畑土を加へたもので、一鉢に五、

六升要します)を少し入れたならば一鉢につき五勺ほど油粕の乾燥肥料を一面におき、再び土を入れ乍ら小鉢より拔出した苗を中心に据ゑて植込みます。

この時に苗の底にある屑炭やゴロ土は丁寧に取去り、他はなるべく崩さぬ様にします。尙植込み後、鉢縁に沿つて少量の乾燥肥料をふりまいておきます。

而して植込む深さは鉢縁より下枝の岐れ目まで一寸位あれば申分ありません。

植込の終つたものには十分水を施し、三尺位の篠竹を假に立て、適當に三本の枝を誘引します。この竹の立て方は、一方の開いた二等邊三角形型にして、上を稍々開き加減にしつかりと鉢底へ届く程度に立てます。三本の枝を竹へ誘引した際に、長短があれば、同じ高さになる様に、元を少し垂らす様にして竹へ結付けるとよろしい。

〔肥料の施し方〕肥料としては油粕の乾燥肥料が一番よく、水肥(腐汁)では下葉が落ち易くて感心しません。

この乾燥肥料を施す分量は、大約三合五勺を五回位に分けて與へれば結構です。即ち、

- | | | | |
|---------------|----|------------|----|
| (1) 七月十日頃(本植) | 五勺 | (4) 八月十日頃 | 七勺 |
| (2) 〃二十日頃 | 一合 | (5) 〃二十五日頃 | 五勺 |
| (3) 〃三十日頃 | 八勺 | | |

を大體標準とすればよく、八月二十五日以後には、なるべく施さぬ方が安全です。施し方は、鉢縁に沿つてふり撒き、一面に用土を五分厚さにかけておきます。この土をおくのは、上に伸びて来た根の保護と下葉の脱落を防ぐのと、降雨などで與へた肥料が一時に効かぬ様にするためです。

尙蕾に色がつき始めた頃、油粕の腐汁を一、二回施すと花がよくしまり、木もしつかりとして來ます。

〔脇芽と柳芽〕土用過ぎ頃から脇芽が澤山に出て來ますから、上の方の三本許り残して、他は出次第に掻取つてゆきます。但し前にも申上げました通り、三本の枝の長さに相違のある場合には長い枝にはつけておき、長さが揃つた時に掻取る様にするのであります。

八月の初めから末頃、草丈二尺以上、葉數三十枚内外にもなり、脇芽の出方も少なくなり、まず、先の方から三、四本の芽が車形に出て、中心の芽を追越してぐんぐ伸びて來ます。この時、中心の芽に本當の蕾がつけば、脇芽は早く掻取つておかねばならないのですが、往々、柳の様な葉をもち、先が蕾の様に見えるものゝ出る事があります。これを柳芽といつてみますが、これは何時まで待つても花は咲きません。そこで確かに蕾でなく柳芽だと確信がつかましたら速に摘去り、一番形のいゝ、太い、直立した脇の芽一本残して他を摘去つて、この脇芽に



柳芽の出た時(右)には、
脇芽を立てます(左)

蕾をもたせるのです。

柳芽を蕾と見誤り易く、素人は兎角大事な脇芽を掻取つてしまひ易いものですが、八月中に出る蕾の様なものは大抵柳芽ですから、その心算で掻取つて下さい。この柳芽は一度も出ない事もあり、二度も三度も出る事がありますからその點もまた注意を要します。

〔蕾の選定〕蕾は大體九月初め頃から出始めます。中心の蕾が大粒大となり、その脇の蕾までハツキリとした時に、大きさが揃ひ、完全なれば真中の蕾を一個づつ残して他を掻取つてしまふのです。若し形が悪いとか、蟲が喰つたとか、故障のある場合には、一番中心の蕾に近い蕾を残すのです。併しこの際は、一本だけでなく、三本とも同じ様にしないと花時大ききも

區々になつてしまひます。

三個の蕾を同じ大きさに揃へるといふ事は、なか／＼六ヶしい事です。若し巧く揃はぬ場合には、小さい蕾は早く一個となし、大きい蕾は暫くの間脇の蕾を澤山につけておき、大體同じ大きになつた頃、初めて一個にして大きさを揃へるのです。併し餘り脇の蕾掻が運過ぎて困ります。その邊は各自手加減をして戴かねばなりません。

〔開花迄の手入〕蕾が出始めたならば、毎日鉢の向を變へ乍ら特に日を十分に當てると共に、水もよく吸収しますから幾分多目に施してゆきます。色づき始めてから、油障子の花壇に取入れる様にします。

どの蕾を残すかが決りましたら、順次に、先に立てた假竹を抜取り、その後へ長さ五、六尺の磨き竹かエナメル塗りの篠竹と立變へますが、なるべく幹の後に副へて立てる様にします。そして蕾より少し長目に切棄て、おき、輪臺をつける時に花首の下でキツチリ切詰める様になります。

この輪臺は、花瓣が四、五片綻び始めた頃、夢の下に取付けますが、花瓣のしつかりしてゐるものには、別に取付ける必要ありません。尙大ききは、厚物では四寸位、厚走では五寸位が適當であります。

太管の二本仕立法

〔挿芽の準備〕それには先づ、挿穂をとるべき親株を準備する必要があります。初めて太管を作るとか、種類の違つた太管を作る場合には、春の彼岸頃に根分苗を求め、木箱で育てればよいのですが、前年と同様な種類でよければ、花の済んだ株をそのまま、軒下などの温かい所において冬越しをさせます。三月上旬に一度新芽を地際で切拂ひ、二度目に出た新芽を挿穂とすればよいのです。また彼岸頃に、一寸位伸びた新芽に白い根を一寸位つけて切取り、これを育て、芽先を切取つて挿穂としても結構です。

何れも挿芽を行ふ二、三日前に、驅蟲劑をしつかりとかけて、蚜蟲其の他の害蟲を退治しておく事が肝要です。

〔挿芽の仕方〕挿芽の時期は、五月中頃から月末前後までが適當です。芽先より二寸位の長さに切取り、下葉を二、三枚切落し、薄日の射す半日陰に二、三十分間ほど擴げて凋れさせます。次に鹿沼土か赤土を水で練つたものを小指大の團子にして切口につけ、挿芽箱に七、八分深さに挿込みます。間隔は一、二寸、三分四方に一本の割がよく、割箸などで小穴をあけ乍ら挿

入れ、地際をしつかりと壓へておきます。

挿芽箱は深さ二、三寸の木箱がよく、底にゴロ土と消炭を敷き、水苔を等分に加へた鹿沼土か粒状の赤土、または畑土に四分ほど腐葉を加へたものなどを盛ります。

挿芽後は、速に水と與へ、風當りの少ない、軒下などにおき、葎簀を二重に掛けておきます。三、四日に一回の割合に水と與へれば十分で、過濕は禁物です。この當座は、勿論雨に當ててはいけません。四、五日後より葎簀を一重となし、更に十日前後からは朝夕及び夜分は取除いて、薄日と夜露に當てる様にしますと、普通二、三週間で根付き、芽もぼつ／＼動いて參ります。

〔鉢上と摘芯〕挿芽が順調にゆけば、六月上旬には鉢上が出来る勘定になります。竹へらで丁寧に、根を傷めぬ様にして掘起し、團子をほぐし、水でゆすいでざつと洗ひ落します。これを直ちに、豫め準備しておいた五寸位の土鉢（瓦鉢）へ、根を四方に擴げる様にして植込みます。鉢底には大豆粒大の屑炭か消炭を四、五分厚さに敷き、腐葉土に一、二割畑土を加へた土を用ひます。

植付後十分に灌水して、直ちに日當りのよい、特に朝日の當る棚に並べますが、日中萎凋の激しい場合には、二、三日葎簀をかける様にします。

苗が四寸位、時期でいふと六月中旬頃、三本立にすべく摘心を行ひます。まだ葉の開かぬ本當の芽先をホンの僅か、小鋏で摘取ります。すると二、三日後には、先が丁度蟲にでも喰はれた様な恰好になりますから、この時に、もう一度その部分を一節残して切棄てます。斯うすると上部に出た三個の芽は、大體同じ様な勢ひの芽となつて、三本の莖丈が巧く揃ふ様になります。無闇に摘心しますと、なか／＼揃はず、揃つても一ヶ所から出ず、恰好が悪くなりますから、摘心にはよく注意して下さい。こゝが三本立で一番大切な處です。

尚摘心を行ふ二、三日前に、一、二回、油粕の腐汁を與へておくと、いゝ芽が出易くなります。併し過量は禁物です。

〔摘心後の管理〕摘心しても芽の出方の悪いものには、腐汁を少量與へるのはいゝ事でせうが、一般にその必要はない様です。

出て来た芽の中で、大體勢ひや太さの揃つた芽を三個（なるべく一ヶ所に塊る位置で選びます）残して他を掻取りますが、上の芽ほど弱目にしておくと將來伸長が揃ひ易いのです。併し一寸位伸びてもまだ巧く揃はぬ時には、割箸か割竹の先に針金をつけ、強い芽にひつかけて一―一頁の圖の如くに、下横にひつばります。斯うしておくとなつて勢ひが次第に殺がれ、日を経るに従つて伸長が揃つてくる様になります。

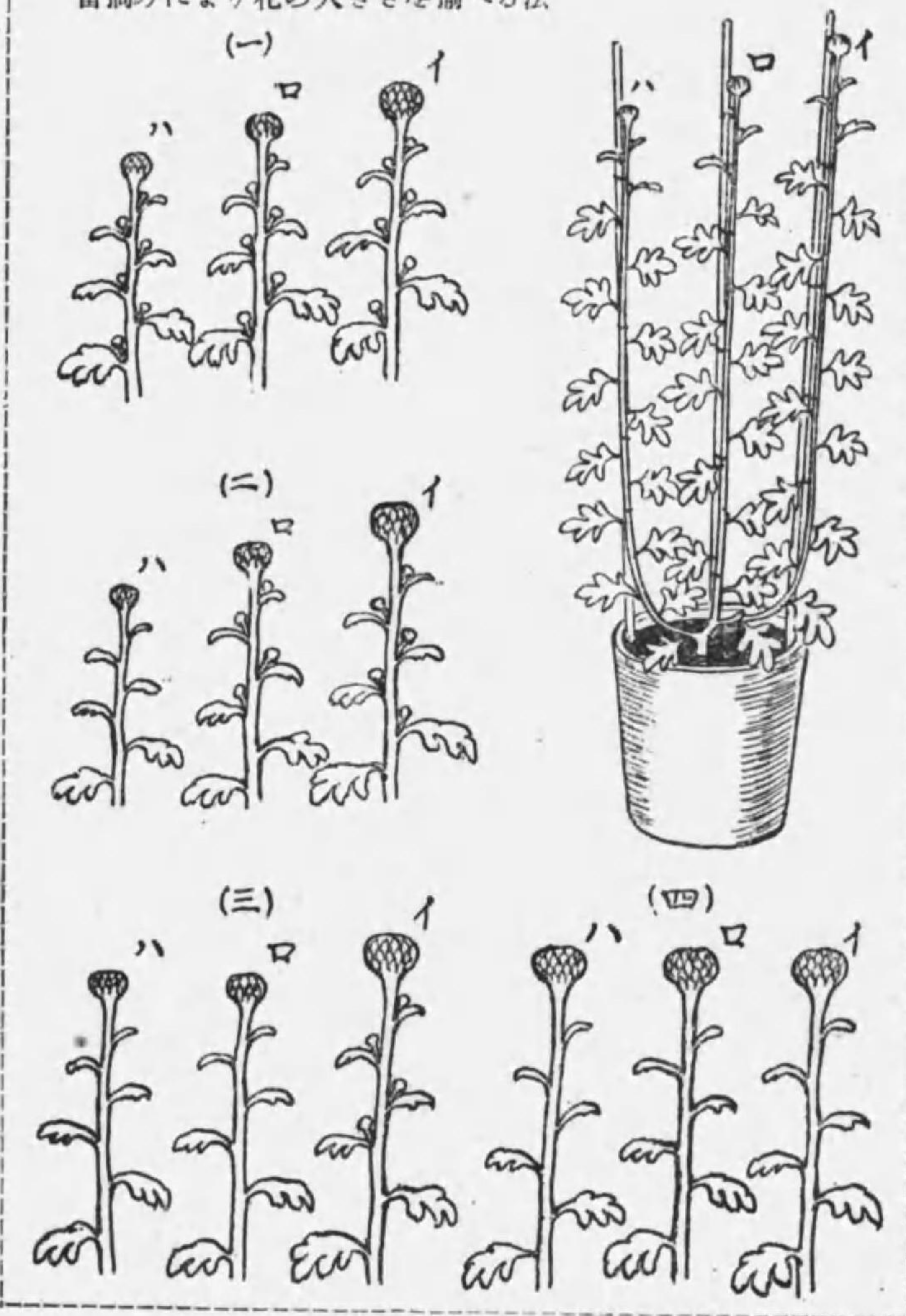
尚針金で下横へ向ける場合に、將來添竹を立てる位置に向ける様にすると、後で大變好都合な譯です。更にこの仕事は日中の莖葉が多少凋れ加減の折に行ひ、曇雨天や朝夕、灌水直後などを避ける様にすれば、折つたり傷付ける心配もなく、且つ上手に出來ます。

〔本植と添竹〕三本の芽が凡そ五、六寸に伸びた七月下旬頃に、いよく最後の本植を行ひます。鉢は八寸から九寸位が適當で、厚物の如く一尺鉢は少し大き過ぎます。土は肥料氣のある腐葉土に荒木田（田土）三割か畑土なら四割に糞灰を一割ほど、加へたものが最良です。鉢底の小穴を塞ぎ、屑炭か消炭を一寸位の厚さに敷き、土と五勺分の乾燥肥料を入れ、僅かに土をかけます。

次に五寸鉢の縁を軽く打ち、そつと拔出した苗は、屑炭とか消炭を取去つて本鉢の中心に据ゑ、廻りにしつかりと土を入れ、ばいゝのです。植終つた時に、鉢縁まで二寸位、鉢縁より一番下枝の岐れ目まで一寸の隙間がある様に出來れば満點です。

本植が済みましたら、一緒に添竹を立て、おきます。長さは三尺位は必要で、この時には普通の篠竹で澤山です。その立て方は、一方開きの二等邊三角形になる様に、しつかりと、鉢底へ達するまで突立てます。莖を三、四節毎に、その後もラファイヤか麻紐で竹に誘引してゆきます。

花の大きさを揃へるための摘み方



〔肥料の施し方〕本植までは餘り肥料を與へず、その後乾燥肥料を八月上旬に六勺、中旬に五勺、下旬に四勺を最後とし、本植の際の埋肥も合せて、全量を二合とすれば先づ十分です。併しその發育具合、葉色などで、適宜分量を増すなり、腐汁を與へる様にしますが、餘り過量は最後の開花の際、却つて花に狂ひを生ぜしめ易い危険があります。

施し方は、鉢縁に沿つてふり散き、その都度五分厚さに培養土を入れておきます。

〔脇芽と柳芽〕土用過ぎになると脇芽が澤山に出て來ますから、上方に三本許り残し乍ら、伸長に従ひ順次に掻取つてゆきます。併し三本の莖丈が揃つてゐない時には、短かい莖の脇芽ほど早く掻取り、長い莖の脇芽はある程度まで伸してから掻取る様にすれば、三枝の高さを揃へる事が出來ます。

八月に入ると九月までに、偽の蕾——即ち急に伸長が止つて五、六枚の柳の様な葉をつけた蕾の如きものが眞中に出ます。これを柳芽といひ、花にはなりません。一度は必ず出るもの（二度も三度も出る時があります）で、然も八月中に出る蕾様のものは殆どこれです。柳芽なら直ぐに切り取り、太くて眞直ぐな脇芽を一本残して伸長を圖り、これに本當の蕾を持たせます。故に上の方だけ二、三本の脇芽は、常に残しておく必要があります。

〔摘蕾と其後の手入れ〕九月中頃になると大抵蕾を持つて參りますから、眞中の蕾に故障のない

限り、脇の蕾は早く掻取る方がいゝ筈です。併し、肥料當り、その他被害を受ける事もあり、餘り狂つて素直に咲かぬ蕾もありますから、一番近くの蕾を二、三個残し、中心の蕾より一、二片花瓣の出かゝつた頃、初めて一個にしますと、癖のない、いゝ花を開かせる事が出来ます。

尚蕾の大きさが三本の莖とも揃はぬ時には、小さい蕾は早く、大きいほど遅く脇の蕾を掻いて、大きさを揃へる事が三本仕立には肝要な事です。

蕾を一枝に一個としましたら、前に立てた添竹を拔出して、その後へ本竹（磨き竹かエナメル塗りの篠竹）を立てます。長さを五、六尺位とし、花瓣が四、五片綻び始めた頃に、花首の下で先を切去り、それと同時に五寸位の輪臺を取付け、開くに從つて五、六分下げる様になります。

蕾の出始めた頃からは日によく當てますと、花色をよくし、花瓣に力がついて立派な花となります。水は幾分多目にしますが、特に綻びかけてからは、雨は勿論、夜露にも當てぬ様に、油紙障子を掛けた菊花壇に取込めば上乘です。

三個の花が咲揃はぬ時には、遅い花には夕刻早く紙筒を取付け、暗く保つ様にしますと早く咲きます。これは蕾の頃からぼつ／＼仕掛ける必要があります。

太管の一本仕立法

管物の中でも太管は、細管と同様に三本仕立にするのが普通ですが、厚物や厚走、大掴などの様に、一本仕立にされる事も往々あります。その仕立方は大略三本仕立と同様でありますけれど、左の如き二、三の點に注意すればいゝので、三本仕立にどうしても必要な摘芯（芯摘み）とか、草丈や花の大きさを三個とも揃へねばならぬ種々な手入を全く必要としません。一本仕立は素人向といふ事が出来ます。只肥料を多用したり、大きな花を咲かせる目的から早く蕾を一個にしたりしますと、兎角花瓣が狂ひ易く、素直な花が咲きませんから、その點は十分注意を要します。

〔培養のあらまし〕挿芽をとる親株即ち前年花の済んだ株或は新しく株を求めた場合の保護、挿芽の要領は三本仕立と全く同様でよろしいが、挿芽の時期は凡そ二十日から一ヶ月遅く、即ち五月末より六月中旬迄に行ひますから、鉢上も本植も當然遅くなる譯です。

挿芽が順當にゆけば鉢上は六月下旬頃、本植は七月下旬に行ふ様になります。大體本植の時に、一尺二、三寸位ならば、素人として先づ巧く出来た方でせう。若し餘り伸過ぎてゐると

か、下葉が枯上つて見苦しい時には、少し深目に植込むがよく、植終つた時に鉢縁まで二寸位の隙間があれば申分ありません。

尙本植用の鉢は七寸位が適當で、土は三本仕立と同様にしますが、この時に入れる乾燥肥料及びその後には施す乾燥肥料の分量は減ずる必要があります。即ち本植の時は三勺、その後八月上旬に五勺、中旬に四勺、下旬に三勺と合計一合六勺ほど、三本仕立より二、三割ほど減らすと丁度よくなります。勿論肥料を施した際には培養土をかけておきます。

一本仕立ては全く摘心の要はなく、そのまゝ伸してゆけばいい譯ですが、培養中に水を節しましても、兎角莖が徒長し易いため、鉢上と本植の際に芽先を摘み、いゝ芽を一本出させてゆく方法を探る人もありますが、一般には無摘心で育てる方が安全です。

脇芽は出次第に掻取りますが、餘り莖の伸過ぎる場合には、少し伸し加減にしてから掻取る様にします。また蕾も餘り急がず、中心の蕾が適度の大きさになつた時、脇の蕾を順次に掻取つてゆきます。一時に、或は早くから蕾を一個にすると、素直な、いゝ花の咲かぬ虞れがあります。

添竹は本植をした時に、中心の莖に副つて一本立てますが、ぐらつき易いものですから、しつかりとさゝへを取付けておく様にします。

細管の二本仕立法

こゝでは主として、細管の三本仕立に就いて申上げますが、長管も針管も肥料の分量が稍々違ふだけで、他は略同様ですから、そのお心算でご熟讀願ひたいと思ひます。

〔挿芽の準備〕前年と同じ種類の細管を作る場合には、花が七分通り済んだ時に、二、三寸残して莖を切棄て、新芽を傷めぬ様に、風當りの少ない、温かな、日當りの軒下、霜圍の内、フレームに保護し、多少乾き目に水を與へてゆきます。

斯くして三月上旬頃、出てゐる新芽は一セイに地際より切棄て、一、二度油粕の水肥を與へ、充實した二度目の新芽を挿穂とします。また、彼岸頃に、その新芽に白根を一寸前後つて掘取り、腐葉に畑土半々の土を盛つた浅い木箱に植付け、水肥を與へ、これより挿穂を採る方法もあります。後の方が勿論いゝ苗が得られますが、多少手間を要します。

尙前年とは花色の變つた種類を作りたいとか、初めて細管を作る際には、この白根のついた新芽―これを根分苗といつてゐますが、この苗を彼岸頃に求めればいゝのです。

〔挿芽の仕方〕挿芽の時期は、品種によつて多少の相違はまぬかれませんが、大體細管の類は

五月の月中から末までが適當であります。

前述の如く育てました株より、安全剃刀の刃などで、二寸位の長さに芽先を切り取り、下葉を二、三枚落します。直ちに水につけ、豫め準備した挿芽箱（深さ三寸位、鹿沼土に水苔を半々にしたものか、赤土に畑土、川砂を等分に混ぜたものを盛ります）に、一寸二、三分間隔に割箸で小穴をあけて乍ら七、八分深さに軽く挿込み、地際をしつかりと壓へ付けておきます。また一法として、水で練った鹿沼土か赤土の小さな團子を切口につけて挿込むもよし、切取つて十分か十五分間日陰においてから團子挿にするのもよく根附きます。

何れにしても挿終れば細目の如露にてタツブリと灌水し、日當りに設けた葭簀圍（四方八方を圍ひます）の中に取り入れ、多過ぎぬやうに、二、三日毎に灌水してゆきます。四、五日後より朝夕の薄日と夜露に當て、ゆきますと、二、三週間根附き、葉は淡黄色となつて生氣づいて來ます。

〔鉢上と摘心〕 根附いたら早目に鉢へ植付けますが、順調にゆけば六月上旬から中旬には大抵鉢上が出来る順序になります。

この時の鉢は五寸位の土鉢（瓦鉢）が適當で、鉢底の穴を鉢片で塞ぎ、層炭か消炭を三、四分厚さに敷き、土を入れ乍ら挿芽箱より竹へラで丁寧に起した挿芽苗（團子挿の時には、水で

土を落します）を植付けます。この時に鉢底（消炭の上に入れた土と根の中間邊り）へ、茶匙二、二分の乾燥肥料を埋けておくと効果的です。土は腐葉土（落葉七に荒木田または田土三に少量の糠を加へて腐熟させたもの）に一、二割畑土を加へたものが好適です。

植付後は十分水を與へ、最初は薄日の射す程度のおきますが、元氣づくに従つて漸次日當りに並べ、水を多少辛目に與へてゆきますと、しつかりとした苗となります。兎角細管の類は徒長し易い性質がありますから、この點には注意を要します。

一本仕立ならその必要はないのですが、三本仕立では必ず摘心して、脇芽の發生を促さねばなりません。摘心の時期は六月二十日前後—大體苗が三寸から四寸位に伸長した頃です。若し時期以前に苗が四寸以上に伸長した場合には、早く摘心を行ふ必要があります。

摘心の要領は、小鋏か爪先で尖つてゐる芽先をホンの僅かに摘取ります。すると二、三日で摘取つた痕が、丁度蟲に喰はれた様になります。そこでもう一度、一芽を残す様にして先を摘切りますと、先の方から出る三本の芽は、大體勢ひが揃ひ、巧く三本立になつてきます。これを無闇に切りますと、上に出た芽は強く、下に出た芽は弱くなつて、三本の枝が揃はなくなります。（摘み方は一〇九頁挿圖参照）

若し摘心の時期を失して六、七寸も伸びてしまつた時には、以上の方法では岐れ目が高過ぎ

て巧くゆきませんから、やむを得ず、四、五寸の處で切棄てます。併しこの際にも無闇に切らず、一番長く、太い芽の出てる葉より上に二枚、葉を残して先を切るのです。

〔三本の枝を揃へる秘法〕 芽摘み後二、三日薄い油粕の腐汁を施すといふ新芽が立ちます。そこでなるべく上部の一ヶ所より出た芽の中で發育のいい、然もよく揃つた芽を三個残し、他は早目に掻取ります。

この残した三本の芽を伸して蓄をつける譯ですが、伸びるに従つて勢ひに不同の出来た時には、一一一頁の挿圖の如く、割竹か割箸の先へクの字形に針金をつけ、これを勢ひの強い芽（大抵は先の芽です）にひっかけ、横下へ引張る様にします。この時に餘り無理をしますと岐れ目よりもげますから、注意を要します。

この芽を曲げる時に、添竹を立てる位置、即ち一方開きの二等邊三角形になる様な向に曲れば一層効果的です。この針金掛による勢力の抑制は、曇雨天の日や朝夕は避け、晴天の日中、多少凋れ加減の時にやれば樂に、然も傷める事なく行ふ事が出来ます。

尚いゝ芽が一本しか出なかつたとか、餘りにも大きさが不同である時には、三本立にとてあくまで苦心するよりは、寧ろ一本立にして眺める方がいゝと思ひます。勿論これは、失敗には相違ないのですが……。

この頃、厚物や厚走の三本仕立ては、人によつて水肥を一、二回施されますが、特に細管の類では、植込の際に乾燥肥料を施しておけば、その必要は一切なく、却つて過肥に失敗の原因ともなります。

〔本植と假竹〕 三本の枝芽が五、六寸に伸びた頃、時期でいへば七月下旬頃に、最後の本鉢へ植替を行います。本鉢は九寸位のもものが適當で、瓦鉢でもコンクリート鉢でもよし、胴返しなら更に結構です。

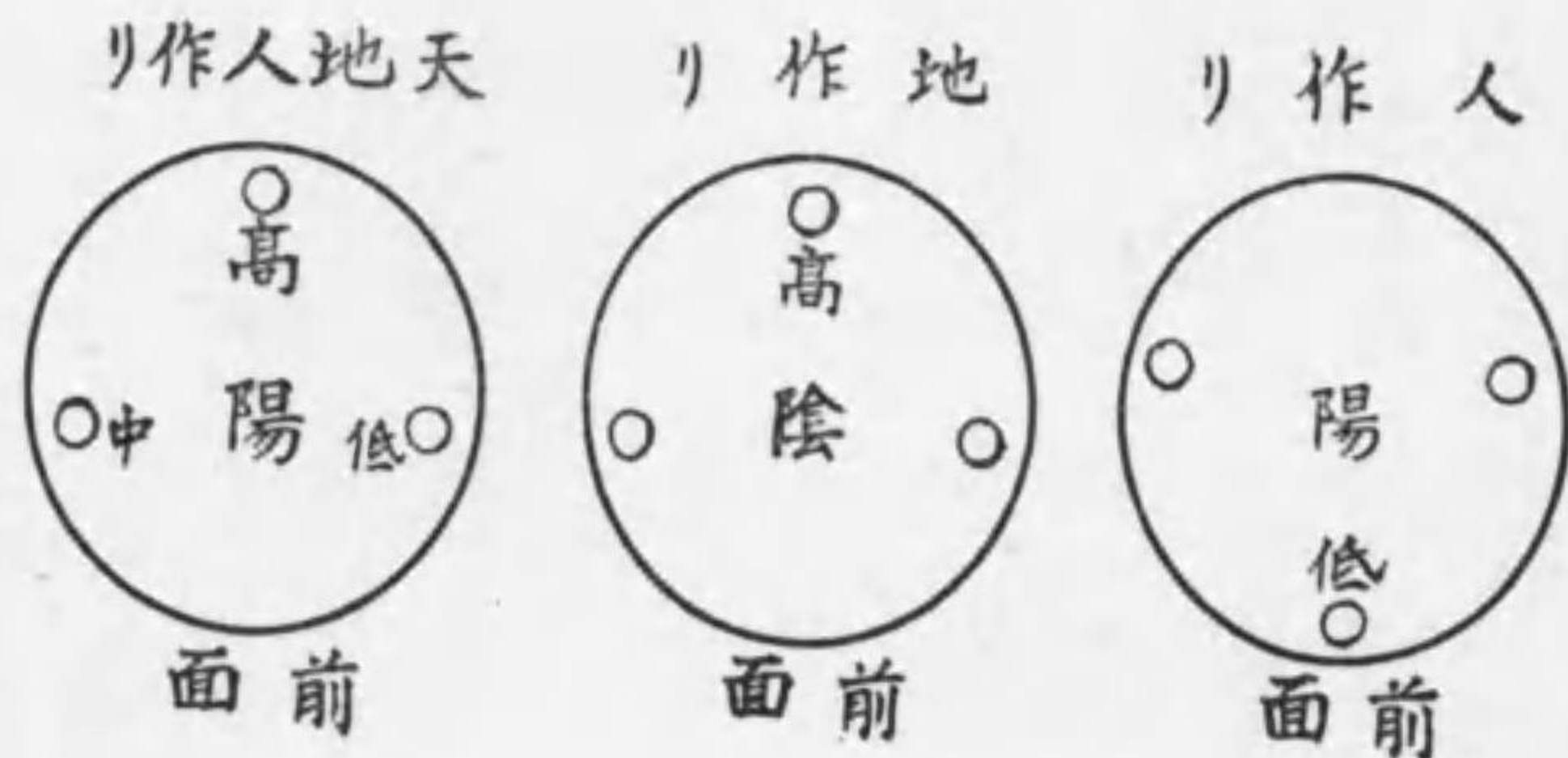
先づ鉢底の水排水を塞ぎ、屑炭か消炭を一寸位の厚さに敷き、土を僅かに入れましたら、乾燥肥料を一鉢につき三勺、長管や針管では二勺ほど鉢縁に沿つておき、再び土を入れ乍ら中心に据ゑます。苗を五寸鉢より抜くには鉢縁を二、三度軽く叩いて逆さに拔出し、屑炭を丁寧に落とし、他はそのまゝにして植込み、ホンの僅かに乾燥肥料をふりまいておきます。

斯うして植終つた時に、一番下の岐れ枝より鉢縁まで一寸位の空間、丁度土面より鉢縁まで二寸内外の空間がある様になれば上出来なのです。

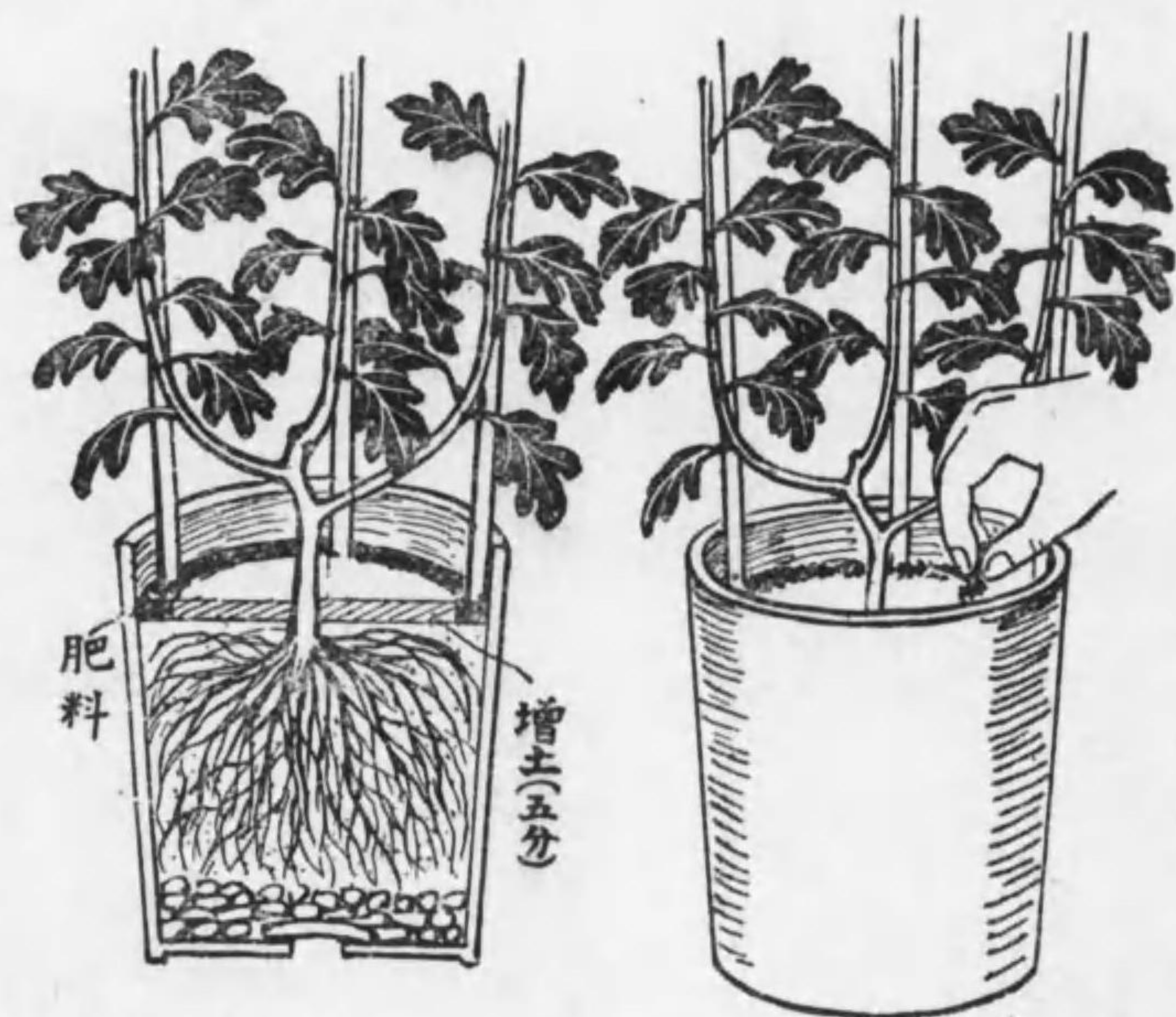
十分水を與へた後、適當な位置に三本の篠竹をしつかりと立てます。長さは三尺位あれば結構です。伸びるに従つて順次に、莖をファイヤか麻紐で誘引してゆきます。

〔肥料〕 肥料は偶に水肥を施しますが、間違のないのは乾燥肥料です。本植の時に一回、土

三本立に於ける支柱立の位置



肥料と増土の施し方



中に埋めますから、その後は八月十日前後に細管なら三勺半、長管と針管には二勺、次回は八月末で細管には二勺、長管と針管には一勺、都合細管には一合を三回、長管と針管には五勺を四回に分けて施せばいいのです。これ以上與へると花に狂ひを生じ易く、莖も徒長氣味になります。

尙この乾燥肥料は鉢縁に沿つて施し、その都度培養土を四、五分厚さに、一面に入れておく必要があります。

〔脇芽と柳芽〕 土用過ぎ頃から、葉の附根に脇芽が盛んに発生しますから、常に上の方に三本許り残して他は早く掻取ります。併し莖の長さが不同の際には、短かい莖の脇芽は早く、長い莖のは遅く、或る程度伸してから摘む様にしますと、高さを揃へる事が出来ます。

また八月 中旬 頃から九月初めまでの間に、柳葉に似た葉をつけた柳芽といふ厄介なものが一度ならず二度、三度と出ます。一見蕾の如く見えて實は脱殻で、何時迄待つても花が出て来ません。この柳芽が出ると大抵二、三本、車座に脇芽が出るものです。そこで素人の方は、この柳芽を蕾と見誤つて脇芽を摘み易いのです。併しこの頃に出るのは大抵柳芽ですから、脇芽を摘まず、暫く様子を見て、柳芽であれば不用な脇芽と一緒に摘去り、太くて真直ぐな脇芽一本を残し、これに蕾を持たせる様にするのです。

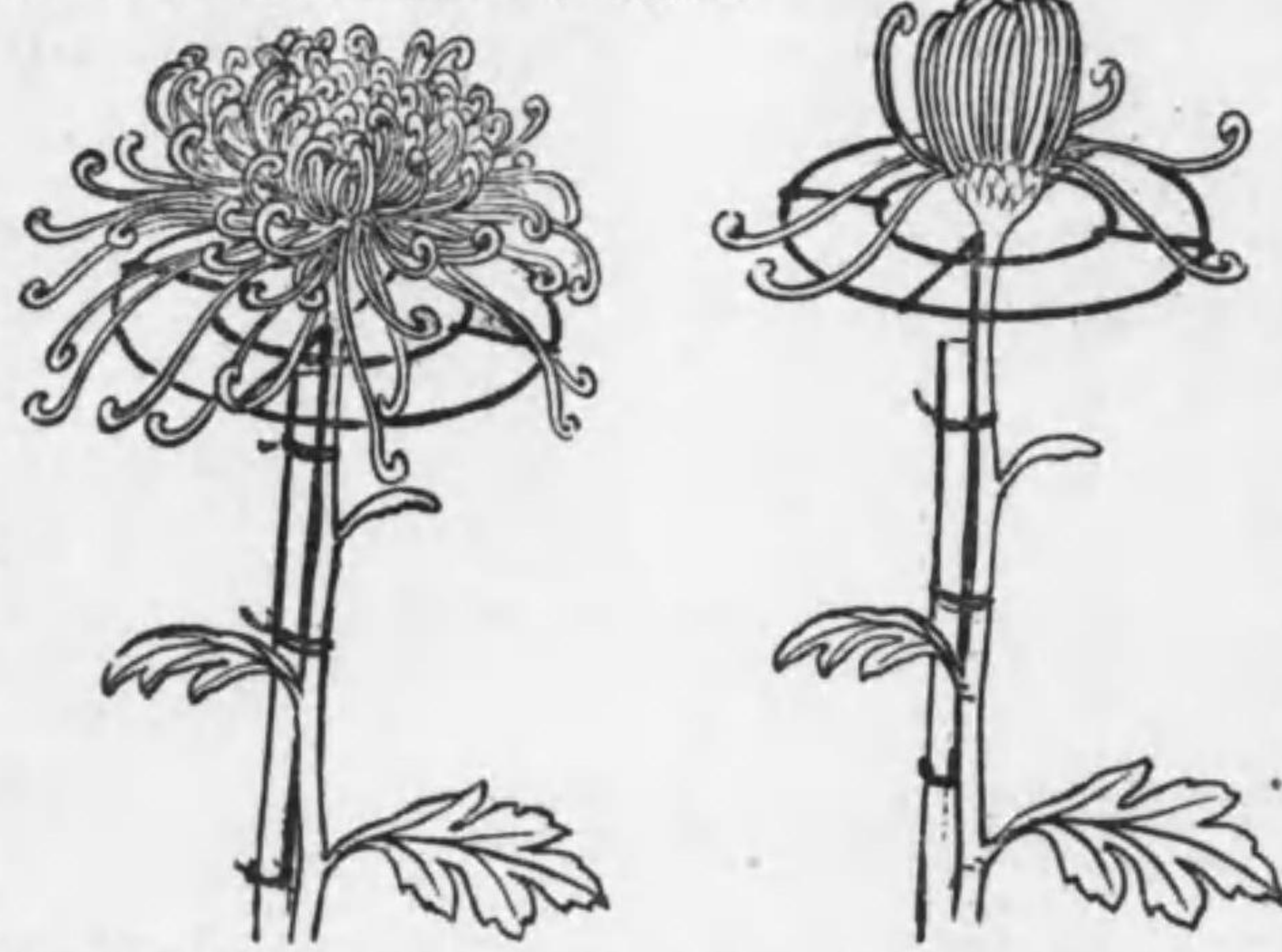
〔蕾摘み〕 九月十日から二十日頃になると大抵本當の蕾を持つて來ますから、眞中の蕾が大粒大になつた頃、脇の蕾を全部掻取ります。残すべき中心の蕾の大きさが揃はぬ場合には、小さい蕾は早く一個に、大きい蕾は遅く脇の蕾を掻取つて均整を持つ様にするのです。併しこの細管にしる、長管、針管の類は、餘り早く脇の蕾を掻取つてしまふと、どうも肥料が利き過ぎて、花瓣に狂ひを生じ易く、素直に咲きませんから、なるべく遅くまで蕾を残し、それも二つ三つと次第に掻取つてゆくがよろしい。

若し眞中の蕾が馬鹿にひねくれてゐるとか、蟲にやられた様な際には、一番それに近い蕾を立てますが、一本斯様にすれば三本とも同じく脇の蕾を立てる様にしないと花が揃ひませんから、注意して下さい。

〔其他の手入〕 蕾を一個にしましたならば、前に立てた假の添竹を抜取り、美しい磨竹かエナメル塗の篠竹と取替へます。長さは五、六尺は必要で、なるべく元の穴へ、そして前から見て莖の後へ副へる様に立てれば満點です。

先は切らずにおき、蕾が二、三瓣綻びかけた頃、花首の下邊りて切棄て、輪臺を付けます。輪臺は六寸位のものは必要で、花の開くに從つて二分、三分と下げてゆきます。これは下げてゆかぬと巧く花瓣が垂れ下らぬからです。けれども場合によつて、小さ目の輪臺をつけ、上げ

次第に輪臺は引下げますと垂れて巧く咲きます



輪臺の取付け方

五、六瓣開いた頃取付けます

下げせず、自然と垂らす方がよく出来る事もありますが、一様に、下げねばならぬとも言へません。

蕾が出始めた頃からは、特に日に十分當てますが、餘り強い直射光線は禁物です。それから多少水加減も多くします。けれども雨と夜露には當てぬ様に注意しないと、蕾を腐らせる虞れがあります。

細管の一本仕立法

細管、針管、長管などの花瓣の細い種類は、一般に一本仕立にする事は少なく、多く三本仕立にされてゐます。といふ譯は、一本仕立だとどうしても肥料が利き過ぎるため、花瓣に狂ひ

を生じて、立派な花が得られ難いからであります。

勿論やつて出来ぬ事はないので、その要領を簡単に、三本仕立と相違してゐる點だけを次に申上げておきませう。

即ち挿芽は六月初旬から中旬に行ひ、七月上、中旬に四寸位の土鉢に植付け、なるべく水を節して徒長を防ぐ様にします。また肥料は殆ど施す必要もなく、培養土に含まれた養分だけで澤山です。

三本仕立では四寸位の時に摘芯しますが、この場合には一般に（行ふ人もあります）行はずどこまでも芯芽を伸ばします。そして七月末から八月上旬に、七寸から八寸位の土鉢へ本植を行ひ、乾燥肥料を細管で全量を入勺位にして三回に、長管や針管では四勺位を三回に分けて施せば十分です。

中心の蕾以外の脇の蕾は三本立より一層遅く掻取る事ですが、三本立の様に他の蕾と揃へる必要がありませんから、その點は至つて樂です。併し兎角肥料が利き過ぎて花瓣が狂ひますから、十分に注意を要します。

要するに細管の様な花瓣の細い種類は、極端に言へば、肥料の如きものは一切與へず、土と水だけで作る方が間違がなく、且つよい、素直な花が咲くといふ事になるのです。

一 文字菊の作り方

一文字菊の栽培に當つて、特に注意しなければならぬ事は、肥料の問題であります。厚物の様に肥料分が多いと、妄に瓣が多くなり過ぎて一重とならず、然も花瓣が縮かんでよく伸びないといった風で、すんなりと伸びた莖に必ずいゝ花がつくのであります。肥料を與へる分量を例へば厚物を一〇とすれば、摺菊は六、太管や間管は四、細管は二、一文字は一といった具合に、大菊中で最も少量の肥料にて足り、またそれ位の方が一番いゝ、形の整つた花が咲く様であります。

〔根分と冬の保護〕 一文字菊は、他の種類と違つて、非常に發根の悪いもので、寒さに當たれば一層悪くなります。それですから、十一月末頃に花が済みましたら根分を行ひ、苗を三寸の素焼鉢に植付け、冬季中フレームに保護する必要があります。

この根分を行ふ時に注意する事は、苗は、親株の根元より遠く離れた、鉢縁に沿つて一寸乃至一寸二、三分ほど地上に出てゐる位の芽を選びます。太きは餘り太いよりは、多少弱目の、所謂中庸かそれ以下に見えるものゝ方がよく出来します。

い、芽が見付かりましたら、よく切れる剃刀か切出で、土中にある白い莖の部分なるべく多く、少なくとも地上部と同じ位の長さに切り取り、全體を二寸乃至三寸位にするのです。尚この土中に埋れてゐる白い莖の部分に、根が一本たりと出てゐなくても一向差支へなく、よく活着するものであります。

白い莖をつけて切取つた芽は、直ちに三寸鉢へ一本づつ挿す様にして植付けます。即ち鉢穴を鉢片で塞ぎ、ゴロを少し入れ、赤土に細かい腐葉を半々に混ぜ、少量の薬灰と川砂を加へた土を入れ乍ら、一寸位莖を出す程度に植付けるのです。この時に、白根の部分を水で練つた赤土で包めば、發根が非常に良好になります。

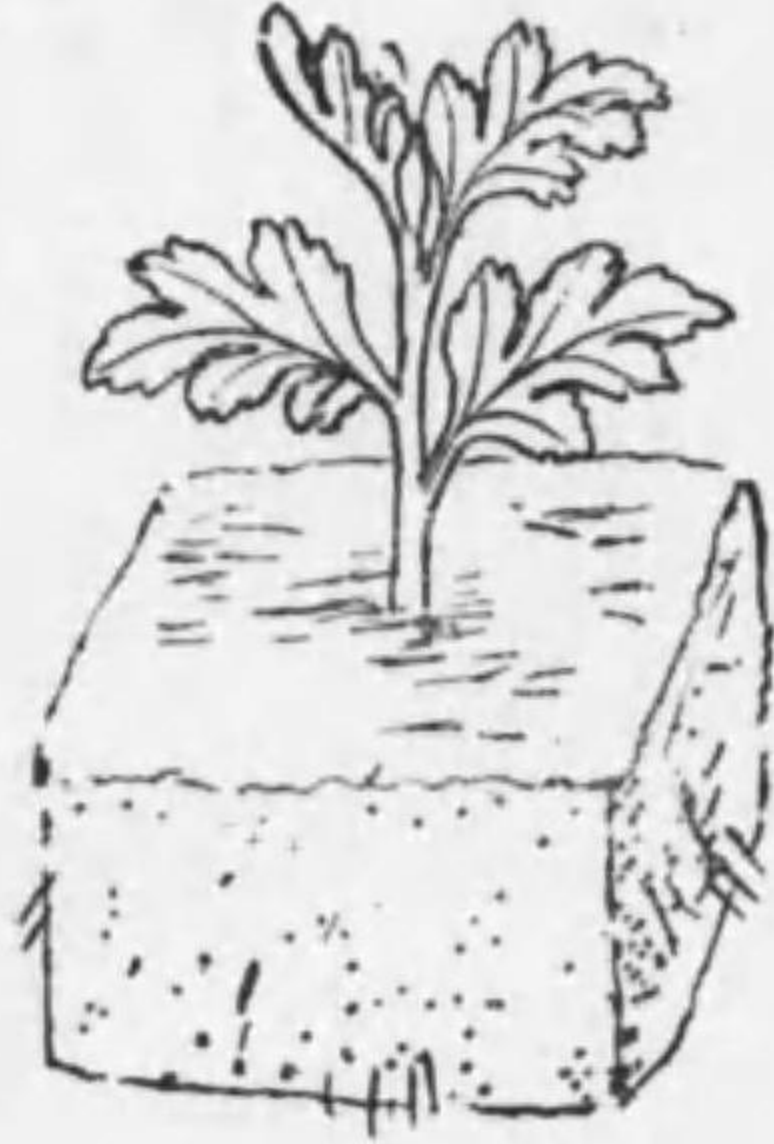
尚三寸鉢へ一本づつ植付けず、桃或は枇杷などの空箱へ土を盛り、一寸五分間隔に一本づつ挿し植ゑするのも結構です。

それは兎に角として、三寸鉢に植付けたものは、タツブリ水を與へて直ぐ草花用のフレームに取込みます。雨天と夜間、特に寒い日には日中もガラス障子をかけ、嚴寒には夜間ヨシズまたはコモをかけて保温しますが、温かい日には努めて障子を外し、日に十分當てると共に大氣にも當て、丈夫に育てます。水は二、三日目毎位にほんの少量、始終控目に與へ、なるべく徒長させぬ様にする事が肝心です。

挿芽苗の取り方で、先を握つて少し曲つた處りを安全剃刀の刃で切ります



假植床で仕立てた苗を四角に掘つた有様



三月月上旬になりますと鉢縁一パイに根が張つて來ます。鉢縁を軽く叩いて、すつぽりと拔出して見れば、根の張り具合がよく分りませう。そこで根の十分に張つたものは、廻りの土を少しほぐし落し、再び三寸鉢へ前の土で植付けます。若し二本立にしたい様な場合には、土を崩すことなくそのまま、三寸五分位の鉢へ植付ける様にします。

斯くして三月下旬から四月月上旬には、苗を鉢より抜取つて、いよく地床へ植付けます。地床は、庭の真中の日當りと風通しのいい場所を選び、四、五寸深さによく耕し、川砂と灰を混ぜ、廻りより少し盛上げ、短冊形の床を造ります。三、四寸間隔に一本づつ割て植下し、常に多少乾き目に保ち、これよ

り挿穂を探ります。

〔挿穂の仕方〕挿穂の時期は、花本意の場合には五月上旬の早きをよしとされてゐますが、一般には五月中旬、下旬から六月初めまでを最適とします。

挿穂を行ふ當日はなるべく晴天の日中を選びます。曇雨天では活着も悪く、且つ切口の腐る虞れがあります。挿穂の長さは、品種にもよりますが、大體一寸五分位に、芽先を持つて軽く撓め、曲り目の葉の直ぐ下より、鋭利な双物—安全剃刀の刃などで切取ります。そして深さ三寸位の木箱に前年用ひた古土に少し薬灰を加へた土か粒状の赤土のみか、庭土に二、三分川砂を加へたもの、或は鹿沼土に四分ほど細切した水苔を加へたものを盛り、割箸で一寸間隔に深さ四、五分の小穴をあけては丁寧に挿込み、地際をよく壓へておきます。この一文字菊は特に、發根する迄に雨を當てますと切口の腐り易い傾向があります。故に挿穂後たつぷり灌水した後は、風當りの少ない軒下かフレーム中に取込んで葎簀をかけ、日中は隙間をつけて通風を圖り、乾かぬ様に時々水を與へてゆけば、三、四週間内外で大抵根を出します。

尚挿穂を切取る時に注意する事は、

- 一、餘り太くもなく、さりとて餘り細くもない、中庸の芽を選ぶこと。
- 二、切口が空洞にならぬものであること。

三、芽先が白味を帯び、全體が軟味のあるものであること。

四、葉と葉の間が均等で、徒長して居らぬものであること。

等です。また切取る一週間前に薬をかけて蟲の驅除を行つておく事は大變有效です。尚挿穂を切取つた際に一時間ほど日に當て、切口を乾かし、多少凋れさせて挿すとか、切口に灰を塗るといゝとか、水で練つた赤土を團子状につけて挿すとよくつくとか申しますが、挿穂後の管理に注意すればその必要はない様に考へます。

〔鉢上と假植〕挿苗に十分根が出ましたならば、三寸乃至三寸五分の土鉢（黒い瓦鉢）へ一本づつ植込み、三週間位後に五寸鉢へ植替へます。この時に、最初一旦假植床へ三寸角に一本づつ植付け、苗に十分力をつけ、六月中、下旬に六寸の土鉢へ上げる方もあります。假植床といふのは、日當りと風通し、水排け共に良好な場所を庭内に選び、高さ二、三寸に板切で圍み、前年使用した古土に畑土（庭土）を三分ほど加へた土を盛つた床です。鉢上をするには、その一週間ほど前に苗と苗の中間へ双物を入れ、切目をつけて細根の發生を圖ればいゝ苗が出来、然も植傷みが少なくて済みます。

植込の要領は、鉢穴を鉢片で塞ぎ、大豆大のゴロ土と消炭を二並び位入れ、用土を入れ乍ら苗を中心に植ゑます。用土は前年の古土に赤土を二割ほど混ぜたものが適當ですが、古土のな

い時には、細かい腐葉に赤土か荒木田を三割ほど加へた土を用ひます。植込後は十分水を與へ、日當りて水排けのいゝ、乾き目の土面へ直に並べて培養します。

〔本鉢上げ〕 七月十日から二十日頃に、いよ／＼七寸位の土鉢へ最後の植替、即ち本鉢上げを行ひます。若し一本の莖に一花でなく、二本仕立とする場合には、八寸乃至九寸位の大鉢に植えます。

鉢底の小穴を塞ぎ、ゴロ土と消炭を敷き、粗い腐葉を三、四分厚さに入れます。次に混合土を入れ乍ら小鉢よりそつと抜いた苗をそのままそつくりと中心に据ゑ、廻りに土を十分詰め、鉢底を二、三度土面に打つて土を落着けます。この時に今迄の土面が、少し埋まる程度にすれば結構です。

この時の混合土は、厚物の様に肥料分を含んだ土を避ける事が最も肝心です。肥料分が不足すれば後で乾燥肥料や水肥を與へて補へますが、多過ぎは、特に一文字菊には失敗を齎し勝てず。故に一般には、

一例	腐葉	五	二例	腐葉	四
	荒木田土	二		古土(前年のもの)	三
	赤土	一		赤土	一

位にします。腐葉は、半年前より檜、椎、栗、楠などの落葉に少量の米糠と下肥を振掛けて積重ね、時々ひつくり返して、よく腐熟せしめたものを篩に通して用ひます。使用前に一、二日よく日に當て、乾かし、みゝずその他の害蟲の死滅を圖つておくと良好です。

植替後餘り丈の長いものは、七、八寸位の時に籐竹を假に立て添へ、折を見て五、六尺の本支柱と取替へる様にします。

〔灌水と肥料〕 灌水には日向水を用ひ、毎朝一回位タツブリと與へるのですが、特に乾くものには夕刻サツと軽くやる程度にして、多少控へ目が安全です。多過ぎて濕潤に過ぎますと却つて根の發育を害し、根腐れを起し、下葉のあがる事があります。故に少量つつ、日に朝晝晩と三回に分けて與へれば理想的です。

尙大雨や長雨には、努めて當てぬ様にしませんと、根の弱い一文字菊は、直ぐ根腐れを起します。

肥料としては厚物や管物に用ひます乾燥肥料と同じものを、たゞ量を加減して與へればいゝ

川砂	〇・五
茅腐土	〇・五
藥灰	一

川砂	〇・五
小砂利	〇・五
藥灰	一

と思ひます。即ち五寸鉢に植込んだ時に鉢縁に沿つて茶匙二ハイほど施して薄く土をかけ、本植の時に一勺半位、八月上旬に二勺ほど、八月中旬に一勺半ほど與へて止肥（最後）とし、一鉢に五勺から六勺位の分量にすれば適當です。量が多いと却つて、少な過ぎたものより不結果になります。

これだけの肥料で大抵巧くゆくものですが、若し肥料の不足を來したと思はれる時には、油粕の腐汁を水で薄め、時折與へます。これも八月上旬まで中止し、それ以後は乾燥肥料で育てる様にする事です。遅くまで與へてゐますと、必ず失敗します。

〔柳芽と摘芯〕 何れの菊でも同様ですが、培養中に柳芽といつて、芽先が蕾の様な具合になつて生育が止まり、直ぐ下の葉腋から三、四本の芽が出て來ます。この時には、その中で形のよささうなもの一本を残し、他は柳芽と一緒に摘去つておきます。この柳芽は八月末頃まで引續いて出るもので、その都度摘除しなければなりません。

この柳芽の發生を防ぐ一法として、七月上旬頃、若しそれまでに苗が六寸以上になつた時には六月下旬頃に一回、芽先を葉の直ぐ上から摘んでおけばいゝのです。

勿論芯を摘みますと間もなく芽を吹いて參りますから、上の方から出た勢のいゝ芽を一個残し、他は小さい中に搔取るのです。若し二本仕立とする場合には、この際に二本残す様にす

ればいゝ譯ですが、なるべくならば一文字菊は一本仕立にした方がよろしい。

尚下葉の附根より出る芽は、出次第に搔取つてゆきます。

〔蕾の選び方〕 一文字菊も中心の所謂天花を咲かせるのが一番大きく且つ立派な花になるのです。併し蟲に喰はれたとか、肥料が利過ぎて瓣が巧く伸びない様な場合には摘取つて、その横に出でゐる二番目の蕾を咲かせます。最初から脇の蕾を咲かせる人もある位です。これは厚物や管物の様に、瓣數を多くする必要はないので、脇の蕾でも差支へないからです。

従つて一文字菊では、蕾が見える様になりましたら、最初に出た天花と、その次に出る蕾二つを残し、他は出次第に搔取り、天花が無事に三分咲位になつて、瓣もすんなりと伸びさうであれば、豫備の蕾を搔去つて一本に一花とするのです。

併し順調に發育したものは全く豫備蕾の必要はなく、且つ蕾を二個つけておくともうしても天花が小さくなつて大輪に咲かせる事は不可能な譯ですから、特に大輪に咲かせたいとか、多少培養に自信の出來た方は最初から天花一個となし、精力を一花蕾に集中させます。但し肥料が利過ぎますと兎角蕾の腐る事がありますから、注意を要します。

〔花臺の取付け方〕 花瓣が繰出して、蓋が見える様になればもう開花ですから、花臺を取付けます。先づ支柱竹を丁度花首の下で切棄て、針金の輪臺を取付けます。次に蕾の大ききより想

花臺の取付け方



長短の甚しい瓣の引抜き方



像して、花より幾分大き目に畫用紙を圓く切り、中心に穴をあけ、挿圖の如く一ヶ所に切目を入れて、輪臺と蕾の間に挿入れます。そして花が咲くに從つて、その上に花瓣が巧く擴がる様にします。

花瓣が大體開きましたならば、餘り重なりあつてゐる花瓣、極端に長く或は短かい花瓣、狂ひ舞など、他の花瓣を傷めぬ様に注意し乍ら、不用な花瓣を綿にて挟んで軽く引抜くのです。そして筆、竹箸などで丁寧に花瓣の位置を直して、形よき、大體十六瓣の花にするのです。

尙蕾がふくらみかけた頃からは、光線の直射を避け、寒冷紗または葎資下などに取込みますと、花瓣がすんなりと開きます。

大擱菊の作り方

大擱菊は別名を奥州菊ともまた八戸菊とも申します。その名が示すやうに、この菊は奥州特に青森縣八戸地方を中心にして古くから栽培され發達したものであつて、その豪快雄偉な花容は一吋他の大菊にその比を見ず、獨特の風姿をもつてをります。大擱菊の生命とするところはその雄大な擱み走り、簡にして要を得た花瓣の一つ一つが各々意義ある活躍をなし、然も壯麗な統一美をなしてゐる點と、花色亦濕ひがあつて生氣が躍動してゐる點とであります。花の大きなものになると本場八戸地方では直徑よく一尺八、九寸にもなるといはれ、それに附隨して葉は長さ七寸位、恰かも大人の草履位の大きさになると稱されてゐます。

八戸地方に於けるこの大擱菊の栽培は遠く二百數十年の歴史をもつといはれてゐますが、無論當時から今日の如き大擱菊が存在したわけではありませぬ。比較的新らしい事實として傳へられてゐる話によると、この大擱菊は、從來から同地方に於いて盛んに作られてゐる食用菊から變化したといふ説と、明治三十五、六年頃、一時關西から關西菊を取寄せて作つてゐた時代がありましたが、これに色々土地の菊を交配して出來たといふ説とこの二つの説があります。

何れにしても大擱菊はこの地方獨特のもので、その出来栄も亦他地方に比べると出色してをり、大菊といへば殆んどこれのみが作られてゐる状態でありませぬ。これは培養技術の優秀さもあることながら、氣候、土質が大擱菊の栽培に適してゐるためと思はれます。八戸地方に於いては昔は花壇作りが主でしたが、最近五、六年の間に鉢作りがすっかり流行し、花壇作りに劣らぬ成績をあげてをります。又隣接の北海道もその栽培は年と共に隆盛になりつゝあり、その他今日では全國的に廣く愛培されてをります。

次に述べる大擱菊培養の方法は何れも本場八戸地方におけるやり方ですから、そのつもりでござい願ひます。

〔大擱菊の代表品種〕大擱菊の種類は凡そ五、六百もありますが、その中から最も一般向な代表花をご参考までに選り出して見ますと、大體次のやうなものがあつてゐます。

「富山の雲」、「華嚴の瀧」、「南呂の月」、「峰の白雲」、「月想の曲」、「青漳」、「天臺」、「蒙古の遊」、「靈山の雲」、「黄金の泉」、「對鶴城」、「大觀」、「月の洋」、「勳光」、「長江萬里」、「峰の白雲」、「春宵一刻」等。これ等のうち「富山の雲」「華嚴の瀧」などは東京地方に於いても名譽を拍してゐる古い名花ですが、この兩者は何れも晩咲の種類です。

〔培養土の作り方〕培養土は厩肥一〇、畑土五の割合に混合し、これを使用する前年の秋に露

地に浅い穴などを掘つてこの中に積んでおき、その上に直接雨に當てぬやう蕙のやうなものを覆ふておきます。そして春までに時々二、三回切返して十分醗酵腐熟させるやうにします。使用する時はこの土を四分目の篩で篩ひ、目から下へおりた土を用ひることにし、これに腐葉土を全體の四割ほど混ぜるとよろしい。人によつては最初積重ねる時に下肥を少量加へる人がありますが、成績は何れが優るともいへないやうです。

〔肥料の拵へ方〕大擱菊の肥料としては、水肥と乾燥肥料の兩方を使用してゐます。水肥は人糞尿のごく薄いものか、又は油粕の腐汁を用ひます。乾燥肥料は油粕一斗、米糠七升、鱈粕又は鱈粕五升、藥灰二升、ゴミ土一斗（なければ畑土でもよろしい）の割合にまぜ、更に全體の二割ほど腐葉土を加へます。

斯様によく混合したものを雨に當らぬ様、箱などに入れて蓋をし、幾分水を加へて濕氣をもたせてやり、時々切返して十分醗酵腐熟させてから使用します。乾燥肥料を造る時期は三月下旬から四月頃がよろしい。

〔挿芽の仕方〕前年花を終つた株はそのまま、冬の保護を完全にして冬を越させますが、五月初旬に至つて、一本づゝ根分けして畑に植込みます。いふまでもなくこれは、苗を十分肥やしてよい挿穂を得るのが目的ですが、といつて特に肥料などを與へるには及びませぬ。若し中に

勢の弱いものがあれば一、二回薄い肥料を施してもよろしいが。凡そ一ヶ月位畑におきま
すと苗はぐつと大きくなり、且つよく充實しますから、この時に挿穂をとるのです。

挿穂はなるべく眞芽（天芽ともいふ）を用ひ（八戸邊では眞芽に限られ、莖挿しは行はれま
せん）長さ二寸位によく切れる薄刀の小刀で切口を稍斜めに切り取ります。この時莖が潰れぬや
う丁寧に切ることが大切です。

挿芽をする時期は、八戸邊では五月二十日頃から六月上旬までで、ご承知の通り大楓菊に
は幹の長く伸びるものと、普通のものと、あまり伸びないものと、種類によつて三通り位あり
ますから、この幹の長短によつて挿芽の時期も多少變へる必要があります。即ち極く伸びない
ものは早く五月二十日頃、伸びる性質のものは六月上旬頃、普通のものは、その中間に挿芽
するわけです。

挿し箱は深さ三、四寸の木箱を用ひますが、別に造らなくても、有り合せの空箱で結構です。
箱底へは適當に水排け装置を設けます。（穴をあけるなり、板と板の間に隙間をもたせるなり
して）そして底の方へは小指大のゴロ土か（八戸地方ではゴロタと稱してゐる崖などにある鹿
沼土などより堅い赤玉土を用ひてゐます）なければ鹿沼土又は培養土の篩ひ残りの粗目のもの
でも結構ですが、兎も角水排けのよいやうに粗土を入れます。その上にやはりゴロタの粗目の

大菊の作り方

大菊の作り方

もの（直径二分五厘位の）を箱一ぱいに入れて、土全體に水を含めるだけ含ませておきます。

一方切取つた挿穂には粘土—壁土のことで、なければ鹿沼土でも結構ですが、水を少々加へ
て土の團子を造り、これを切口に挿して、そのまゝ前記の用土に挿すのです。挿す深さは、團
子が土中に隠れて土が少しかゝる位つまり五、六分でよろしい。これで挿し終つたわけですが
これ等の操作はなるべく丁寧且つ迅速に行ふことが必要です。それから挿し終つた時に挿穂が
ぐらつかぬやう竹箸又は指腹で周りの土を壓へつけてやり、頭から細目の如露で靜かに灌水し
箱は日光の直射しない、且つ風の來ない所におきます。フレームのある人なら、そこへ入れて
おいてもよろしいわけです。挿した當座一週間位は土もあまり乾きませんから、灌水の必要は
あまりありません。

〔小鉢上げと摘芯〕大楓菊は割合活着し易いもので、特にこの方法による時には、二、三週
間で大抵のものは根を下します。どうかすると活着までに一月以上もかゝるものがあります
が、そのやうなものはどうしても健全な發育をなさず失敗に終ります。

根がそろ／＼下りる頃には徐々に日向に出してやり、完全に根下しする頃は終日日向におい
てよろしい。同時に最初の小鉢へ植替へてやります。

この小鉢は口径三寸乃至四寸の一般に大菊作りに用ひられる瓦鉢です。植込の方法は先づ底

に穴當を行ひ、その上にゴロ土を入れ、更に前記の培養土を鉢の八分目位まで入れて植込みます。この場合も一番大切なことは水排けを十分に圖ることですが、何分小鉢のことで、土の分量も少いですから土粒は細かいものでもよろしい。

植終つたならば、如露で十分灌水して、初めのうちはあまり光線の強くない所におき、根張りの工合を見て徐々に日に當て、ゆきます。

植替へてから葉が勢づいて芽が三、四寸位に伸びた時に、小さな葉を必ず三枚以上残して真中の芯だけを僅かに摘取ります。すると間もなく切口の附近の葉の間から新芽が出て來ますが、この芽が一寸位に伸びた時に最も近い距離にある且つ揃つた芽を三本残してその他は全部掻きとります。いふまでもなくこの三本の芽を今後伸ばして三本立とするわけですが、そのために、この三本の芽を鉢縁の方へ誘引してやります。この誘引の仕方は人によつていろ／＼工夫してやつてゐますが、竹又は割箸の先に針金の鈎をつけて、この鈎で各々の芽を下へ引きとめる方法などは操作が簡單で推奨出来るやり方だと思ひます。何れにしてもこの時注意することとは、あまり無理をして一度にとつとひどく曲げぬことで、又雨天や朝夕は避けて晴天の日中に行ふと樂に曲げられしかも失敗が少いものです。尙曲げる時に三叉が裂けぬやうに十分の注意が肝要です。

〔本植と追肥〕小鉢で或る程度培養し、根が鉢中に充滿し、鉢の底穴から白根が出てくるやうになればいよく本鉢に定植します。時によつては小鉢と本鉢との間にもう一回中鉢を使用することもありますが、八戸地方では殆んど中鉢は用ひられてゐないやうです。中鉢を用ひても用ひなくても同地方では結局成績にはたいして影響はないといふ話です。若し用ひるとすれば口径五寸位のもですが、この場合は本鉢への定植は二十日位遅らします。

さて中鉢を使用せぬ場合、本植の時期は、早いものは七月二十日頃になります。本鉢は普通口径九寸の鉢が使用されてゐますが、植込の方法は小鉢の時と同様で、即ち底へゴロ土を入れて水排けを圖ります。この時乾燥肥料を九寸鉢一鉢につき約五勺ほど鉢底と中頃へ入れることを忘れてはいけません。

この乾燥肥料はそれから八月十日頃に四勺を鉢の隅にばら撒きますがその上に増土してもしなくてもよろしい。更に八月三十日に四勺を與へ、八月十五日から二十日頃に五勺を同様置肥します。最後の施肥、これを止肥と申しますが、この時肥料の上に土を覆ひます。若しそのために葉裏を汚すおそれがあれば鹿沼土又は水苔を敷いてやるとよろしい。

水肥の方はこの乾燥肥料を與へる合間々々に（初めは植込後十日位に）月に三回の割で施しますが、止肥以後はその必要はありません。

尙肥料の分量は品種によつて、つまり木の強弱によつて多少異なりますから、性質の弱いものはこれよりも幾分少な目に與へねばなりません。

〔蕾の選擇〕同地方では、早いものは八月二十五、六日頃から蕾が見へて來ますが、あまり早い蕾にはよい花は開きませんから、これは取去ります。すると九月七、八日から十日頃までに脇蕾が出ますからこれを立てるやうにします。概して九月十日前後に出る蕾が一番よい花になるやうです。

八月の中頃から末にかけて、特に九月に入つてからも柳芽といふのが出ることがあります。一見蕾のやうですが、これは本當の蕾ではありませんから必ず摘取つて頂きます。(尤もごく特殊な品種ではこの柳芽を立てるものもあります) 柳芽はその名のやうに柳のやうな葉をもつてゐますから、すぐ分る筈です。他の蕾を傷つけぬやう一寸乃至一寸五分位伸ばしてから取るとよろしい。

蕾にはご承知のやうに眞蕾と脇蕾とがありますが、原則として眞蕾を選ぶべきですが、眞蕾に故障のある時、又、大摘菊は品種によつて眞蕾を咲かせると花が強くなりすぎるものがありますから、この場合も脇蕾を立てねばなりません。

蕾が大位になつた時によく大ききの揃つた完全なものを一本の幹に一ツづつ合計三本を

残して他は全部掻きとります。併し前にも申しましたやうに九月に入つても柳芽が出ることがありますから、摘蕾はあまり急がぬやう、再三申しますが、九月十日位まで様子を見た方が安全です。例外として柳芽が二回も出ることがありますが、二回目には仕方ありませんからこれを立てるやうにします。もう一度これを摘取るとずつと花期が遅れ、花もずつと貧弱になるからです。

尙三本仕立ては、三個の蕾は仲々巧く揃はぬものですから、この場合は、小さな蕾は早く一個にしてやり、大きな蕾をもつ枝には幾つかの蕾を残しておきますと、大きさが揃ふやうになりますから、よく揃つたところで各々一個にすればよいわけです。

〔開花までの管理〕蕾が出始めたならば今までよりも特に十分日光に當てるやうにし、時々鉢を廻して日光に花が平均に當たるやうにします。灌水も相當豊富に與へるべきで、特に開花間際になつて水切れさせては絶體にいゝ花は咲きません。

蕾がほころんで、花が一、二本繰り出して來た頃に輪臺を取付けます。八戸地方において小さなものでも徑六寸位から、大きなものは一尺二寸位のものまで使用します。これ位でなければ花が保ちません。

輪臺の取付と大體同時に、雨と日光の直射を避け、且つ觀賞に便するために油障子で造つ

た花壇に鉢を取込みます。同地方では普通十月十五日頃から遅くも二十五日までは花壇入れをしてゐます。鉢数が少く、油障子などの設備をもたない方は軒下などに取込んでも差支へありません。併し何れにしても同地方のやうな寒地では夜凍らぬやうな設備をする必要があります。寒さのひどい時は花まで凍ることがあるさうです。

花の開くのは、ごく早いものは九月十六、七日頃からですが、最盛期は十月二十七、八日から十一月三日頃までの間です。

〔管理の大要〕菊の置場所は一日中日光のよく當る所で、且つ適度の通風の得られる所であること、これが一番大切なことです。八戸地方では土地の廣い關係ですべて庭に鉢なをらべてゐますが、都會地のやうに空地のない所では屋上などでも構はないわけです。

灌水は乾かぬ程度にやつて頂きます。植込みの工合や、置場によつて多少異りませうが先づ春秋は日に二回、土用中は三回を標準として、花時は幾分餘計に與へるやうにすればよいです。灌水用の水はなるべく汲置きの水である方が安全です。

害虫や病氣の豫防は是非行はねばなりません。小鉢時代から秋までに少くも五回位、藥劑を撒布して豫防驅除を講じて戴きます。藥劑としてはデリス石鹼液、粉末ボルドウ液、ニコチンなどがあります。

大菊花壇の造り方

何んの手落もなく、立派に咲いた大菊―厚物、厚走、大擱、太管、細管、長管、一文字菊など、一鉢づつ適當な場所に置いて觀賞するのも悪くはありませんが、お粗末ながら、自分で花壇を造り、これに飾付ければ、一層その美を引立て、菊の持つよさを十分に味ふ事が出来ると思ひます。

〔花壇の種類と位置〕一般に造られてゐる花壇の形には、正面から見ると同じ長さの屋根を設ける兩屋根式と後即ち背の方だけに屋根を設ける片屋根式とあります。またこの中間をとつて、前屋根を短かく、後屋根を長目にする仕方もありますが、一番簡單で、ちよつと器用な方なら自分でも造れるのは片屋根式で、材料費も安くて済みます。故にこゝでは、この片屋根式に就いて、その造り方を申上げる事に致します。

若し兩屋根式を設けたいと言ふ方は、掲載の寫真なり、また挿圖の片屋根式（これを二組合せれば兩屋根になります）をご参照の上、ご工夫を願ひたいと思ひます。

而してこの花壇を設ける位置は、日當りのいい場所に、西を背にして東向に、朝日を受ける

様な具合に設けるのが理想的なのです。併し折角飾つた菊花壇も御座敷より眺められず、一庭に下り立たなくてはならぬ様では面倒で大變厄介な話です。故に先づ座敷より十分に眺められる範圍内で、なるべく東向になる様に工夫して位置を設定します。その場合に多少向が悪く、北向にならうとも、致し方ないと思ひますが、西向だけは極力避けねばなりません。これは花が早く傷んでしまふからです。

〔大きさと材料〕 片屋根式花壇の大きさは、奥行を六尺にして、鉢數、仕立方、庭の廣さなどて間口を長くも短かくもしてゆきます。三本立て十五鉢から二十鉢、一本立て三十鉢内外なら一間といふ割で、二間、三間と或は一間半、二間半といふ風に、障子の巾(三尺)で割切れる様にとつてゆくと造る時に大變便利です。

片屋根式の時には、奥行を九尺となし、間口を二間以上、二間半、三間にとつてゆきます。この際に間口一間そこ／＼では狭くて見榮えませんから、どうしても二間以上は必要です。

片屋根式で、奥行六尺、間口二間の花壇を造るとして、その材料を準備してみますと、大體次の様になります。

- 一、柱 〓 末口三寸位の杉磨丸太、九尺もの六本
- 二、上横棧 〓 末口二寸位の杉磨丸太、六尺もの三本

- 三、桁 〓 杉の六割、二間もの二本

- 四、下横棧 〓 杉の六割、二間もの一本

- 五、雨障子 〓 横三尺、縦六尺もの四枚。凹凸、『』をつけておいて、隣り同志がキツチリと組合せられる様にしておくと雨漏がなくて大變都合です。

障子紙は強力て透明な、明るい防水紙を用ひる事で、市松格子に模様の入つたものなどなか／＼優雅なものです。

尙これを貼るには、ワラビ糊(ワラビ糊一合に水五合を加へるとき、焦付かぬ様に煮詰め、よく摺り乍ら柿澁五勺を加へます)を用ひますと強靱で、容易にはがれる心配がありません。

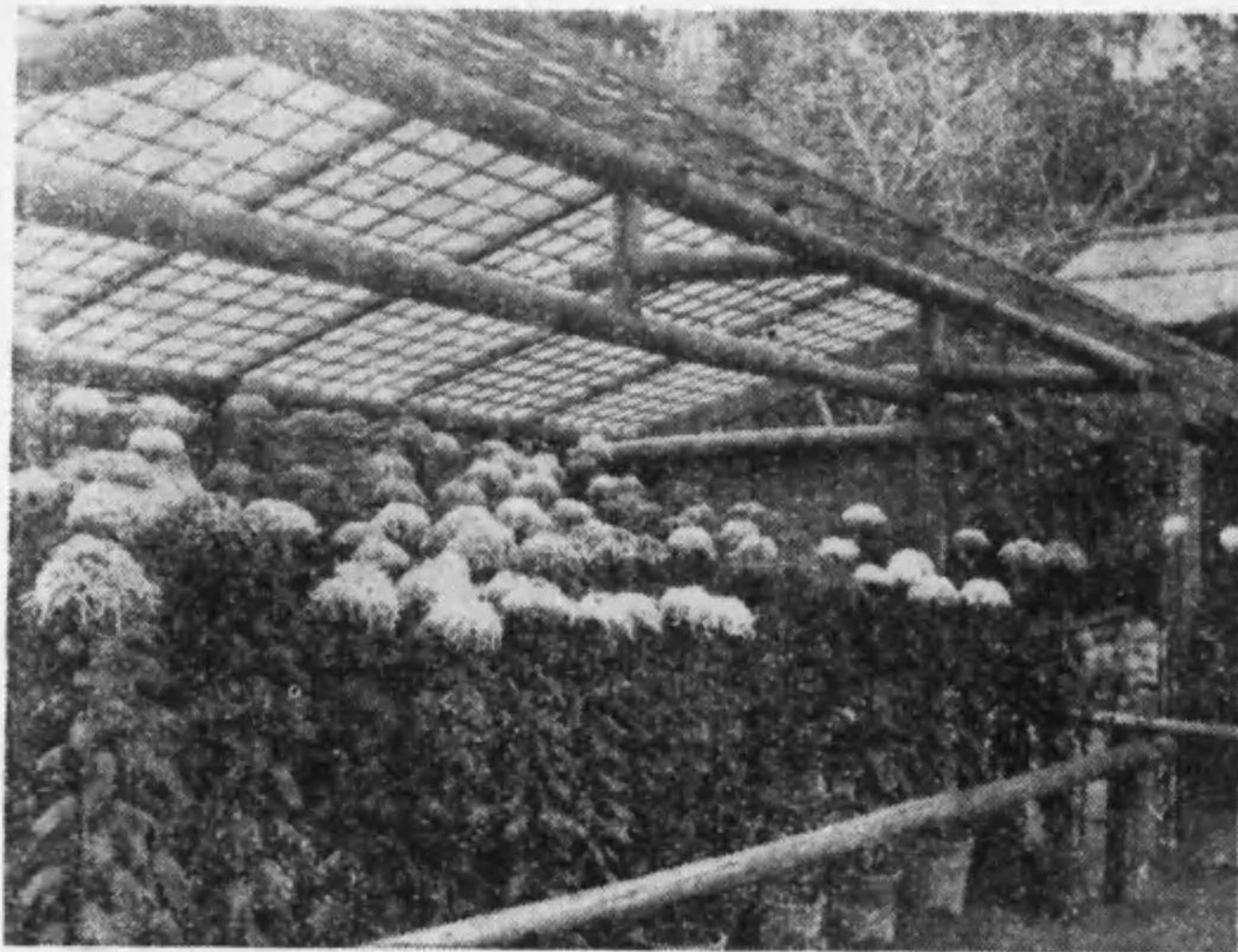
- 六、葭簀か簾 〓 六尺、六尺もの二枚(後側) 六尺、六尺もの二枚(兩側)

- 九尺、二間もの一枚(風雨の際に前側へ立てかけます)

- 七、幕 〓 紅白の幕か絞、屋號入りの幕、二間もの一張

〔造り方〕 以上の様に材料が準備出来ましたならば、いよ／＼組立に取りかゝります。

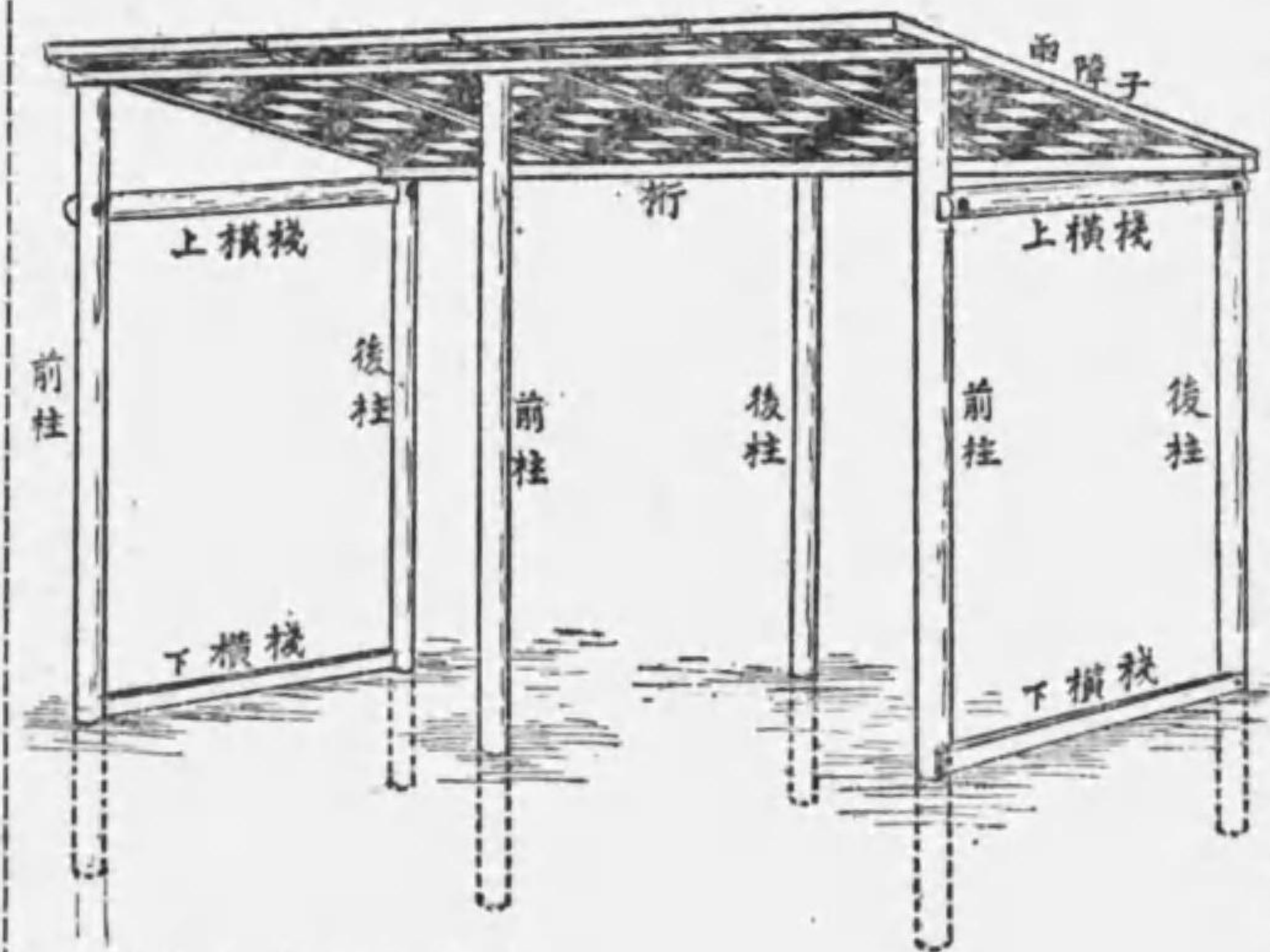
先づ花壇を拵へんとする場所へ、恰度六尺の奥行を保つて四隅及びその中間に二つ、合計六個の小穴を掘ります。深さは一尺五寸位にします。そして柱を六本立てるのですが、前側にく



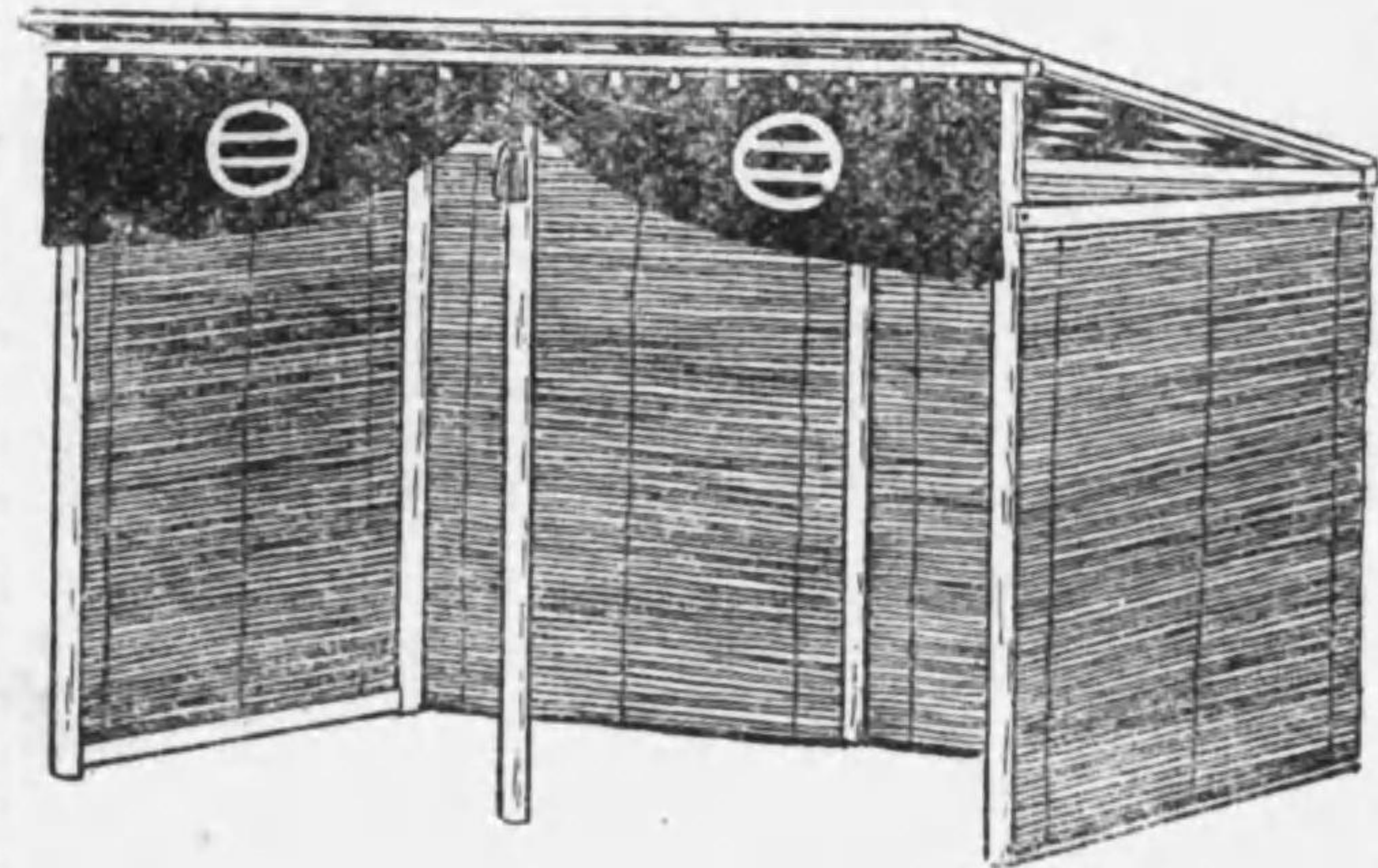
組立式兩屋根の大菊花壇

る柱は五寸、後側に立てる柱は一尺五寸位、
 豫め切棄て、おき、立てた時に前柱三本は
 七尺、後柱三本は六尺になれば、譯です。
 即ち前と後とは一尺の差をつけ、障子をかけ
 た時に、雨露が流れる様に傾斜をつけておく
 のです。
 柱が立ちましたら前柱の地上六尺、後柱の
 頂端へ上横棧を渡します。これは柱と上横棧
 兩方に切込をつけておいて組合せ、ポートで
 締める様にすれば、がたつかなくて宜しい。
 次に下横棧二間ものを半分に切り、兩端即
 ち左右の柱の地際へ沿って渡し、釘付けし
 ておくと、一層しつかりして來ます。
 桁は障子をのせる臺木とする譯です。柱
 の切口の上へのせ、釘で打付けておけば、

花壇の骨組



出来上つた花壇



これで大體の骨組は出来上つた譯です。

こゝでちよつと附加へておきますが、寫眞（これは兩屋根式ですが……）の如くに、骨組に
 至て磨杉丸太を用ひ、然も組立式に造つておきますと、大變便利です。最初少し費用が嵩みま
 すが、十年でも二十年でも保存法次第では十分保ちますし、體裁もよろしいから、金に餘裕の
 ある方は、こんなものを片屋根式に造つておかれたらいいと思ひます。

それは兎に角として、骨組がしつかりと出来れば、障子と葎簧をかけます。障子を前後の桁
 と桁とに渡し、二三ヶ所、釘で止めるなり、針金でしつかりと前後の桁にしぼりつけ、風で飛
 ばされぬ様にしておきます。障子と障子とは、竹釘、その他で止めておくと一層申分ないでせ
 う。葎簧は、その綱目が挿圖の如く縦になる様に、即ち兩側は上横棧、後は桁より垂らし、柱
 に二、三ヶ所釘が針金で止め、風で飛ばされたり、餘りゆれぬ様にする事が肝要です。

最後に、前側には幕を張り、一ヶ所でしぼりあげておきます。

尙杉丸太、太竹などで、高さ二、三尺位の柵を設ければ、更に立派な花壇となりませう。

〔陳列の仕方〕 並べる種類は、厚物ばかりにしますと見榮はよろしいが、そればかり作ると
 いふ譯にもゆきましますまいし、またなんとなく暑苦しい感じもしますから、管物も適當に配置し
 て、優艶清楚な感じを與へる様に工夫して下さい。

花壇へ陳列する仕方



陳列する鉢数は、三本立の場合には、横へ
 十鉢、縦へ三鉢の三十鉢前後、一本立の場合
 にはその倍位にすればよく、適當な間隔をつ
 ける事が大切です。餘りゴチャ／＼と詰ま
 すと、却つて見苦しくなります。

それと同様に並べ方も、たゞ雜然と、思ふ
 がまゝに並べたのでは清楚さが失はれますか
 ら、挿圖の如く、右肩上り或は左肩上りの斜
 めに鉢を並べ、その一列が全部同じ種類で且
 つ同じ色合のものでゆく様になし、更に同じ
 種類が來ても同じ色合が二列重ならぬ様にす
 る事が、陳列上最も工夫と研究を要する點
 です。この花色の配置が悪いと、花は如何に
 よく咲いてゐても、花壇としての觀賞價値は
 非常に低下します。

花の高さは、前列と後列の差を一尺位にして、後ほど段々に高くなる様に、莖丈の伸びたものを後へ持つてゆきます。急に高低がつかぬ様にする事が肝腎で、鉢の底へ板切、煉瓦その他適当なものを敷くか、鉢を土中に多少埋けるかして、兎に角高低を順に揃へます。併し横の並びは同一の高さにしてゆかねばなりません。

一般には鉢ごと土面へ直に並べますが、一法として土面を鉢の深さだけ掘下げます。そして花の種類と色合、莖の高さなどで適当に並べ乍ら平に土を均し、帯の痕でもつけておけば大變體裁がよくなり、それこそ立派な花壇となります。

尚大菊は、瓣が外へ繰出した凡そ三分か四分咲の頃に、花壇へ持込む様にしたら恰度い、と思ひます。

〔花壇の手入〕 列べ終りましたら、十分灌水します。その後の灌水は、餘りぬらさぬ程度に日當りのいゝ花壇なら一日一回、その他は隔日位に、鉢を埋けた場合には二日毎位に、朝方か夕刻、花にかけぬ様に與へます。持込んだ當座は、まだ十分に開き切つてゐませんから、日にはなるべく當てる様にします。日に當てませんと、どうしても鮮かな色が出ない缺點があります。但し西日に當てゝはいけません。

雨、風の日には、前側に葭簀を立てかけ、また屋根などから雨の漏れない様に注意します。

大菊の新作法

〔實生で新花をつくる〕 普通の菊の繁殖はご承知の如く、花後株元から多数に出る新芽を用ひるのでありますから、親と全然違はぬ花が見られます。併しこれから採つて種子を播いて花を咲かせると、親と同じ花を開くものは絶體にないと云つて良い位です。これを逆に考へて見ますと、親と似てもつかぬ色々の形體や性質の葉や花を持つた菊が生れてくるわけです。この内殆ど全部が親より悪くなる傾向があるものですが、數多くの中には大變立派な花が生れることがあります。これが即ち新花であり、新しい花は斯うして生れるのです。

〔種子を採る親木の選擇〕 たゞ漫然と種子を採つても、偶然良い新花を得ることもありますが併し優秀な新花を作り出すには、優良な親木を選ぶ必要があります。茲て考へなければならぬ事は、種類により結實の難易、開花期の早晚、優秀花の出易いもの、出難いもの等色々あることです。概して管物は結實し易く、厚物は結實不良です。又露地で採種する場合には出来るだけ早く種子の採れるものを選ぶことが大切です。又ご自分が選び出した新花から、又新花を採らうとする場合には、實生後一、二年では多くのものは結實しないことと、その優秀性がすぐに

分りませんから、六、七年栽培試験しなければ、親木として用ひることは出来ません。
 「親木の仕方」 優良の親木が選出出来ても、一種一株では勿論新花作出用としては餘りに少なすぎますから、ある程度親木を殖やす必要があります。厚物の様に結實の少ないものは、管物より多数に親木を必要とします。

親木の繁殖法は株分する方が宜しい。株分ですと早く成熟して、早く種子が採れます。採種場は風や虫による交雑を防ぐ爲に他の實生場と離れた日當の良い、南面の傾斜地が宜しい。作植の場合でも鉢植の場合でも管物を手前におけば、一番遠くの側に厚物を置いて兩極端の性質を持った花がお互に交雑しない様にして、成るべく純粹なものを得る様にします。

品種によつて多肥の方が結實が良いものと、却て瘠地が良いものとありますが、一般には多少肥料分を少くした方が良い様です。ですから肥料としては、開花迄に二、三回薄い油粕の腐汁をやる程度で宜しい。株分する時期は五月下旬から六月初が良く、鉢植ですと八寸鉢に一—三本位植込みます。六月下旬に一回摘心して、三、四本立としても又そのまゝ摘心せず開花せしめても宜しい。申しおくれましたが、肥料分が多いと一般にいゝ花が開きますが、花粉の生成は悪くなる様です。

親木は葉を落すことは禁物ですから、ポルドー液（簡単に水に薄めて造れる粉末ポルドーが

人工交配の方法

右は花粉をつけてある所。左は交配済のものに袋をかけてある所



素人向て宜しい）を撒布して防ぎます。又雨の爲に土がはね上つて葉裏につくの防止する爲に、株元に薬を敷くか、又は二、三寸に切つた薬を撒布してやります。

大菊の採種法

「開花と人工交配」 前申上げました様に自然の交配にまかしておいても、種子を結び、その中から良い花が出る場合がありますが、出来るならば人工的に交配して戴くことが必要で、純な良い種子は人工交配して採ります。親木の繁殖であれば同品種同志交配し、一般新花の生成の場合ならば、自から定めた二品種の内一方の花粉をとつて他方の雌蕊につけるのです。

最も理想的な方法は母とする方も花粉をとる花も豫め袋掛しておいて、花粉がとれる程度に花が開いたならば、若し鉢植の時はこれを日當よい場所に運んで、柔な毛筆で靜かに花粉をとり、親木の雌蕊の先につけて、再び袋で覆っておきます。これが済めば花粉用の菊の方は袋を掛ける必要はありません。この操作は、快晴の日の午前拾時頃から正午頃までに終るのが良く、毛筆は良く乾燥せしめて用ひ、濕氣のあるのはいけません。尙交配の際、母本の花が邪魔であれば、花は根元から六、七分残して切り去ります。斯うすると仕事が便利であるばかりでなく、結實には殆ど影響ありません。

〔交配後の手入〕 交配が終れば約一週間は袋をとらず、他の花粉との交雑を防ぎます。採種する迄は絶體に霜に當てない様にします。降霜前に採種出来ない場合には、降霜前に霜除します。若し鉢植の場合には出来れば、日當りて霜のからぬ所に取入れます。併し霜除は種子に影響のない限り、成るべく晚い方が種子の質が良い様ですから、氣候や天氣模様は注意して最後の一日まで放任しておき、いよ／＼霜が降りさうな時初めて霜除するが宜しい。

併し大抵は霜に捨て、おくと、結實しませんから、餘り無理しない程度で霜除することが、種子を安全に採る上必要です。又霜に當てた種子は外觀は殆ど變りませんが、發芽しないことが多いものです。そして、採種後往々腐敗することがあります。

受粉後成熟までは割合に長く、約二箇月を要します。花が枯れますと、次第に種子が熟するわけですが、この時はなるべく通風をよくし、乾燥に保ち、灌水等も菊の枯れぬ程度に控へます。この場合鉢植等として濕氣や霜を避ける爲、温室の利用等と云ふことが考へられますが、温室は温度高く従つて割合に濕氣が多いから、種子が腐ることがあります。寧ろ霜に當てない様に注意して戸外で作つた方が宜しい。

若し濕氣で花腐病が生ずる様ならば、寧ろ花を取つて火力で乾燥した方が良く、さもないと一粒の種子もなくして了ふことがあります。

〔種子の採取・選別・貯藏〕 種子が十分成熟したら、花首から切り取り忘れない様兩親木の名をつけて天井等に吊して乾燥します。こゝで注意して戴きたいことは種子の刈取りの時期です。人によると未熟の種子の方が變化に富んで良いと云ひますが、それは結實し難い種子を未熟の内取つて見ると、まれにその中から立派な花が生れて來ることがあるから、さう申すのだと思ひますが、これも一理あることとせう。

まづ成熟せしめる方が無難とせう。乾燥がすんだものは種子を取りますが、ごく小さい種子です。丁寧に取つて花瓣や其の他の屑と混ぜて捨て去らない様、注意することが大切で、丁寧に雌蕊を抜き取つて、その元を採むとよく種子が採れます。

種子にはその品種によつてその粒が比較的大きく肥大してゐるもの、又瘠せてゐるものがありますから、これは餘りに小さいから發芽しないだらう、等と云つて捨てない様にして戴きます。尙種子を取つたカスの中にも見落しの種子が相當にあるものですから、決して捨てずに混合種として播くと、案外にこの中から立派な新花を得ることがあります。種子は貯藏中に濕氣を多く含むことはいけませんから、鉢力製の茶壺等に入れて、餘り蒸れない棚の上の様な所に貯藏しておきます。發芽年限は短く、播くには新しのでなければいけません、保存法が良ければ二年位は發芽します。

大菊の實生法

〔種子の選別〕 菊に限らず、と角優良種は發芽力も弱く、性狀も弱いものが多いから、播種に當つてこの點を十分留意することが肝要です。成るべく種子は一個一個づゝ數へて、その内傷のあるもの、全々發芽の見込ないもの、等を除いて播きます。種子を數へておくと、どの位發芽したかよく分つて好都合です。

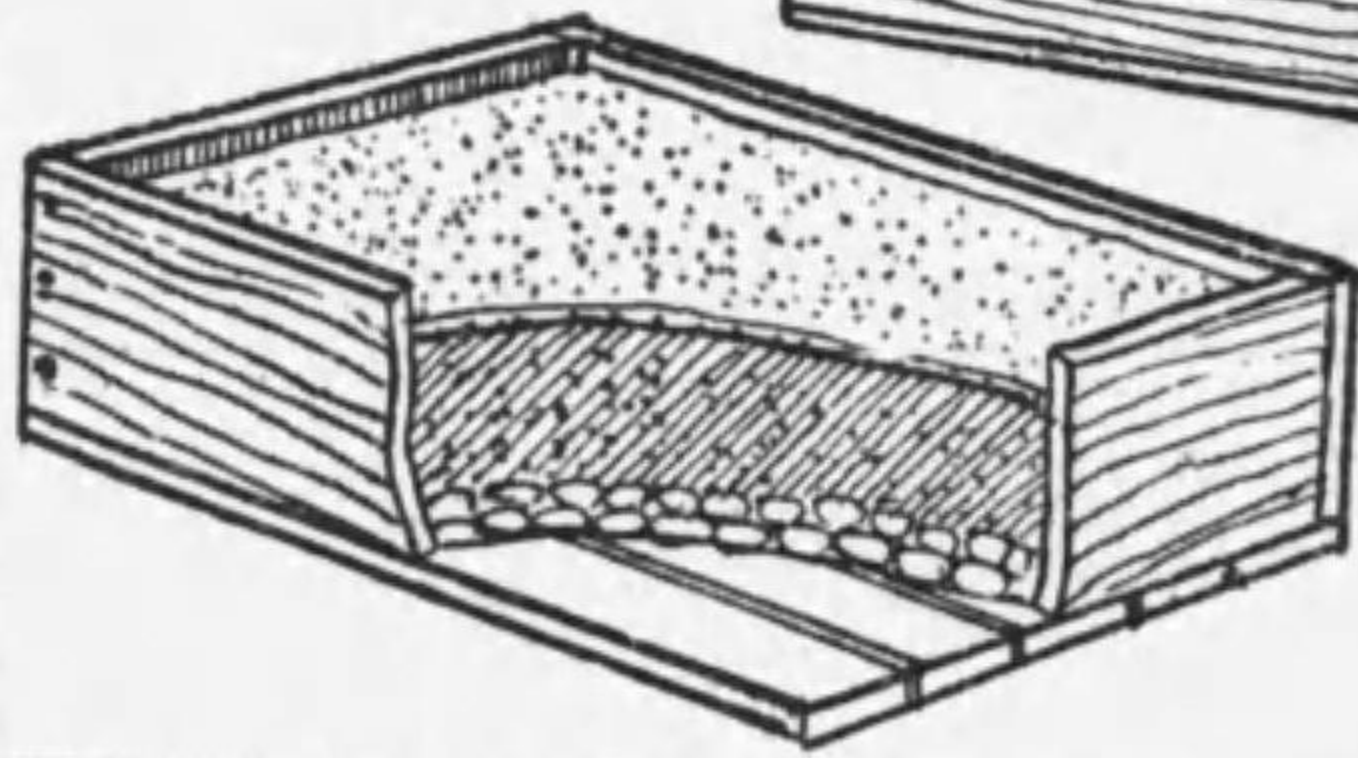
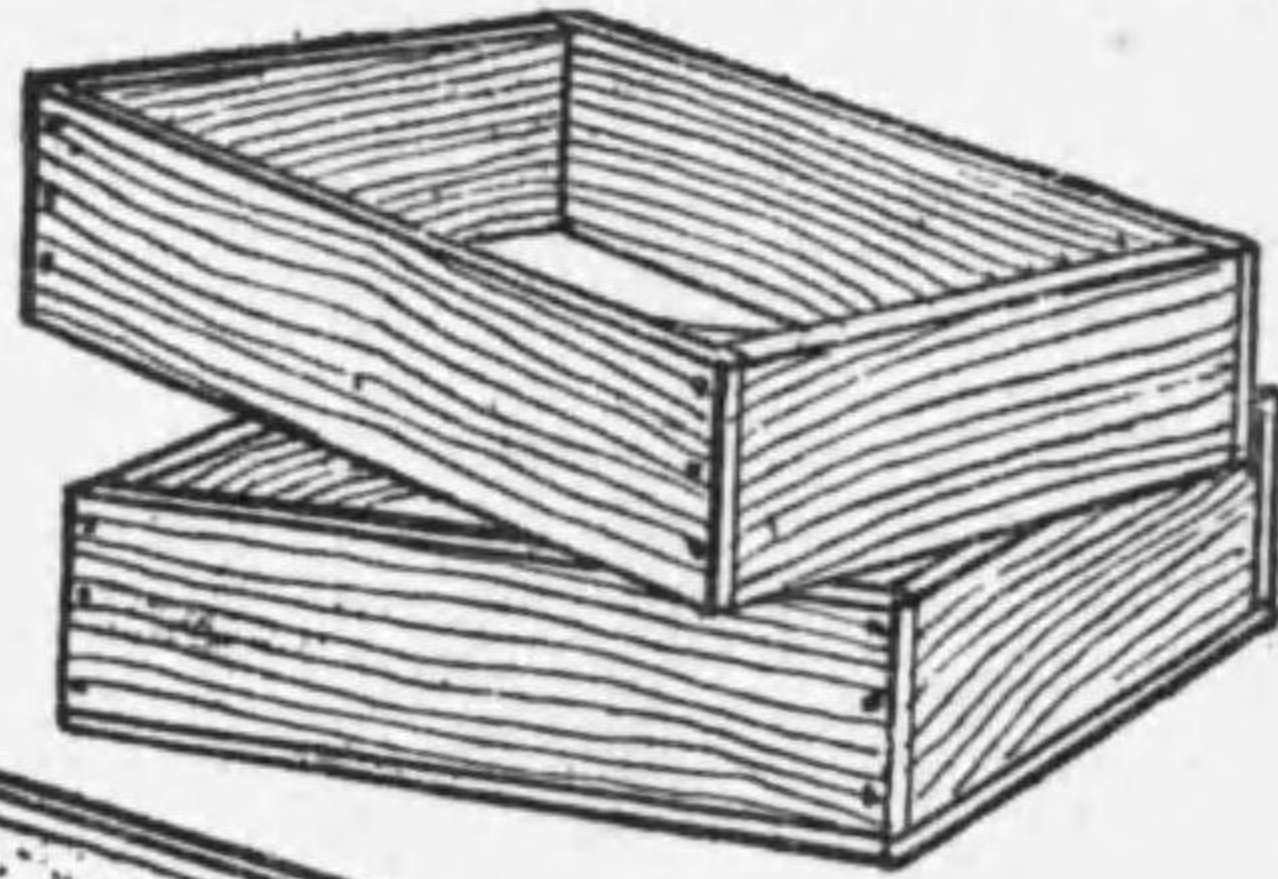
〔播種の時期〕 温室等を利用すれば年中播けますが、一番良いのは簡單なフレームで四月上旬

旬に播きます。それから順次播くことが出来ませんが、六月上旬で止めます。

〔播き方〕 箱播とするのが、後々の管理上最も都合良く、普通蜜柑箱を横二つ切りとして、深さ二、三寸の播箱を造ります。ゴミ土と畑土を等量に混ぜこれに少量の木灰、油粕等を混じた土を一分目位の篩を通して入れ、この上更にごく薄く川砂を敷き、これに厚薄ない様播いて、二分位薬灰を撒布して覆土に替へ靜かに十分に箱底より灌水して、フレーム内に入れておきます。播種には萬全の注意を拂つて、一本たりとも發芽しないものがない様にします。と云ふのは操作の不注意で發芽しなかつたものが、千本中のたつた一本の逸品であることが無いとは申されませんからです。

箱播の方法

蜜柑箱を横二つ切りとして播箱を二つ造ります



籠の子狀に底板を打つけ、培養土を入れ種子を播きます

〔其の後の管理〕 播種後は日覆をして、直接陽光に當てない様にし、土表面が餘り白くならない程度に灌水します。菊の種子は乾燥に弱く乾き過ぎると往々發芽しなくなることがあります。十日前後で發芽しますから、本葉二、三枚となつた時に前記同様の土に一寸間に一本づつ植替します。伸びが悪く様ならば油粕の極く薄く腐汁を施しますが、さもなければそのまゝとしてなるべく丈夫に苗を育てます。五月末には五寸位に伸びますから、六月上旬に二尺五寸間に六、七寸株間に千鳥に植込みます。

人によつて苗の選擇がまちまちの様ですが、親の葉よりも綺麗で切込の深いものが良い菊が出る様です。勿論特に悪くは捨てます。肥料として油粕、ゴミ土の類を用ひ、植付後は油粕の腐汁で宜しい。摘心して三本仕立位にしても又そのまゝでも良く、花は三花位開かせて見ます。これは種類によつて頂端に必ずしも良い花が開くと限らないからです。

〔新花の選定〕 開花を初めたら、花色、花瓣等を調べますが、花容が端正で花瓣の重ねが厚く質も硬く輪臺がなくとも、垂下らないのが良いのです。花色、輪の雄大性等も十分調べます。そして新花候補をいくつか挙げて、これを次年一般大菊と同様に培養上本作りして、更にその内から優秀なものを選び、これを新花として發表しますが、實生後一、二年では變化が固定しないのが普通ですから、少くとも三年たなければ新花として紹介しない方が良いでしょう。

出品競技花の作り方

出品競技花とは、出品盆養花即ち鉢作りのまゝ品評會に出品して、花ばかりでなく全體の姿態も合せて優劣を競ふものに對して申す言葉であります。花共に一尺八寸の長さに切取つて出品し、主に花容の整美と花莖の巨大さを以つて優劣を競ふものであります。故に草丈が如何に伸びやうと、下葉が一枚残らず落ちやうと一向構はぬ譯でありますから、栽培に當つて先づその點を頭において取掛つて戴きたいと思ひます。

培養法は大體一本仕立と同様であります。特に注意すべき點を二、三、次に申上げておく事に致しませう。

一、技術の練磨と研究を怠らぬこと

誰方でも品評會に出品した花の入賞を願ふ事は同じ事でありますから、今年こそ、来年こそはといふ風に競ひますため、勢ひ良い花がだん／＼増えて参りまして、現今では、どれもこれも似かよつた良い花が澤山に出品される様になりました。そこで昔の様に只外觀が大きいとか、色が冴えて美しいとかいふ位な事では、入賞は覺つなくなつたのであります。

即ち近頃の審査項目は、次第に複雑を極め、大きさや花色ばかりでなく、瓣質とか、氣品、花瓣の重なり具合など種々様々な項目で優劣を競はねばならぬほど、皆さんの腕が一率にあがつて來てゐるのであります。「どんぐり」の文競べといつたのが、大菊切花競技界の現状なのであります。

でありますから、單に自分丈で、「これはよく出來た」と悦に入つてゐるのなら兎も角、品評會で入賞する様な優秀花を作らうとするには、それだけ人一倍に、技術を錬り、また倦まず撓まず、研究に努力する事こそ、入賞の第一歩だと信じて疑ひません。

二、品種と鉢数を制限すること

競技花を作らうとされる方は、普通の鉢作りの一通りは終了されて居られませうから、いざ作る段になると慾が出て、自然と澤山の品種、種類を作り、鉢数を増すのが人情であります。併し品評會に於て優勝を目指す限り、これは絶対に慎しまねばいけません。

品種にはそれ／＼個性があり、種類が違へば猶更であります。故に品種と更に種類が多くなればなるほど、それ／＼に適した手入れを必要とする關係上、管理に不行届を生じ、必ず失敗するのであります。ですから、出來れば厚物なら厚物一種、細管なら細管と間管が長管の相似したものを二種といふ程度に止め、更にその種類の中でも色々な品種を選ばず、厚走なら「昭

和ノ光」、「東海の譽」、「平和」など十種か十五種位に限る事です。さうすれば自然と手入れが十分に行届きます。

けれども種類や品種を限つたとて、鉢数が多いと、同様に手入れ不十分となりますから、同一品種を二、三鉢から五鉢位作り、一人で三十鉢からせい／＼五十鉢位に限定して、それに全力を傾注するのが、入賞否優勝に邁進する一番賢明な策だと信じます。

三、斯ういふ品種を選ぶこと

古來より有名で名聲の落ちぬ品種か、最近の菊花品評會に於ける最新優秀花を狙へば間違ひは少ないのであります。人の氣付かぬ品種を探り出して作りたいと言ふのが人情であります。それも結構ですが、その場合に注意すべきは、宣傳に餘り乗ぜられず、一鉢でも二鉢でもよろしいから、一度作つたその上で、適當な品種を選択する様にしなければいけません。

その良否を決するには、先づ花の大きいことが第一の條件です。花が小さくては、他が如何によくても入賞は夢であります。けれども大きい許りで、花容の伴はぬ、また色彩の悪いものでは駄目であります。相當に大輪であると共に、色彩も美しく、なるべく單色で色が冴えて居り、更に花瓣がしつかりとしてだらけ氣味がなく、形が整然としてゐて、然もなんとなく氣品のあるものを選ぶ事が肝要です。

併し如何に花が立派で申分なくとも、性質が弱く、作り難いものは避けた方が安全です。丈夫で、作り易く、然も多肥に耐へ、ぐんぐん肥料を吸収して伸長し、大きな花の開くものでなくてはなりません。これは一年作つて見れば、大抵見當がつくものであります。

尙菊には早中晩と、咲き方に早い遅いがありますから、品評會のある期日に咲く種類を選ぶ事も大切です。十一月に開催されるのに十月中に既に咲き終つたのでは、それこそ骨折り損の草臥儲けになつてしまひます。

勿論この外に品種の選擇に當つて注意すべき事柄は澤山ありませうが、大體以上の點を十分吟味すればよろしからうと思ひます。

四、品種の個性を十分知つておくこと

人間でも同様であります。菊にも品種によつて多少づつ性質が異つて居りますから、その品種に最も適つた培養法を施す事こそ、緊要な事だと思ひます。この性質を知るには、他人の經驗を見聞する事も大切であります。第一は自分で作つて色々と研究を積む事であり、この品種は肥料を十分與へる方がいゝとか、少ない方が花が整つて咲くとか、早く挿芽を行つて莖を伸した方が、或は詰めて作つた時の方が優秀花が得られるといった案配であります。元來菊には、長く莖が伸びた時に初めて持前を十分に發揮する長幹性と、反對に短幹性とそ

の中間にある中幹性とあります。この競技花では別に全體の釣合をとる必要はないのですから短幹は短幹らしく、長幹は長幹らしく作る事が肝要です。

但し菊界にも異端者があり、短幹性であり乍ら、早く挿芽をして十分莖を伸した方がいゝものもありますから、その邊は品種々々によつて各自ご研究を願はねばなりません。

五、一本立に作ること

大菊の作り方には、一本立、三本立、五本立、七本立など色々ありますけれども、この場合には必ず一本立にして、中心の芽を何處までも伸し(柳芽の發生した時は別)、全力を一本の莖、一ヶの花に集中せしめる事が肝心で、勢力を餘り分散させてはなりません。

六、厚物は早挿を行ひ、多肥すること

厚物や厚走りは平均して、早挿即ち、短幹種は四月中旬、中幹種は五月上旬、長幹種は五月中旬に挿芽を行ひ、一本立でも少し大き目の一尺位の鉢に本植をなし、肥料も三本立同様に三合五勺ほど與へ、六尺内外に太莖を十分伸長させた方が、莖を細く然も三、四尺に伸長させたものより立派な花が得られ、且つ氣品に富む様であります。

七、管物は少し引締めて作ること

管物の類は、太管は間管に、間管は細管に、細管は針管と言つた風に、どちらかと言へば、

普通に咲くよりも猶一段と細く咲いたものほど入賞し勝な傾向がありますから、その心持ちで作る事です。肥料もぐんと控へ、鉢も七、八寸の小鉢を用ひ、多少引締め、肥料の力で作らず土と水の力で作る様にすれば、素直な、いゝ花が出来て参ります。

管物特に細管などを厚物同様な作り方を行へば、幹も太り、葉も大きくなつて、一見如何にも大きな、いゝ花が咲く様ですが、いざ花時になると花瓣が太く、瓣数が減じ、花こそ大きなものになりましても、瓣が亂れて花容は全く零になります。故に肥料を控へ、太管では一合五勺、細管では八勺位となし、幾分弱目に作る方が、却つていゝ成績が得られます。

八、管物は開花直前に日陰へ取入れること

管物は厚物と異り、満開となるのが早いものですから、走り瓣が出る直前に風の當らぬ日陰の花壇へ取入れて開花させます。特に白色のものは、瓣先に十分水が行渡らず、瓣先が傷みます。更に日光が直射したり、風が當ると一層甚しく、品位と優秀を兼ねた理想花を咲かせられぬからです。

九、花容を整へて出すこと

咲いたまゝでは到底形がよく整つたものは得られません。重なり瓣を直したり、燃れ瓣や長短の甚しい瓣は適當に取去つて、形を整へる事が大切でです。

大菊の切花栽培

〔和菊と洋菊〕ご承知のこと、思ひますが洋菊と和菊によつて、その性状や形態に相當の相違があります。和菊は鉢植として眺めるに良い様改良されて來ましたのに反し、洋菊は切花用として眺められて來たものです。従つて和菊は切花とした場合莖葉が細く弱いばかりでなく、花が大で莖葉との均合悪く、且つ花瓣がどんな品種でも多少、狂性を持つてゐて、性質も弱く、輪臺がないと花型が亂れ易いものです。

これに反し洋菊は切花として、莖葉も丈夫で花瓣が硬いから花も亂れず、花持も良く、花と莖葉との均合もとれてゐて、且つ水揚も良好です。尙和菊は戸外で作られてをりますため温室に入れると、露地の様に平均に十分に日光に當らない爲、花瓣が均齊に伸びず、而も上部の花が伸び難い傾向があります。ですから一般には切花栽培としては洋菊が宜しいが、和菊の中にも結構切花に向くものが、案外多數にあります。こゝで一言申上げておきますが、洋菊と云つても元をたゞせば日本在來の大菊が、向ふて切花向に改良されたに過ぎませんのですから、切花に適しない和菊でも、改良次第によつて、切花向となるでせう。

〔切花向の品種〕 外觀から云ふと、色彩の鮮やかな花弁の数の多い、球形に咲く様な品種が切花向です。併し作ると云ふ立場から考へて見ますと、病蟲に強いが弱いか、花付の良否、花梗が丈夫か、水揚げが良いか、開花期の早晚等色々な問題があります。

〔ミセスH・Eキツダー〕 花は鮮黄で草丈長く花首強く、盛上つて咲きます。

〔サングロー〕 露地、温室何れでも良く花は鮮黄で、作り易く、草丈は中位で抱へ盛上咲です。

〔ユナカ〕 淡紫色の抱咲幅廣瓣で瓣数は少ないが、性質強く花が早く、家庭向です。

〔アーリーピンク〕 厚瓣の上品な良い花ですが、病蟲に弱いのが何より缺點です。

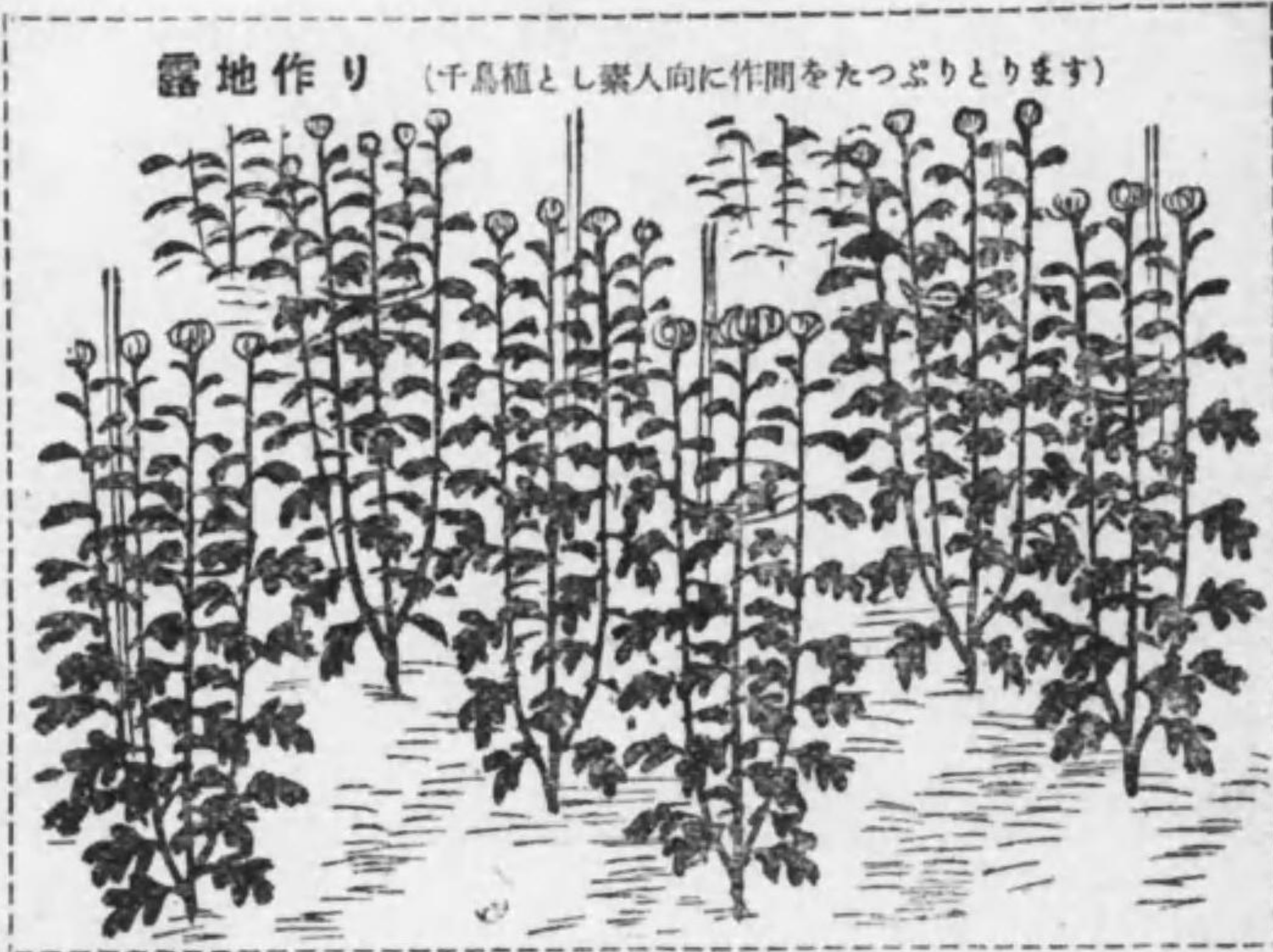
〔ターナー〕 白、黄、ピンク、ブロンズ等花色が豊富で、瓣の多い優良種です。

露地の切花作り

〔作る場所〕 東南に面する日當良好の地下水の比較的高い強風の當らない所で、夏は西日が強くなく且つ早くかける場所が宜しい。ゴミ土の様な肥えた所で稍々締つた土地が、花持の良い、花首のしつかりした、良い花が得られます。去年植えた所は成るべく避けませんが、止むを得ず連續作る時には灰を一株に二掴み程與へます。

〔肥料〕 植付ける際はゴミ土、油粕、過磷酸石灰、骨粉、草木灰等を一ヶ月前位から施し、十分腐熟せしめておきます。植付後活着した時硫酸軽く一握りを一斗の水に溶して與へ、其の後

露地作り (千鳥植とし薬人向に作間をたつぶりとります)



生育中に油粕腐汁を五、六倍に薄めて施します。花蕾を見てからは、過硫酸石灰軽く一掴みを一斗の水に溶かして與へます。

〔苗の育て方〕 花後株を掘上げて、ゴミ土、木灰等を與へた暖い所に植ゑ込み、屋根型の防寒をし、一、二回油粕の腐汁を與へて丈夫な苗を作ります。この芽を早生は三月下旬より、晩生の極く晩いのは、七月下旬迄續いて挿します。挿穂は成育中庸で節間短く莖の硬化してないもので、これを二、三寸の長さに切つて用ひますが、勿論天芽を挿します。切口は乾かさな

い様に水又は一割内外の砂糖溶液中に浸し、天氣の良い早朝から午前十時頃迄に挿します。

挿芽床は軽い畑土に少し砂を加へるか、鹿沼土に二割の水苔を加へ、二、三寸間に深さ七、

八分に挿し軽く用土を指先で壓へておきます。

〔植付〕 普通早生は六月上旬、晩生は六月下旬頃に植えます。二尺五寸の作間として、六七寸株間に千鳥植が宜しい。植付後一―二週間は毎日灌水します。

〔摘芯と芽掻〕 普通一株四―七本立、大輪ボン／＼咲は五―一〇本立とします。第一回摘芯は地上三、四寸に伸びた時、その後又二、三寸伸長した時第二回を、第三回を行ふ場合は更に二三寸伸長した時、芯先のみを爪先で丁寧にとります。芽掻は必要仕立本数以外の芽と托葉を、成るべく早期に掻き取ります。時として八月中下旬に（時には六月又は九月頃）頂芽に柳の葉の如き葉をつけた俗に柳芽と云ふものが、出ることがありますが、これが出たら速に取ります。取るのが晩すぎたり、又眞蕾（先が丸い）と間違へて取らない様にします。

柳芽の摘み取りが晩れると、其の部分が極度に曲り見苦しくなります。この柳芽は挿芽が早過ぎたり、餘り軽い土壤で作つた時とか、土壤が著るしく乾いた時におこり易いものです。〔花蕾の選び方〕 蕾の位置によつて花の大きさ、花型、開花期等に多大の影響のあるものです。普通眞蕾を開かせると、花瓣の数も多く花型も良く、開花も早い、側蕾ですと良い花が咲き難いものです。従つて眞蕾以外全部除くのですが、その要領は最初眞蕾と側蕾の一つを残し、眞蕾が大豆大となつて、安心となれば側蕾を取つて眞蕾一つとします。

〔其の他の管理〕 土の表面が餘り固まり過ぎたり、草が生えてはいけませんから、七、八月頃一、二回上土を軽く柔げ、且つ草をとります。そして根元に藁を敷き乾燥を防ぐと共に、雨や灌水の爲等て下葉に土のかゝらぬ様にします。夏餘り乾燥する時は、日中を避け夕方に如露等で灌水してやります。

〔花の切り方〕 花は餘り早く切ると完全に開かない場合があるし、又晩すぎるとおきに花が悪くなつて了ひますから、最後まで完全に開く時期に切ることが大切です。早生は花芯を現し易いから三―四分咲の時、中生は四―五分咲、晩生は六―七分咲、特に大輪は八分咲位が宜しい。

簡易温室に於ける切花作り

露地栽培と重複する點は避けて申し上げます。

簡易温室作り (鉢植として生育中のもの)



〔培養土と肥料〕 一例を申し上げますと、稍々重い畑土にゴミ土を等量に混ぜ、少量の骨粉、木灰、過磷酸石灰を加へて十分腐熟せしめておきます。尚温室内は戸外より温度が高く、肥料の分解が早いから、露地よりも肥料分を少くして、あとから肥料を補ふ様にします。又置肥と云つて粉末のまま、油粕を苗を植ゑた時、土面に置くこともあります。開花前硫酸、過磷酸石灰の薄い肥を花肥としやります。併し花の咲く頃まで餘り過肥すると花瓣が落ちることがありますから注意して戴きます。

〔植付から開花迄〕 温室作りの場合は戸外の様になると晩くなるまで待つ必要なく、何時でも挿芽が出来ますが、通常十二月―二月の頃温室内のベンチに四寸位川砂を入れて挿します。室温は夜間五十度位が良く、日中暑過ぎる時天窗あける位で十分で、餘り蒸暑くならない様又乾燥し過ぎない様に注意しますと二週間位で活着します。これを二寸鉢に取り、其の後ベツトに植ゑるか、又は鉢に順次植替へて行きます。

〔其の他の管理〕 側芽を除き病蟲を驅除すること等は大切な仕事で、露地の場合と變りません。開花期が近づいたら晝夜の温度の差を激しくして、蕾が出る頃は恰度秋の様な氣候にしてやるのが大切です。多濕にならない様、蚜蟲は硫酸ニコチンで、赤蝨はウエノトロン等で驅除すると宜しい。

大菊栽培十二月月

一 月

初めにお断りしておきますが、以下申上げる點は東京地方の氣候を標準にしたものでありますから、他の地方に於てはその土地の寒暖に應じて多少の手心を必要とします。

培養土の切返し 培養土として前年の秋のうちに堆積してあるものをよく切返しやりま

す。米糠を混合してあれば腐熟を一層早めて好都合です。
根分苗の防寒 十二月初めに根分けした根分苗は根下しが不十分ですから、南方を開けて他の三方を菰などで圍ふか、出来ればフレームに入れてやるとよろしい。併しフレーム内は兎角蒸れ易く、芽先を腐らせるおそれがありますから換氣を十分にすること。又フレーム外のも

のは特に霜除を完全にすることが大切です。
肥料の製造 この月は開てもあり、寒い時ですから蛆などの湧く心配もありませんから、肥料を造るのに、時期です。乾燥肥料と水肥とを兩方拵へるがよろしく、造り方は人によつ

て區々ですが、一例をあげれば、
 油粕——八升、米糠——三升、薬灰——二升、土——一斗
 となります。この割合に混合したものへ適度の水を加へて（濕氣をもたせる程度に）よく混
 合せ、箱に入れて密閉醗酵させ、二週間ほど経つてまた水を加へて再び醗酵させます。
 水肥の一例。油粕又はメ粕一升と水五升位の割合に混ぜて醗酵させ使用の都度適度に薄め
 て施します。尙大菊の肥料としては乾燥肥料の方を主要肥料とし、水肥は補ひとして用ひ人に
 よつては全然水肥を使用しない人もあります。

二月

その他の管理 前月同様根分苗の保護を十分にすることと、堆積しておいた培養土をもう一
 度十分に切返してやります。尙時々白水をかけてやるとよろしい。度々切返すことはその腐熟
 を十分にさせる効果があります。

三月

春の根分 根分は十二月の初めか春のお彼岸頃か何れかに行ひます。根分苗は一、二寸のも

のが最も適当な大ききで、分けたら直ちに五、六寸の仕立鉢に三、四本宛培養土で植ゑるか一
 本づゝ植込む場合は三寸鉢を使用します。この時白根が長ければ一、二寸の長さに切詰めます。
 十二月頃に根分けしたのもも徒長を防ぐために根を切詰めて鉢に植込みます。

殺蟲、灌水、施肥 根分移植に際しては、薬劑を撒布して莖葉を消毒して下さい。
 灌水は表土の乾きに應じて如露で一日に一、二回行ひます。尙發育の遅れたものには薄い
 水肥を施すとよろしい。若し伸びすぎのおそれある時は細根を切詰めてやると徒長を防ぐこと
 が出来ます。

苗の蒐集 菊苗を蒐集する好期です。その苗が遠方から送られて來たりして、弱つてゐるも
 のは一時水に浸して元氣を回復してから植付けねばなりません。そして活着するまでは適當の
 保護が大切です。

四月

培養土の調製 先きに堆積しておいた培養土が適當に腐熟したならば日光で十分乾してから
 三分目の篩にかけ、粗い土や塵芥を除いて、これに田土とか薬灰又は燐炭もしくは木炭粉末な
 どを少量混ぜて、完全な培養土を拵へます。

施肥と摘芯 根分苗は五月から順次挿芽や吹直しに取掛りますから、その準備として四月上旬に乾燥肥料を鉢の上に置いてやるか、或は時々水肥を與へて勢力をつけて摘芯しておきます。灌水は乾き具合によつて適當に與へます。

五月

挿芽と吹直し 三本仕立とする場合五月といふ月は挿芽の好期です。併し種類によつて多少の早晚はつけなければなりません。今一例を示せば

三本立の場合——短幹種は五月一日頃、中幹種は五月十五日頃、長幹種は六月五日頃
一本立の場合——短幹種は六月一日頃、中幹種は六月十日頃、長幹種は六月十五日頃
とします。挿芽の方法については別項挿芽の仕方をご参照下さい。

尚挿芽を取つた臺木は摘芯して吹直させます。吹直しの方法もこゝでは省略します。

中鉢に移植 この月の下旬に、三本立用の短幹性の挿芽及び吹直し苗を五、六寸の中鉢に移植します。鬚根の長いものは適當に切込んで植込み、鉢の兩側に乾燥肥料を小匙に一パイほど入れますが、この時肥料が根に直接觸れぬやうにすることが肝要です。

害虫駆除 この頃のやうな小苗の時に害虫の豫防驅除を行つておけば、仕事も容易で且つ完

全ですから、信用のある薬劑を薄めて撒布します。この薬劑撒布はなるべく夕方か日陰で行ふやうにします。直ちに日光に直射させると芽先を害するおそれがありますから。主なる薬劑としてはリクイドデリス石鹼、ネオトン、ウエノトロンなどがあります。

六月

中鉢への移植 三本立用の中幹、長幹性の挿芽や吹直し苗を五、六寸鉢に移植します。

實生苗の鉢上げ 實生苗の本葉が五、六枚になつた時に、薄い水肥を一、二回施して七、八枚の頃に中鉢に鉢上げするか、又は露地に移植します。なるべく深植とするがよろしい。

三本立の摘芯 苗が大體四、五寸に成長した時に三本仕立とするための摘芯整姿を行ひます。先づ芽先を少し摘んでやり、後から出て來た芽の中から三本揃つたものを殘して他は掻取ります。そして三本の幹を三方に誘引するのです。注意することは無理曲げして枝を折つたり三つ又を裂かぬやうにすること、これを行ふのは晴天の日中がよろしい。

一本立の中鉢移植 下旬から七月中旬にかけて挿芽活着した一本立用の苗を五、六寸鉢に移植します。

その他の注意 摘芯の時は葉も少く洗ひ易いですから薬劑を撒布して蚜蟲、スリップの根絶

を期すること。殊にこの時期はスリップに注意を要します。それからこの月は最も技巧を要する時ですから、初心者には先輩を訪問して實地に見聞する必要があるとあります。

七月

本鉢に定植 今月の中旬が本植の好期です。苗の根張りの具合を見て順次行ひます。植込の方法は別に述べませんが、要するに水排けをよくすることが最も大切で、この時乾燥肥料を元肥として鉢に入れます。鉢は普通九寸鉢を使用します。

一本立の本植 七月下旬から八月 上旬にかけて八寸鉢に本植し、元肥は鉢に應じて加減すべきですが、一本立は大體三本立の半量位でよろしい。

害蟲驅除 七月中は害蟲が盛んに跳梁する時ですからその豫防驅除を勵行して下さい。

八月

假竹立て 本竹を立てるべき位置を選んで、約三、四尺のものを立て、これに幹を結付けますが、この時三叉を裂かぬやうご注意下さい。

追肥の與へ方 鉢内の養分には限りがありますから發育に従つて肥料を與へねばなりません。

ん。その分量は人によつて區々でせうが、前記のものであれば、三本立一鉢につき乾燥肥料二合(但し特に肥料を好む厚物系のあるものは三合位與へ、間管、細管は二合以下)を適量としこれを三回に施します。施肥の一例を記せば、

第一回 乾燥肥料五勺(八月 上旬)、第二回 一合(八月 中旬)、第三回 五勺(八月 下旬)とし、一本立の場合八勺を同様に配分して施します。

一文字菊は第二回、第三回の肥料は全然與へぬ方がよろしい。時々水肥で補ふのが安全です。第三回目の肥料を止肥といひ、必ず八月二十五日前後に施して、肥料を打切ることが大切です。尚乾燥肥料を與へた後では増土といつて、新たに土を足しておきます。

殺蟲、灌水 今月に入ると小豆蟲が發生して夜間盛んに葉や芽先を喰荒しますから、夜分時懐中電燈を持つて見廻り、見付次第捕殺するやうにします。灌水は多すぎても少なすぎてもよろしくありませんが、今月は日光も強烈で土の乾燥が激しいですから、灌水は特に怠らずにやつて頂きます。

柳芽の除去 八月 中旬から九月 上旬にかけて、芽先の發育が止まつて蕾のやうなものが出来ませんが、これを柳芽といつて殆んど開花しませんから、掻取つて脇芽のうちで勢力のよい枝を一本残すやうにします。この柳芽は二回出ることもあり、全然出来ないこともあります。